
環境学習施設レポート

平成19年9月

環境学習施設ネットワーク

はじめに

環境学習施設ネットワークは、地域における環境学習施設が果たす役割の重要性に着目し、行政機関、環境学習施設の関係者、学識経験者などとの連携の下に、情報提供、研修交流、調査研究などの事業に取り組んでいます。

さて、90年代以降各地域において環境学習を目的とした施設が盛んに建設されましたが、近年こうした施設における活動の充実、いわゆる「ソフト」の重要性が認識されるようになり、近年の厳しい財政状況にも関わらず、様々な取り組みが行なわれています。

こうした環境学習施設の国内の現状についてハード・ソフトの両面にわたって把握するため、環境省のご協力を得て、平成18年10月に「環境学習施設に関する調査」を実施いたしました。

この調査では、環境学習施設の設置状況、運営体制、事業内容等の全体像の把握に加え、サンプルを絞って運営方法、学習体系、展示内容、啓発事業など具体的な活動内容も調査し、総合的な把握を試みました。

この報告書は、今回の調査結果を集計・分析したもので、今後の環境学習施設の運営に資することを目的としています。

調査の実施にあたっては、各都道府県をはじめ全国の地方公共団体担当者の方々、そして環境学習施設運営者の方々に多大なご協力をいただきました。この場を借りて深く感謝申し上げます。

この調査の成果が、各地域の現場で取組む方々の参考となり、環境学習施設の活性化に少しでもお役に立てれば幸いです。

なお、この調査は、(独)環境再生保全機構の「地球環境基金」から助成を受けて実施したものです。

平成19年9月

環境学習施設ネットワーク

目 次

調査の目的と方法	7			
1. 自治体の環境教育への取り組み状況	9			
1-1 環境教育への取り組み	11			
回答自治体の概要・・・11	環境教育に関する条例等の策定・・・12	自治体独自の環境教育・・・13	環境教育プログラムの利用意向・・・14	
1-2 環境学習施設の開設	15			
環境学習施設の有無・・・15	NPO等の参加の重要性・・・16			
1-3 貸し出し展示物	17			
貸し出し用展示物の利用意向と共同開発への参加意向・・・17				
2. 環境学習施設の設置状況と運営体制	19			
2-1 環境学習施設の設置状況	21			
環境学習施設の施設タイプ・・・21	環境学習施設の設置主体別施設数・・・22			
施設タイプ別施設設置数の推移・・・23	設置主体別施設設置数の推移・・・25			
施設面積・・・26	来館者数・・・27	主たる対象者・・・28	年間展示予算・・・29	施設のテーマ・・・30
2-2 運営体制	32			
環境学習施設の運営形態(直営・委託)・・・32	職員数・・・33	住民・NPOの関わり・・・34	運営課題・・・35	
2-3 啓発事業	36			
事業内容・・・36				
2-4 展示物	37			
展示物概要・・・37	貸し出し展示物・・・38			

3 . 環境学習施設運営の具体的実施状況	4 1
3-1 運営体制	4 3
市民会議からの展開 (北区エコ広場館) ……4 4	NPOとコンサルタントのリソース共有(長池公園自然館) ……4 5
市民ネットワークのNPO (エコギャラリー新宿) ……4 6	
3-2 学習体系計画	4 7
多様な工房活動 (千里リサイクルプラザ) ……4 8	環境問題の全体像からの学習(札幌市環境プラザ) ……4 9
地域の公害克服と地球環境問題を連続させる (北九州市環境ミュージアム) ……5 0	自然環境の保全と活用 (長池公園自然館) ……5 1
リサイクル文化の場づくり (北区エコ広場館) ……5 2	分別工場見学とリサイクル講座(しものせき環境みらい館) ……5 3
インタープリターによる展示解説(ストップおんだん館) ……5 4	双方向シアターとワークショップ (名古屋市環境学習センター) ……5 5
3-3 ネットワーク	5 6
幅広い環境情報の発信(地球環境パートナーシッププラザ) ……5 7	道域ネットワークの活動 (北海道環境サポートセンター) ……5 8
なごや環境大学との連携 (エコパルなごや) ……5 9	学校との協力(北九州市環境ミュージアム) ……6 0
企業・学校・地域団体とのネットワーク (エコギャラリー新宿) ……6 1	市民団体の組織化 (えこ・あくしゅん江東) ……6 2
ボランティアとの連携 (京エコロジーセンター) ……6 3	
3-4 評価と改善	6 4
自治体による指定管理者の評価 (エコギャラリー新宿) ……6 5	外部委託評価(すぎなみ環境情報館) ……6 6
アンケートとアドバイザー会議の実施 (ストップおんだん館) ……6 7	施設テーマの見直し ゴミからエコへ(目黒区エコプラザ) ……6 8
施設の位置づけの見直し ベースキャンプ化(板橋エコポリスセンター) ……6 9	
3-5 啓発・学習活動	7 0
地球温暖化問題 ……7 1	自然エネルギーの活用 (京エコロジーセンター) ……7 1
「南の島体験ゲーム」 (北海道環境サポートセンター) ……7 1	「電気な人はだれ？」 (北海道環境サポートセンター) ……7 2
物質循環の確保と循環型社会の構築 ……7 3	多様なリサイクル教室 (しものせき環境みらい館) ……7 3
リサイクル手芸 (北区エコ広場館) ……7 3	自転車工房 工作教室 (千里リサイクルプラザ) ……7 4
「ごみ分別で、ゴミラをたすけ君！」 (エコ・アクション江東) ……7 5	生物多様性の保全 ……7 5
自然体験観察園 (生き生き地球館) ……7 5	自然観察会 (えこ・あくしゅん江東) ……7 5
「タネのふしぎ」 (えこ・あくしゅん江東) ……7 6	科学物質の環境リスク ……7 7
水とわたしたちの生活 (新潟県立環境と人間のふれあい館) ……7 7	その他 ……7 8
エコマップ(エコギャラリー新宿) ……7 8	「砂町のエコトレジャーを探せ」 (江東区エコリサイクルハウス) ……7 9
エコマネーの活用 (名古屋市環境学習センター) ……7 9	地域の環境を考える「しものせき竹取物語」(しものせき環境みらい館) ……8 0

3-6 展示物 81

地球温暖化問題・・・82 「持てるかな」、「かくかくしかじかおんだんか」、「ならべてみよう」(ストップおんだん館)・・・82 人力発電マシン(京エコロジーセンター)・・・83
3 気づきと学びのコーナー(京エコロジーセンター)・・・83 京都議定書の2回目のハッピーバースディ(京エコロジーセンター)・・・84 節電とCO2(札幌市環境プラザ)・・・84 物質循環の確保と循環型社会の構築・・・85 ゴミの分別クイズ(札幌市環境プラザ)・・・85 ものの一生(板橋区エコポリス)・・・85 「ゴミ箱で見るごみの変化」(えこっくる江東)・・・86 日本人一人の年間の紙の使用量(いきいき地球館)・・・86 都市の大気環境の確保・・・87 北九州地域の大気汚染(北九州市環境ミュージアム)・・・87 健全な水循環の確保・・・88 水の流れ(北九州市環境ミュージアム)・・・88 洞海湾に関する展示(北九州市環境ミュージアム)・・・88
雨と水循環(すみだ環境ふれあい館)・・・89 雨と大気汚染(すみだ環境ふれあい館)・・・89 水系図(いわて環境学習交流センター)・・・90 水循環の把握のための展示(新潟県立環境と人間のふれあい館)・・・90 生物多様性の保全・・・91
来館者と公園の自然をつなぐ情報の提供(長池公園自然館)・・・91 自然観察マップ(板橋区エコポリス)・・・91 化学物質の環境リスク・・・92 新潟水俣病のメカニズムについての展示(新潟県立環境と人間のふれあい館)・・・92 その他・・・93
「暮らしの博物館」(北区富士見台エコー広場館)・・・93

3-7 指導者養成 94

エコメイト養成講座(京エコロジーセンター エコメイト)・・・95 エコリーダー養成講座(エコギャラリー新宿)・・・95

参考資料

ヒアリング調査施設 99
アンケート回答施設一覧 105
アンケート調査票 118
環境学習施設ネットワーク(ELCNet)とは 124

調査の目的と方法

(1)調査の目的

近年、環境学習を目的とした施設が各地に建設されており、地域において環境学習施設が「環境保全意欲の増進」のための中核拠点として機能することが期待されている。今後環境の保全に関する人材育成を進める上で、これらの施設が期待された役割を十分に発揮することは極めて重要となる。

この調査は、こうした環境学習施設の状況をハード・ソフト両面にわたって調査を行い、データを集積、分析することにより、今後の地域における環境学習の充実に資することを目的として実施された。特に多くの施設が課題を抱えていると予想される展示に関して共有化・共同開発する可能性を模索しようとするものである。

(2)調査の方法

この報告書は平成18年10月から12月に実施した「環境学習施設に関する調査」の集計結果をとりまとめて分析したものである。

「環境学習施設に関する調査」では2種類の調査を行った。

第1の「環境教育の現状・環境学習施設についての調査」は、環境省環境教育推進室のご協力をいただき、全国全ての地方公共団体(都道府県・市区町村)に調査票を配布し、自治体の環境教育の実情と施設設置の関係について集計した。自治体の環境教育の実情については、地方公共団体の環境教育担当課に、また個別の施設へは当該施設を所有する地方公共団体から調査票を配布、収集する形をとった。環境学習施設は明確な定義がないため、各自治体が環境学習施設と位置付けている施設を調査対象とした。調査内容は施設の基礎的情報、住民参加を含めた運営状況、啓発事業の内容、及び展示物の内容等についてである(調査1)。

2番目の調査は、ソフト面のより具体的な状況を把握するため、調査対象施設を任意に選出し、記入式アンケートとヒアリング調査を実施した。選出した施設は、政令市、特別区の施設を中心とした国内でも代表的な事例で、今回は都市生活系の環境学習を行なっている施設を重点的に調査した。調査は報告書作成委員が分担して直接面接形式で行い、運営方法、各種ネットワークの構築、啓発事業、展示物等の状況についてヒアリングを行った(調査2)。

何れの調査も、運営に関する情報や、展示物の更新等に大きな課題を抱えると予想される環境学習施設が、ノウハウや展示物の共有化あるいは共同開発等の方法によって課題の解決をし合えることを念頭に置いて組み立てた。

(3)報告書の作成にあたって

今回の調査では類型方法が確立されていない多様な施設が含まれているが、その中で環境学習施設の全体像と運営状況に関する詳細情報を体系的に解説することを試みている。

報告書は3章から成っている。

1章と2章は調査1の集計結果を取りまとめている。1章は自治体の環境教育関連課に主に環境教育の施策と施設開設について尋ねた質問事項に沿って集計結果をとりまとめ、自治体の種別を軸に分析を行なった。

2章は自治体の環境教育関連課が環境学習施設と位置付けている施設に、担当課を通して質問票を送り、環境学習施設の趨勢と運営課題、啓発事業、展示物、貸し出し展示物等の状況について尋ねている。1章と同様、アンケートの質問項目に沿って集計結果をまとめ、4つの施設タイプを軸に分析を行なった。

3章は調査2のヒアリング結果を「運営テーマ毎」に分類して取りまとめている。調査の途上で施設毎に取りまとめることも検討したが、典型事例として1つ1つを紹介するよりも、テーマを絞って紹介し、テーマの中で様々な施設を横断的に比較するほうが個々の施設の取り組みが理解しやすいと考えた。3章の各項の冒頭で、各事例の位置づけに関する説明を付した。

運営テーマはどのような種類の施設にも共通する重要なものとして、「運営体制」、「学習体系計画」、「ネットワーク」、「学習の実践と評価」、「啓発・学習活動」、「展示物」、「指導者養成」の7つを選んだ。また、「啓発・学習活動」と「展示物」に関しては、環境問題の分野によって事業、展示物の内容を分類した。この分類は国の第3次環境基本計画の重点分野政策プログラムから引用している。

なお本報告書では、環境学習施設を以下の4つの施設タイプに分けた。「リサイクルプラザ」は廃棄物処理施設や再資源化中間処理施設に併設するリサイクル啓発施設、「リサイクルプラザ以外のリサイクル・環境保全の啓発・学習・交流施設(以下リサイクル・環境保全施設)」はリサイクルの啓発や環境学習等を目的とした都市生活系の施設、「自然への理解、環境保全のための啓発・学習・交流施設(自然の理解・保全施設)」は野外活動センターやビジターセンター等、自然系の体験・学習施設、「その他」は上記のいずれにも分類されない施設で、情報拠点や博物館的施設等が含まれている。

また、集計にあたっては、無回答の欄も多数あったが、できるだけ多くの回答を結果に反映させるため無効票を最小限に留めた。質問によって総計が異なるのはこのためである。回答にご協力いただいた施設の一覧を巻末に付した。

1.自治体の環境教育への取り組み状況

1-1 環境学習への取り組み

1-2 環境学習施設の開設

1-3 展示物

1-1環境教育への取組み

回答自治体の概要

今回の調査では環境教育への取組み、環境学習施設の開設、ならびに展示物制作の状況について1890自治体の環境政策担当課にアンケートを発送し、1228自治体から回答があった。回答の内訳は、都道府県42、政令市12、市548、特別区21、町487、村110、無効8で、64.5%の回答を得た(表1)。

【表1】 回答自治体の内訳

自治体	発送数	回答数	回答率(%)
都道府県	47	42	89.4
政令市	15	12	80.0
市	764	548	71.7
区	23	21	91.3
町	844	487	57.7
村	197	110	55.8
総計	1890	1220	64.5

環境教育に関する条例等の策定

回答自治体のうち、環境教育に関する条例、基本方針、計画等(以下環境教育条例等)の制定について尋ねた結果が〔表2〕である。都道府県で8割が、政令市で約6割、区で4割弱の自治体で条例等の制定を行なっているが、市で21.7%、町村では10%以下であった。市町村の環境教育に関しては、条例を制定するまでの取組みには至っていないことがあきらかになった。

〔表2〕 環境教育に関する条例、基本方針、計画等を制定している自治体の割合

自治体	制定している	制定率(%)
都道府県	34	80.9
政令市	7	58.3
市	119	21.7
区	8	38.0
町	43	8.8
村	4	3.6
総計	215	17.6

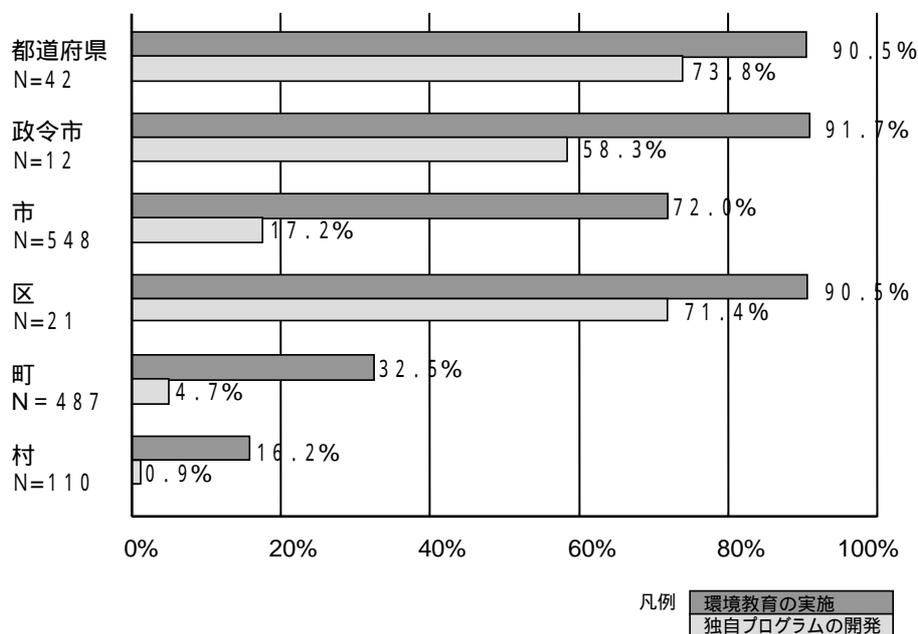
自治体の独自の環境教育

自治体が実施している環境教育について、1)一般住民に対して、出前授業等の環境教育を独自で行っているか、2)環境学習に関する教育プログラムを独自で制作しているかについて尋ねた結果が【図1】である。

一般住民に対する環境教育を行なっている自治体は都道府県、政令市、区で9割、市も7割に上った。一方自治体で独自環境教育プログラムを制作している割合は、都道府県で7割、政令市で6割弱、市で2割弱となっている。独自に教育プログラムを作成している自治体の割合は環境教育を実施している割合よりも2割から5割少なく、特に市部で開きが大きかった。

独自の環境教育プログラムの有無の結果は、前頁の環境教育条例等を制定している自治体の割合と類似していたため、両者の関係を比較した(【表3】)、独自のプログラムを開発する自治体の半数強は環境教育条例等を策定しているものの、必ずしも関連性があるとは言えなかった。

【図1】 住民向け環境教育の実施の有無 独自の環境教育プログラムの有無



【表3】 環境教育条例等と独自プログラムの関連

		独自プログラム 有り	独自プログラム無し	無回答
環境教育条例等	有り	87	128	0
	無し	79	924	2

環境教育プログラムの利用意向

住民に対して環境教育を行なう場合、環境教育プログラムや環境教育教材があれば利用するか、という問いに対する回答が[表4]である。全体としては8割の自治体が利用意向があり、都道府県、政令市、区ではほとんどの自治体が、市町村で8割が利用したいと考えていた。

前頁の結果を含めると、環境教育プログラムの独自開発を行っていない自治体も、開発をすでに行っている自治体も、利用可能なプログラムがあれば利用したいと考えていることが明らかになった。

【表4】 回答自治体の内訳

自治体	活用したい	活用したくない	無回答
都道府県	40	1	1
政令市	11	1	0
市	480	63	5
区	20	0	1
町	357	120	10
村	73	36	0
総計	981	221	18

1-2 環境学習施設の開設

環境学習施設の有無

環境学習施設の有る自治体数をまとめたのが【表5】である。国内の約25%に当たる、313の自治体が環境学習施設があると答えた。都道府県、政令市はほぼ全て、区は6割、市は34%に当たる187自治体、町・村では約1割の自治体が施設を整備していることが判った(具体的な施設数については、次章を参照)。

これらの施設の自治体内での位置づけかを調べるため、環境学習施設がある自治体の中で、環境条例等を制定している自治体数を【表5】に付記した。都道府県は施設保有率と条例等制定率が高いため、施設のある半数以上の自治体が環境教育条例等を制定しているが、施設がある自治体の内、環境条例等を定めているのは、政令市・区では、5割前後、市町村では3割～2割に留まった。

また、今後の環境学習施設の整備予定について集計したのが【表6】で、2006年度時点で96の施設整備の予定があることが判った。

【表5】自治体の環境学習施設の有無

自治体	環境学習施設がある	環境学習施設があり、かつ環境教育条例等がある
都道府県	39	31
政令市	12	7
市	187	63
区	16	7
町	52	11
村	7	2
総計	313	121

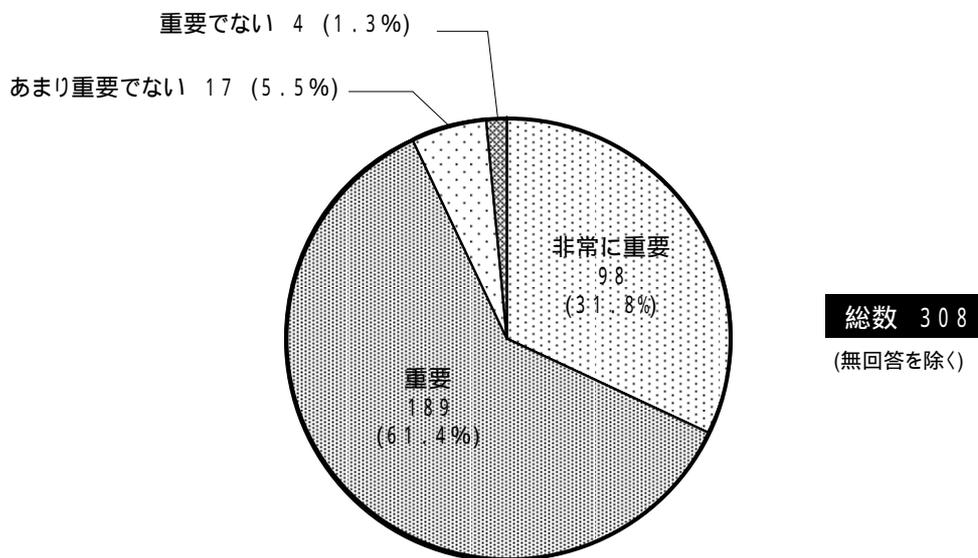
【表6】環境学習施設の整備予定がある自治体数

自治体	施設数
都道府県	6
政令市	2
市	67
区	6
町	15
村	0
総計	96

NPO等の参加の重要性

地域住民やNPO等の運営への参加は重要か、という問いについて、環境学習施設がある自治体の結果を集計したものが【図2】である。非常に重要と考えている自治体の割合は30%を超えており、非常に重要、重要を合わせると、9割以上が重要であると考えていることが判った。自治体別では、大きな偏りはなく(表7)、施設運営にどのように地域住民やNPOを参加させていくかは自治体に共通するテーマであることが改めて明らかになった。

【図2】NPO等の参加について



【表7】NPO等の参加が非「常に重要」、「重要」と答えた自治体の種別

自治体	非常に重要	重要
都道府県	11	26
政令市	6	5
市	64	110
区	5	10
町	10	35
村	2	3
総計	98	189

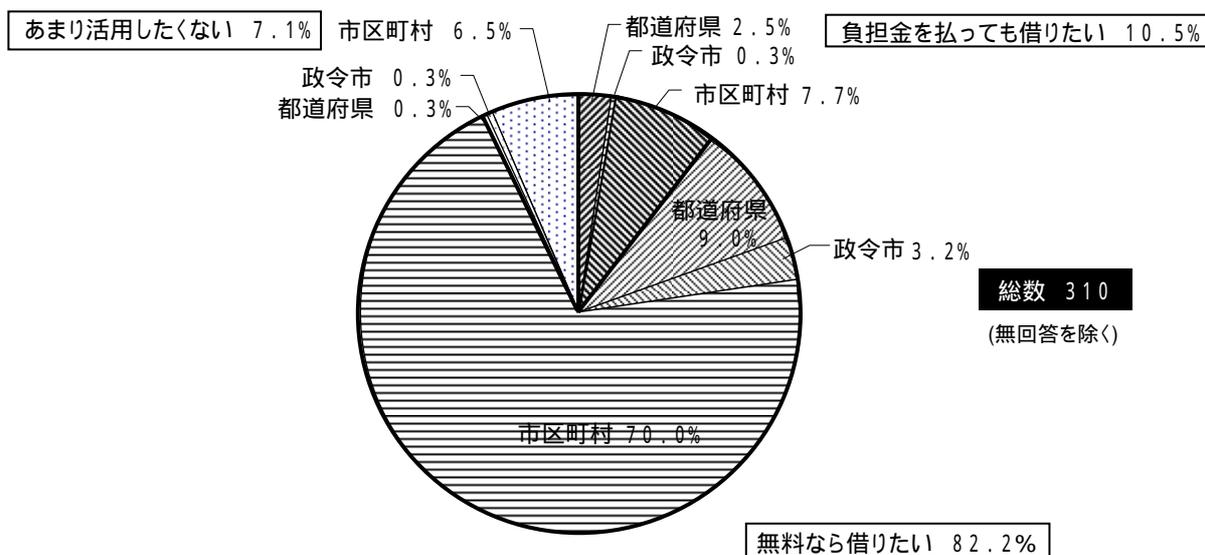
1-3 貸し出し展示物

貸し出し用展示物の利用意向と共同開発への参加意向

環境学習施設の有る自治体に対して、貸し出し用展示物の利用意向について集計したのが【図3】である。「質が良ければ多少の負担金を払っても借りたい」が全体の1割、「借りたくない」が1割弱で、残りの8割は「無料なら借りたい」という結果となった。都道府県、政令市、市区町村の割合は大規模自治体程「負担金を払っても借りたい」意向の割合が若干多くなるものの、何れも同程度となっている。

さらに、他の自治体と共同して開発することにより高い質のプログラムが開発できるのであれば、展示物の共同開発に参加する意思について集計したものが【表8】で、14の自治体が参加意思を示し、66%の自治体が状況によって検討する意思があることが判った。

【図3】貸し出し展示物の利用意向



【表8】展示物の共同開発参加意向

	都道府県	政令市	市区町村	総計
参加したい	3	2	9	14 (4.5%)
状況によって検討	30	6	170	206 (66.5%)
わからない	5	3	60	68 (21.9%)
あまり参加したくない	0	1	21	22 (7.1%)

2 . 環境学習施設の設置状況と運営体制

2 - 1 環境学習施設の設置状況

2 - 2 運営体制

2 - 3 啓発事業

2 - 4 展示物

2-1 環境学習施設の設置状況

環境学習施設の施設タイプ

本報告書では、環境学習施設を4つの施設タイプに分けた。「リサイクルプラザ」は廃棄物処理施設や再資源化中間処理施設に併設するリサイクル啓発施設、「リサイクルプラザ以外のリサイクル・環境保全の啓発・学習・交流施設(以下リサイクル・環境保全施設)」はリサイクルの啓発や環境学習等を目的とした都市生活系の施設、「自然への理解・環境保全のための啓発・学習・交流施設(自然の理解・保全施設)」は野外活動センターやビジターセンター等、自然系の体験・学習施設、「その他」は上記のいずれにも分類されない施設で、情報拠点や博物館的施設等が含まれている。

自治体が環境学習施設と位置づけている526館をタイプ別に集計したのが[表9]である。内訳はリサイクルプラザ158館、リサイクル・環境保全施設68館、自然の理解・保全施設214館、その他86館となっている。リサイクルプラザとリサイクル・環境保全施設を都市生活系の施設とみれば、都市生活系と自然系が各々4割を占めており、残り2割がその他施設となる。

【表9】 環境学習施設のタイプ別施設数

施設タイプ	施設数
リサイクルプラザ	158
リサイクル・環境保全施設	68
自然の理解・保全施設	214
その他の施設	86
総計	526

環境学習施設の設置主体別施設数

環境学習施設の施設タイプの分布を設置主体別に集計したのが【表10】である。

都道府県では自然の理解・保全のための施設が6割以上を占め、その他の施設が3割を占めた。自然の理解・保全のための施設が多いのは公園のビジターセンターや野外活動センター等が多いことが影響している。また、その他には、科学館的な大規模施設が多く含まれている。

政令市では、4つの施設タイプが同程度あった。

市区町村ではリサイクルプラザ(40.0%)、自然の理解・保全施設(35.2%)が多かった。リサイクルプラザが市区町村における主要な環境学習施設となっている現状が明らかになった。

【表10】 環境学習施設のタイプ別施設数

設置主体	施設タイプ	施設数	構成比
都道府県	リサイクルプラザ	0	0
	リサイクル・環境保全施設	7	6.2
	自然の理解・保全施設	71	62.8
	その他の施設	35	31.0
都道府県計		113	100.0
政令市	リサイクルプラザ	10	26.3
	リサイクル・環境保全施設	8	21.0
	自然の理解・保全施設	11	28.9
	その他の施設	9	23.7
政令市計		38	100.0
市区町村	リサイクルプラザ	148	40.0
	リサイクル・環境保全施設	53	13.8
	自然の理解・保全施設	132	35.2
	その他の施設	42	10.9
市区町村計		375	100.0
総計		526	

施設タイプ別施設設置数の推移

環境学習施設の設置数の推移を施設タイプ別に集計したのが【図4】である。

開館年代別にみると、自然の理解・保全施設は戦後より近年まで徐々に増え続けているが、他の3施設タイプは90年代に入って急激に開館数が増えている様子が伺える。特に95年から04年までの10年間に55%の施設設置されているという結果になった。

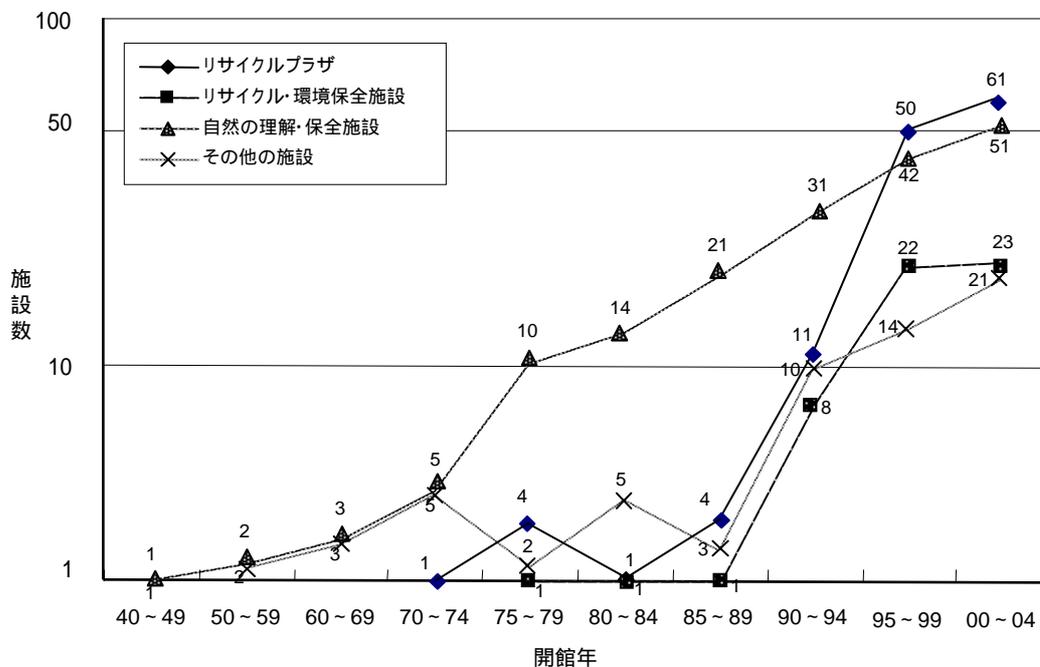
また、近年5年間(2002年から2006年)の開設施設数は2003年のリサイクルプラザが多かったのをピークに全体的に落ち着いてきているのが判る(【図5】)。

初期の施設を具体的に見ていくと、自治体が位置付ける戦後間も無い時期の環境学習施設は、「自然の理解・保全施設」では浜松市かわな野外活動センター(1947年)、札幌市円山動物園(1952年)、おかざき水と緑の森の駅 くらがり溪谷(1959年)、「その他」施設では、長崎県衛生公害研究所(1951年)、玉野海洋博物館(1953年)等であった。

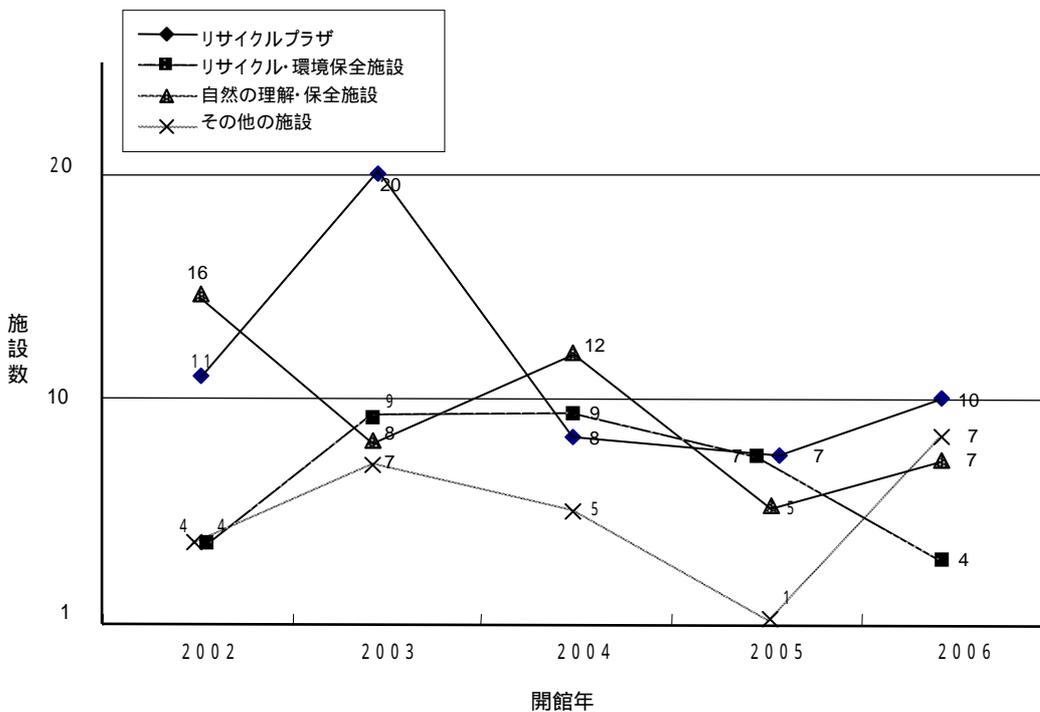
自治体が「リサイクルプラザ」としている施設の中には清掃工場の一角に使用可能な家具の再配布コーナーを設けた施設や廃棄物処理工場に見学コースがある施設なども含まれていた。施設名称で最も早く「リサイクル」が用いられた施設は船橋市リサイクルセンター(1979年)、名称に「リサイクルプラザ」が用いられた施設は加古郡リサイクルプラザ(1988年)であった。

また、「リサイクル・環境保全施設」の初期の施設はリサイクル啓発施設が多く、町田市リサイクル文化センター(1982年)等も廃棄物処理施設敷地内に位置している。廃棄物処理施設とは分離した啓発学習施設は回答施設の中では、鳥取市気高リサイクル・ドリームハウス(1992年)、目黒エコプラザ(1993年)等が最も早い。

【図4】 環境学習施設のタイプ別施設設置数の推移



【図5】 近年の環境学習施設の設置数の推移

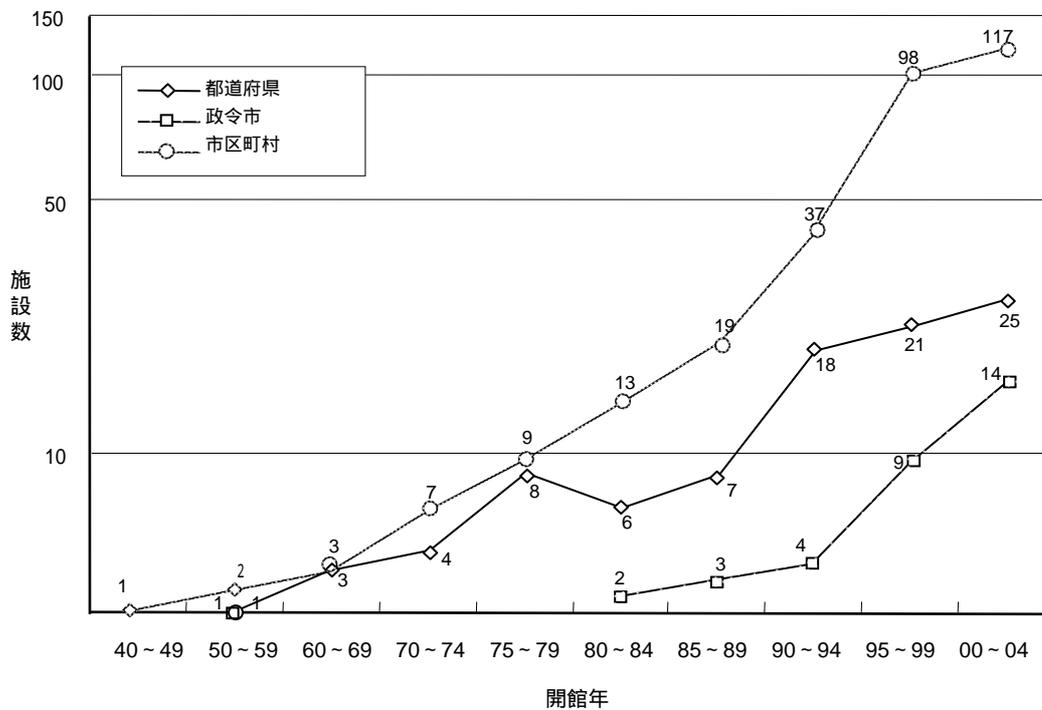


設置主体別施設設置数の推移

年代別環境学習施設の設置数推移を設置主体別に集計したのが【図6】である。

設置主体別にみても、都道府県、政令市は微増を続けているが、市区町村が90年代以降、90～94年37館、95～99年98館、00～04年117館と急激に伸びている。この伸びはリサイクルプラザの建設増加が大きく影響している。

【図6】 環境学習施設の設置主体別施設数の推移



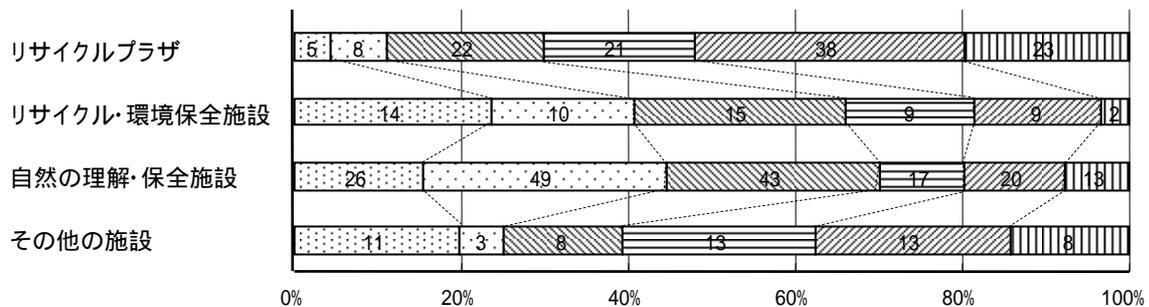
施設面積

施設の面積を施設タイプ別に集計したのが【図8】である。

総じて「リサイクルプラザ」と「その他」の施設の面積が「リサイクル・環境保全施設」と「自然の理解・保全施設」よりも施設が大きい。

タイプ別の面積分布を見ると、リサイクルプラザは2000㎡前後、リサイクル・環境保全施設と自然の理解・保全施設は500㎡前後、その他の施設は1000～2000㎡の間に分布の平均がきている。

【図8】 施設タイプ別施設面積



□ ~199㎡ □ 200~499㎡ ▨ 500~999㎡ ▩ 1000~1999㎡ ▤ 2000~4999㎡ ▥ 5000㎡~

注) 面積不明施設数 リサイクルプラザ 43 リサイクル・環境保全施設 9 自然の理解・保全施設 45 その他の施設 28

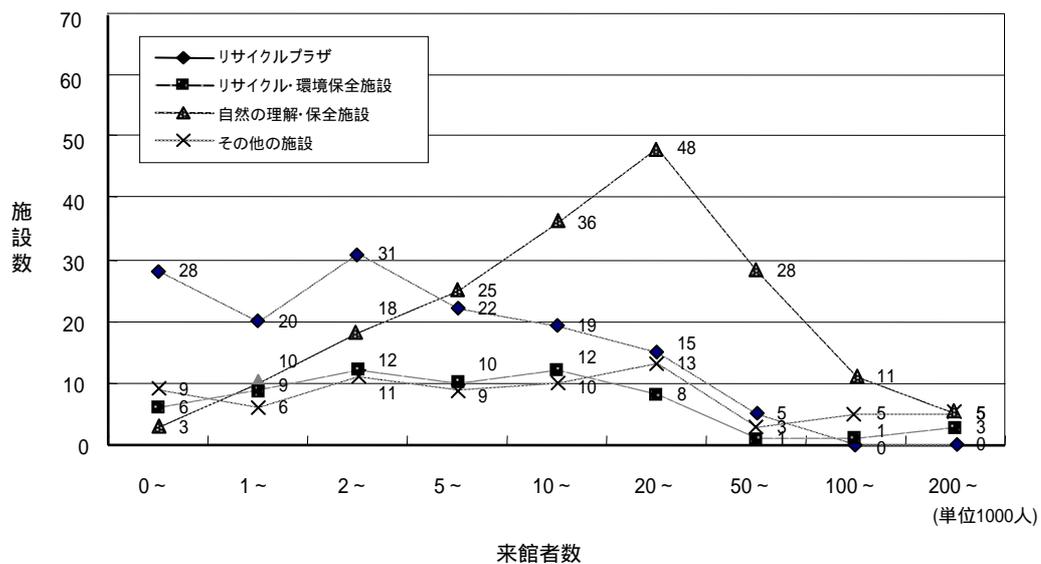
来館者数

施設の来館者数を施設タイプ別に集計したのが【図8】である。

施設タイプを比較すると、「自然の理解・保全施設」のみ分布の傾向が異なり1万人から5万人前後の来場者数に分布が集中しているが、他の施設タイプは2千人から2万人までになだらかに分布が広がっている。

特に「リサイクルプラザ」は来館者数が少ない施設が多い傾向がみられ、5000人未満の施設が半数以上を占めていた。

【図8】 施設タイプ別来館者数



主たる対象者

施設が対象とする世代、あるいは属性を集計したのが【表11】である。

いずれのタイプの施設でも6割から8割の施設が特に対象者を決めていないことが明らかになった。多くの施設があらゆる人を対象としていると思われるが、マーケティング的視点を取り入れる余地があることをも示している。

主たる対象者を絞っている施設の中では4タイプとも小学生に集中していた。小学生はゴミ処理・リサイクルや動植物について学校の授業で扱うことが大きな要因と考えられる。また、複数回答で、従たる対象者について尋ねたところ、中学生と社会人、そして家族連れが上位に上がっていた。

【表11】 施設タイプ別主たる対象者(カッコ内は従たる対象者)

対象者	リサイクルプラザ	リサイクル・環境保全施設	自然の理解・保全施設	その他の施設
小学生	30 (18)	7 (7)	33 (34)	15 (12)
中学生	1 (26)	0 (8)	3 (38)	1 (15)
高校生	0 (11)	0 (3)	0 (13)	0 (6)
社会人	1 (28)	1 (8)	1 (26)	2 (9)
女性	0 (1)	2 (2)	0 (1)	0 (1)
男性	0 (0)	0 (1)	0 (1)	0 (1)
家族連れ	1 (12)	0 (7)	11 (42)	2 (13)
専門家	0 (2)	0 (1)	0 (0)	1 (1)
その他	8 (0)	1 (0)	7 (0)	6 (0)
特に決めていない	90 (14)	53 (1)	128 (12)	44 (6)

(従たる対象者は3つまで回答可)

■ は施設タイプの10%以上の数値

年間展示予算

施設運営費については、人件費が含まれていると思われる回答もあり、十分な精度が得られなかった。そこで、年間の展示予算について集計を行った【表12】。展示予算について解答を得られた348施設について、施設タイプ別に予算額の合計値を施設数で割った平均値を算出している。

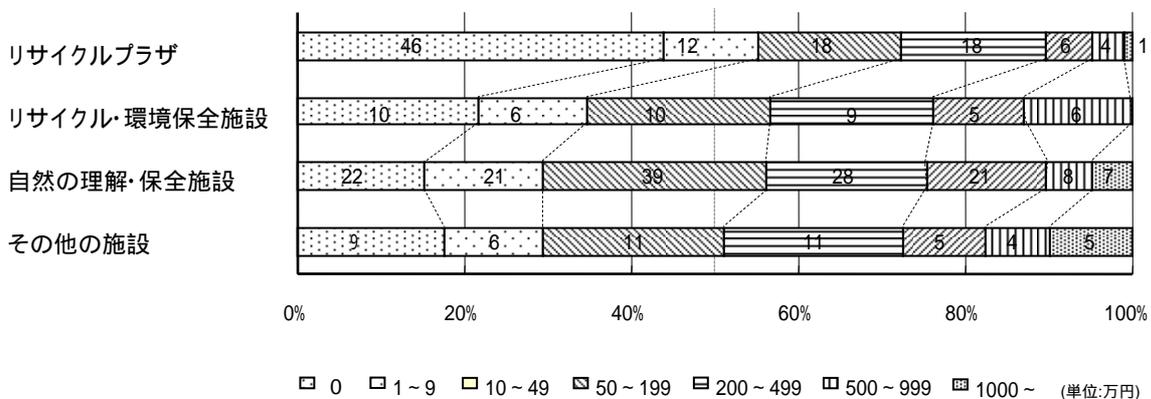
相加平均によって平均値を算出すると、大規模施設が含まれるその他の施設では464万円となり最も多く、リサイクルプラザが92万円で4つの施設タイプの中では最も低かった。

一方、展示予算額の分布によって平均的な展示予算を調べるとリサイクルプラザが1～9万円、リサイクル・環境保全施設、自然の理解・保全施設が何れも10～49万円、その他施設が50万円前後となっている(【図9】)。展示への予算充当がない施設もあり、リサイクルプラザの45%が展示への予算充当がなく、他のタイプでも20%前後が予算費が取られていない状況が明らかになった。

【表12】 タイプ別展示予算費と相加平均値

施設タイプ	施設数	展示予算総計(万円)	平均展示予算(万円)
リサイクルプラザ	105	9744	92.8
リサイクル・環境保全施設	46	6390	138.9
自然の理解・保全施設	146	35470	242.9
その他の施設	51	23665	464.0
総計	348	75269	216.3

【図9】 施設タイプ別年間展示予算



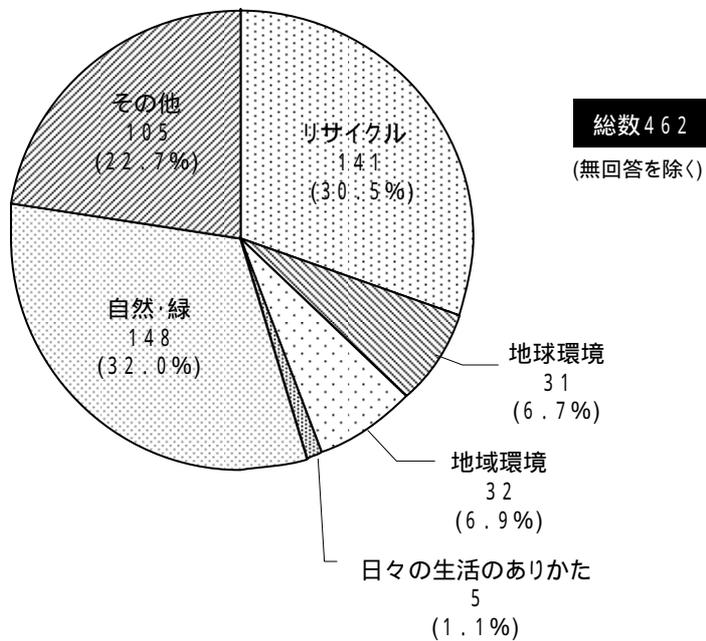
施設のテーマ

施設のテーマについて選択形式で尋ねた結果を集計したのが【図10】である。環境学習施設全体の主たるテーマとして多かったのが、「リサイクル」と「自然・緑」が共に31%。続いて「地球環境」と「地域環境」が共に7%、「日々の生活のありかた」が1%で、「その他」が23%となった。

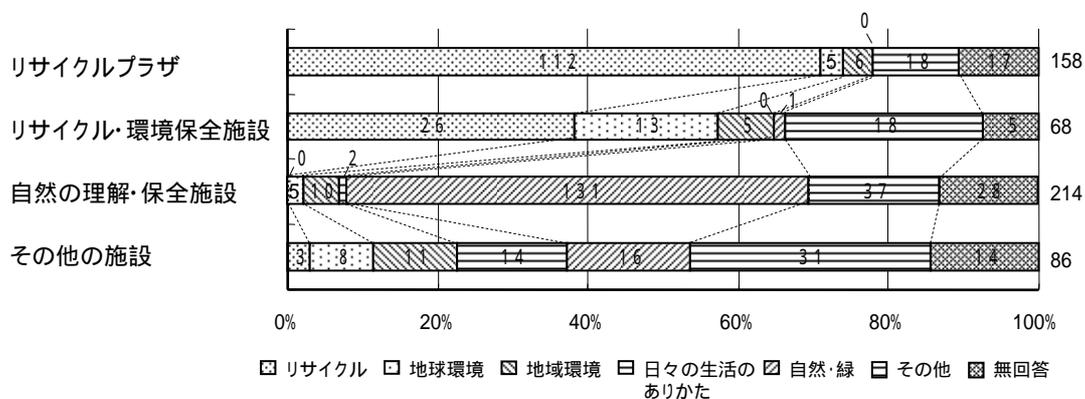
施設タイプ別のテーマ分布は、タイプ分類に相応した分布結果となった。各施設タイプで多かったものは、リサイクルプラザでは「リサイクル」で全体の7割、「リサイクル・環境保全施設」では「リサイクル」が38%、「自然・緑」が26%、「自然の理解・保全施設」では「自然・緑」で6割、等の結果となった(【図11】)。

また複数回答で「従たるテーマ」についても尋ねた結果(【図12】)、「リサイクルプラザ」と「リサイクル・環境保全施設」で「地球環境」が、また、「自然の理解・保全施設」で「地域環境」が最も多いことが判った。「その他」施設では、「その他」の回答がもっとも多く、特定のテーマを持った施設が多いことを示している。

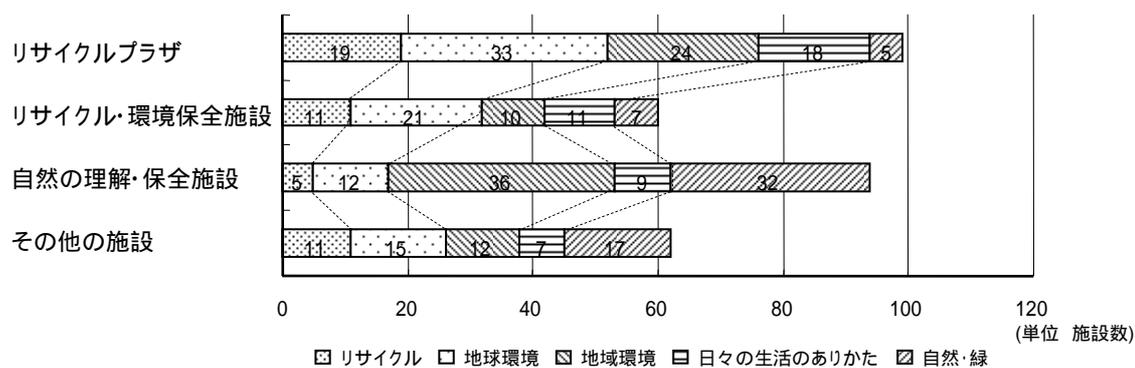
【図10】 施設タイプ別運営形態



【図11】 施設タイプ別 主たるテーマ



【図12】 施設タイプ別 従たるテーマ 複数回答



2-2 運営体制

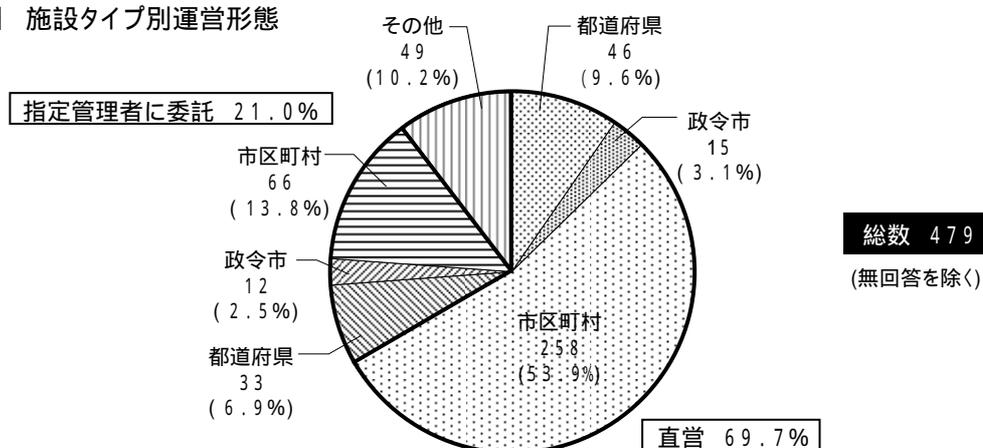
環境学習施設の運営形態(直営・委託)

運営形態について直営・委託の別をまとめたのが【図13】である。直営が70%で、指定管理者への委託が21%、残り1割は指定管理ではない委託等、その他の運営形態であることが判った。

指定管理者の自治体の内訳を見ると、都道府県と政令市が割合的に多く、5割には届かないが、指定管理者への委託がかなり進んでいる。市区町村は全体の2割程度が指定管理者への委託となっていた。

施設タイプ別にみると、指定管理者への委託は「自然の理解・保全施設」が最も多く、「リサイクルプラザ」が特に少なかった(【表13】)。工場施設として申請されていることが多い「リサイクルプラザ」は指定管理者制度の対照施設とはならないケースが多く、より詳細に調べる必要があるが、この調査結果からも同制度の現場に即した整備の必要性が伺える。

【図13】 施設タイプ別運営形態



【表13】 施設タイプ別運営形態

施設タイプ	直営	指定管理者に委託	その他	無回答	総計
リサイクルプラザ	124	13	9	12	158
リサイクル・環境保全施設	44	13	9	2	68
自然の理解・保全施設	100	71	21	22	214
その他の施設	51	14	10	11	86
総計	319	111	49	47	526

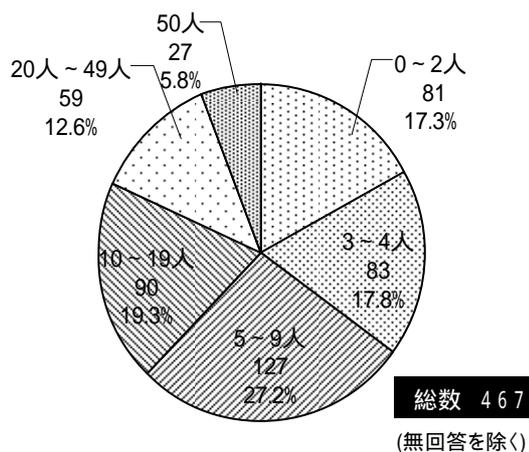
職員数

運営主体の職員数についてまとめたのが【図14】である。全職員数は5人～9人が平均的な人数で、0から2人が17%、50人以上が6%であった。

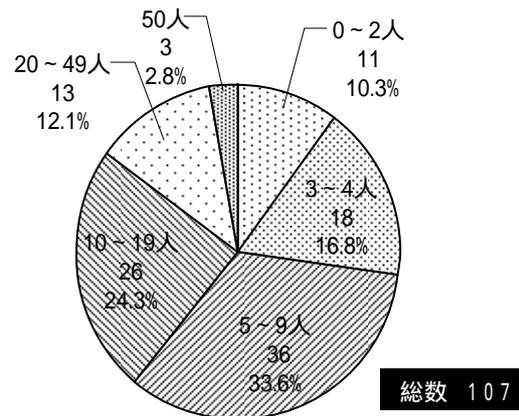
この中から指定管理者の人数を取り出して同様に分布を調べたのが【図15】である。指定管理者の職員数の、5人～19人というボリュームゾーンの割合が多い。

施設タイプ別にまとめたのが【図16】である。各タイプの上段が全職員数、下段が1日当たりの平均職員数である。全職員数の50%近辺の数値をみると、「リサイクル・環境保全施設」が最も少なく、5人～9人の5人寄り、リサイクルプラザが最も多く、10人～19人の10人寄りであった。1日当たりの平均職員人数の50%付近の数値では、「自然の理解・保全施設」が最も少なく、3人～4人のやや3人寄り、「リサイクルプラザ」が多く、5人から9人のやや9人寄りであった。

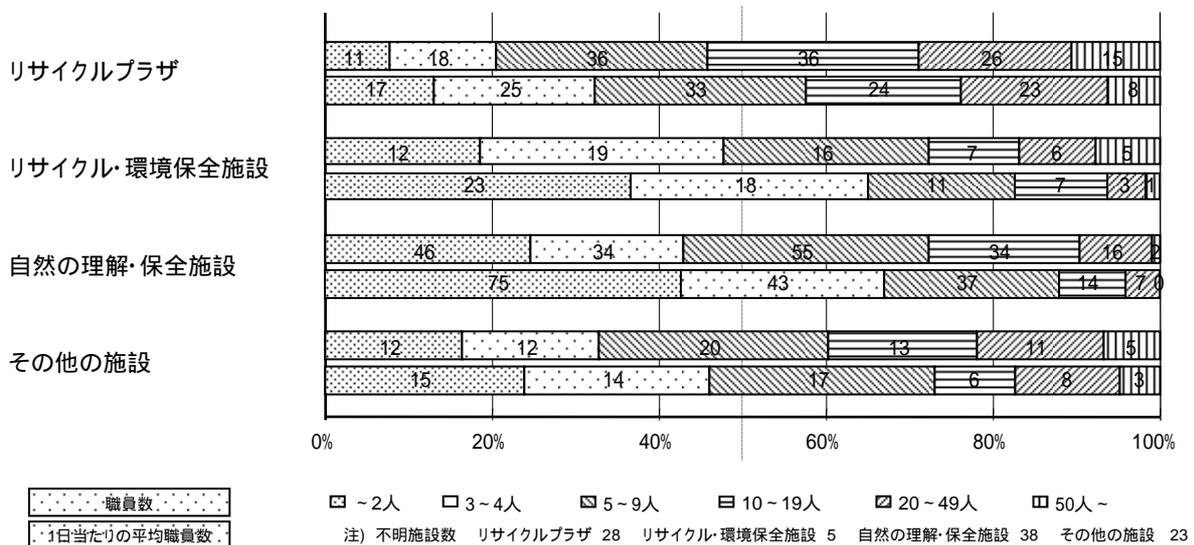
【図14】職員総人数



【図15】指定管理者の職員総人数



【図16】施設タイプ別職員人数と1日当たりの平均職員数



住民・NPOの関わり

住民・NPOの関わり方についてまとめたのが【表14】である。総計を比較すると、運営主体として参加しているのは15.2%、イベント等の協力33.5%と住民・NPOが関わっている施設が約半数となっており、文化施設等と比較しても住民参加がかなり進んでいる状況だと言える。

一方施設タイプ別にみると、「リサイクル・環境保全施設」の3分の1近くが運営主体として参加しているのが目立つ。環境保全関連団体の自律的な活動特性がこの数字に現れている。「自然の理解・保全施設」の運営主体とイベント等の協力を合わせると6割になる点も特徴的である。自然の中での野外活動の要素がボランティアの参加を促進させやすいと考えられる。

リサイクルプラザでは運営主体が1割、イベント等の協力が2割であった。回収家具の再配布等を中心としている施設も多いことや、施設立地の問題等、施設タイプ特有の要因が影響していると考えられる。

【表14】施設タイプ別住民・NPOの関わり

対象者	リサイクルプラザ	リサイクル・ 環境保全施設	自然の理解・ 保全施設	その他の施設	総計
運営主体	15 (9.5)	20 (29.4)	36 (16.8)	9 (10.5)	80 (15.2)
イベント等の協力	32 (20.3)	22 (32.4)	91 (42.5)	31 (36.0)	176 (33.5)
特に関わっていない	83 (52.5)	22 (32.4)	46 (21.5)	30 (34.9)	181 (34.4)
その他	15 (9.5)	2 (2.9)	17 (7.9)	6 (7.0)	40 (7.6)
無回答	13 (8.2)	2 (2.9)	24 (11.2)	10 (11.6)	49 (9.3)
総計	158 (100.0)	68 (100.0)	214 (100.0)	86 (100.0)	526 (100.0)

()内は各タイプの総計に対する割合

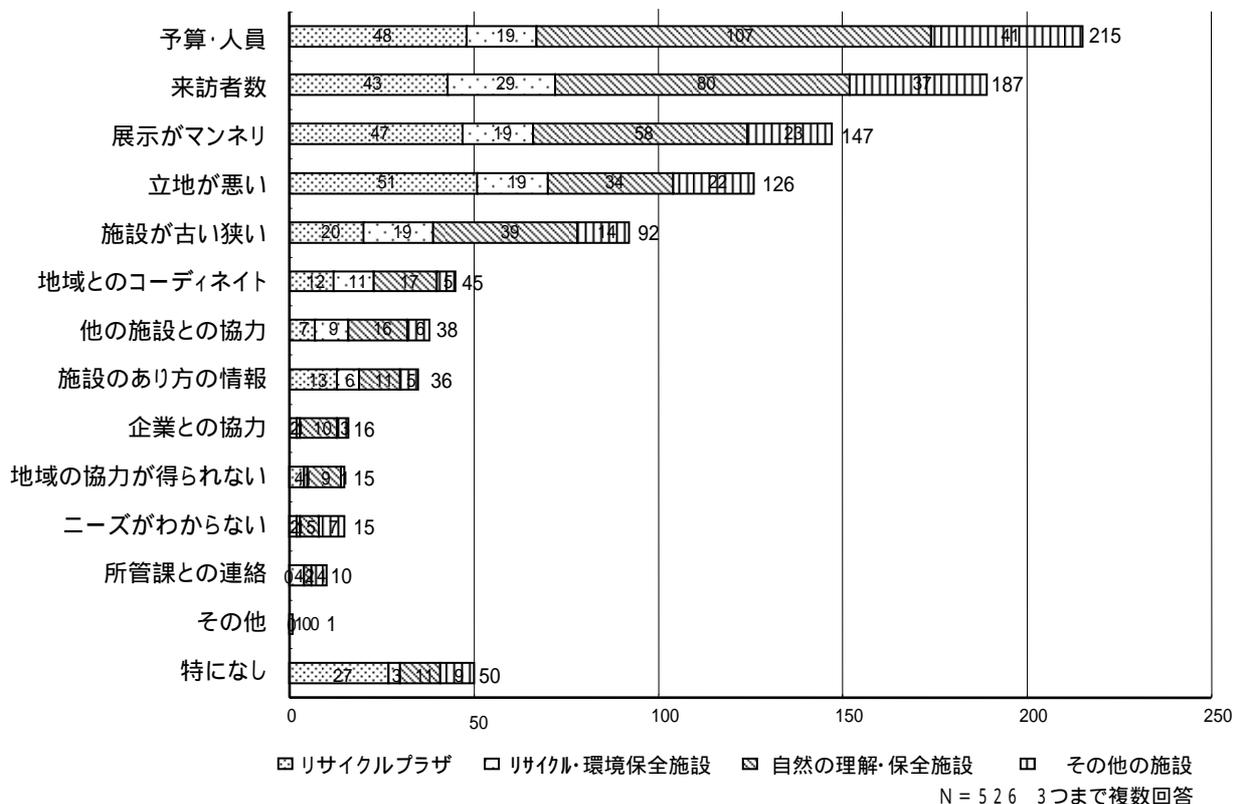
運営課題

運営課題について施設タイプの内訳を含めて集計したのが【図17】である。

課題の上位3位は「予算・人員」、「来訪者」、「展示がマンネリ」となった。「予算・人員」については本調査でも、予算に関しては、展示費用が50万円以下の施設が半数に上り、人員に関しては、一日あたりの平均職員数が4人以下(リサイクルプラザでは9人以下)が同じく半数に上るといった結果が出たが、これが非常に厳しい状況であることを示している。「来訪者数」は2千人から2万人の分布(自然の理解・保全施設では1万人から5万人前後)が多いという結果が出たが、これに対して約35%の施設が課題を感じている。また、次頁の「事業内容」に関する調査では、展示を用いた解説が首位となったが、この核となる展示のマンネリ化を27%の施設が感じていることになる。

続く課題は立地、施設が古い狭い等、施設建物に関連している。上記以外の課題は1割未満の施設からの回答となっているが、その中では地域のコーディネート、他の施設の協力等、ネットワークに関する課題が多かった。

【図17】 運営課題



2-3 啓発事業

事業内容

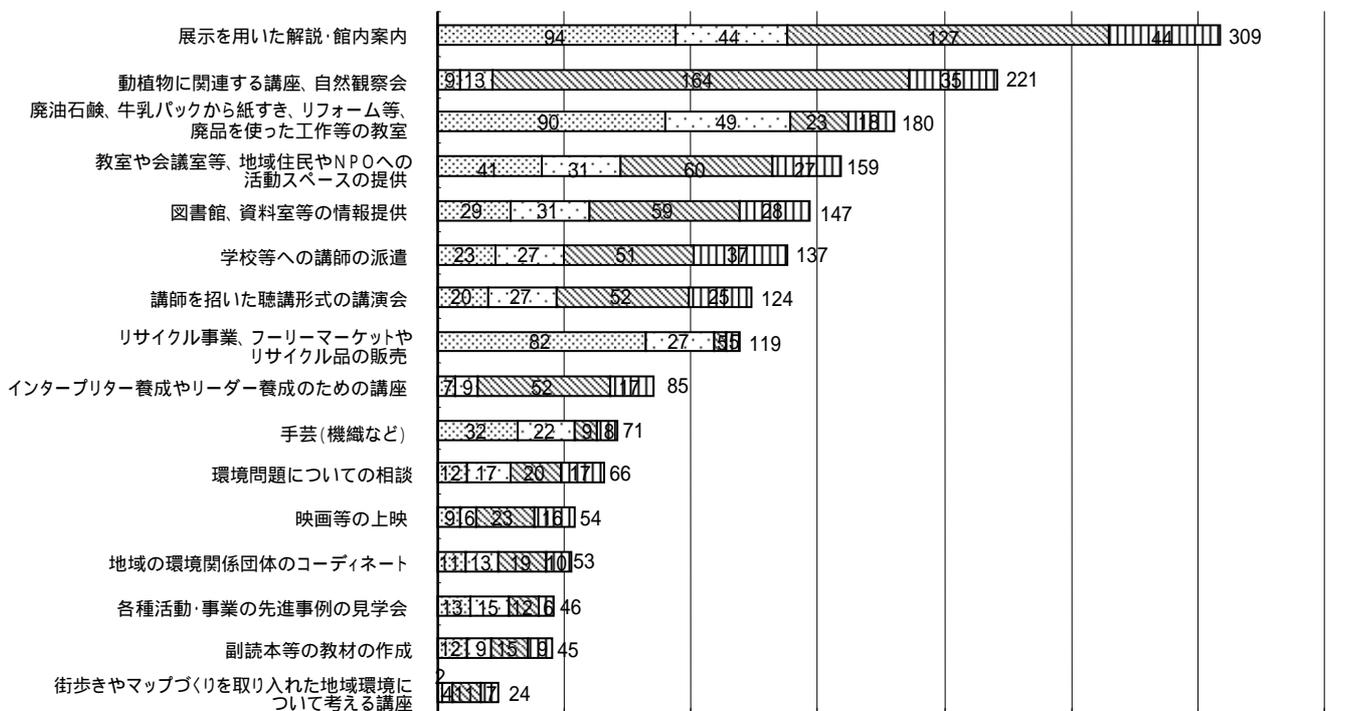
啓発事業の内容について施設タイプ別の内訳も含めて集計したのが【図18】である。

「展示を用いた解説、館内案内」(58.9%)、「動植物に関連する講座、自然観察会」(42%)、「廃油石鹸、牛乳パックから紙すき、リフォーム等、廃品を使った工作等の教室」(34.2%)が上位を占めた。施設タイプ別にみると、「展示を用いた解説館内案内」は施設タイプ分布と同じ傾向を示しているが、他の2つは自然の理解・保全施設、「リサイクルプラザ」の主要事業であることが上位の要因となっている。

続いて「諸室の市民への提供」、「情報提供」といった施設機能に関する内容、「学校への講師の派遣」、「講師を招いた聴講形式の講演会」といった講師によるレクチャー等が多かった。

「地域マップづくり」、「副読本等の教材づくり」等、プログラム性の高い活動は少なかった。

【図18】 施設タイプ別事業内容



N = 526 複数回答

2-4 展示物

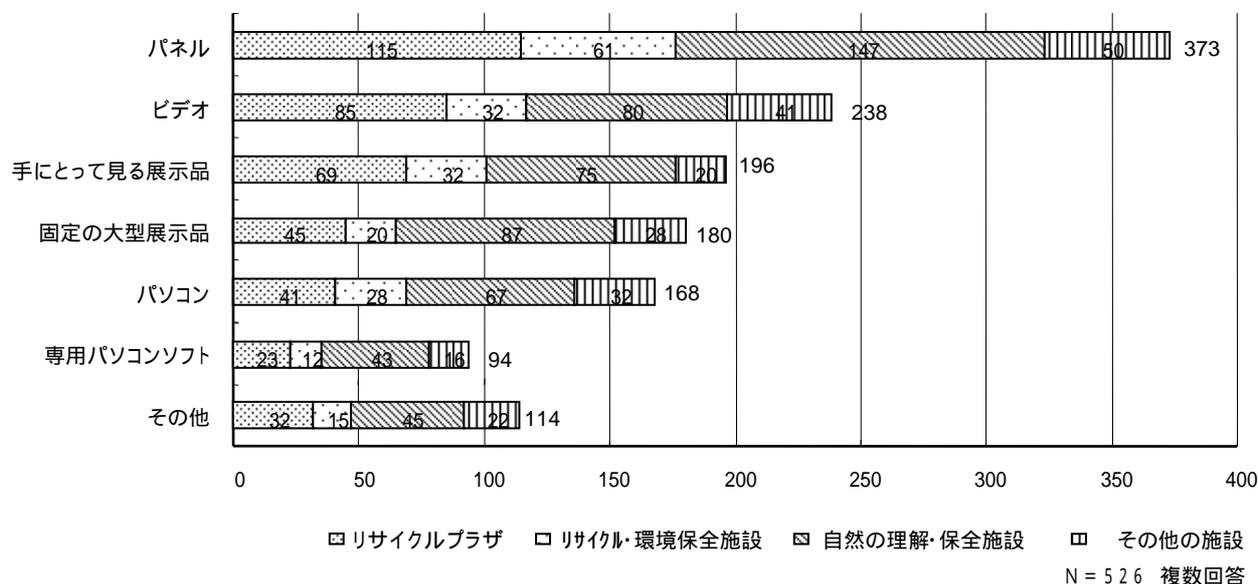
展示物概要

展示物の内容について施設タイプの内訳も含めて集計したのが【図19】である。

事業内容の集計で「展示を用いた解説、館内案内」が最も多かったが、その展示の中身としては「パネル」が特に多く、373施設(71%)。続いて、「ビデオ」、「手にとって見る展示品」、「固定の大型展示品」、「パソコン」等が4割から3割の施設で用いられている。質問項目の中では「専用のパソコンソフト」が最も少なかった。

施設タイプ別にみると、「自然の理解・保全施設」では「固定の大型展示品」の割合が高いのが目立ち、同施設タイプの中では「パネル」に次いで2番目に多い。「リサイクル・環境保全施設」と「その他」施設では「パソコン」の割合が「大型展示品」よりも高く、特に「その他」施設では3番目に多い展示品となっている。

【図19】 施設タイプ別展示物



貸し出し展示物

貸し出し展示物の有無と借り入れ経験について集計したのが【図20】【図21】である。

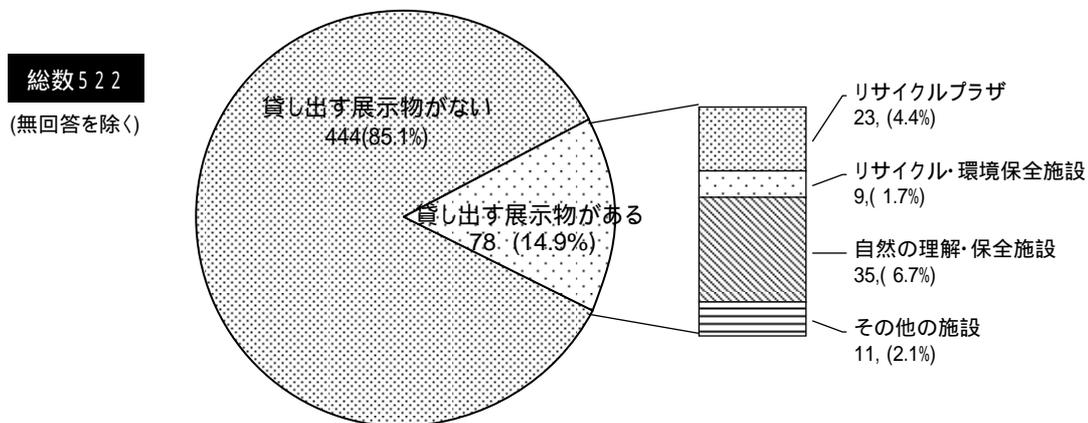
貸し出し展示物を持っている施設は全体の15%で施設の分布は施設数に対して「リサイクル・環境保全施設」が若干少ないが、ほぼ施設数なりに均等になっている。

また借り入れ経験がある施設は全体の28.5%で、施設の内訳は「リサイクル・環境保全施設」が多かった。

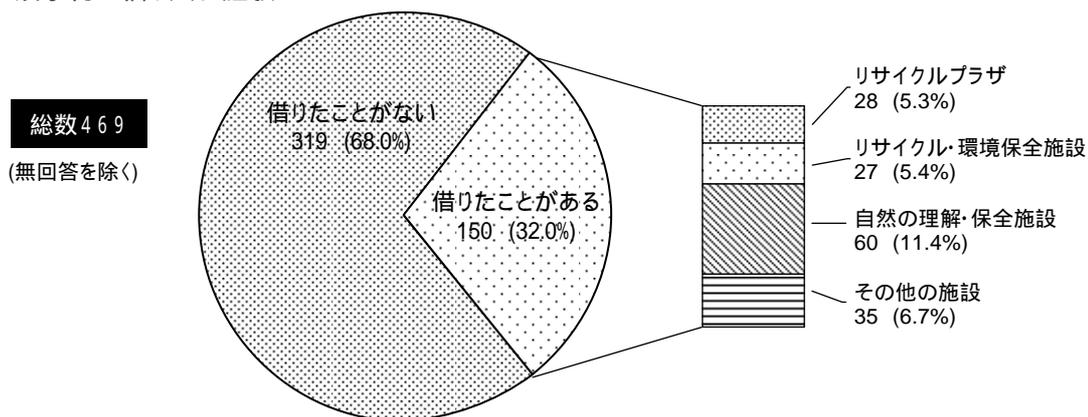
運営課題として「展示のマンネリ化」を課題としている施設数と、「貸し出し展示物の借り入れ経験がある」施設数はおおよそ同じだが、個別データを調べると、マンネリ化を課題としてる施設の3分の2は借り入れ経験がないことが判った【表15】。

予算の問題の問題も考えられるが、貸出し展示物の所在や内容の情報を周知させることが、施設の課題解決に役立つ可能性があることが明らかになった。

【図20】 貸し出し展示物の有無



【図21】 展示物の借り入れ経験



【表15】 展示のマンネリ化を課題と考える施設と借り入れ経験のある施設の関係

	借り入れ経験有り	借り入れ経験無し
「展示のマンネリ化」を選択した施設	54	92
「展示のマンネリ化」を選択しなかった施設	96	227

3. 環境学習施設運営の具体的実施状況

3-1運営体制

3-2学習体系計画

3-3ネットワーク

3-4評価と改善

3-5啓発・学習活動

3-6展示物

3-7指導者養成

3-1 運営体制

2006年8月に指定管理者制度の移行期間が終了し、自治体の取組み方法とともに、地域リソースをどのように発掘するかが自治体の課題となっている。指定管理者を導入した環境学習施設の事例からNPOへ委託の幾つかの傾向を見て取ることが出来る。

市民団体が指定管理者制度制定前から啓発事業や展示物制作等の施設運営に参加し、その実績を買われて選定されるケース。この中には自治体が誘導して施設を中心とした市民活動を醸成し、年月をかけて運営組織にまで育てた事例も少なくない。市民側のポテンシャルと共に、市民と行政の密接な関わりや行政担当者の裁量権や能力といった、行政側のポテンシャルも重要となる。東京都北区エコ広場館は中でも先駆的事例である。

単体、または複数の環境保全団体の実績やノウハウが評価されて選定されるケース。この場合、実績やノウハウを持つ団体が事業収支面で課題の多い環境学習施設の運営にチャレンジするかどうかの一つのポイントとなる。有料事業等の制約をゆるめつつ、公益性を保つバランス感覚を市民と自治体双方が共有していくことが求められる。長池ネイチャーセンターは公園事業系のコンサルタントがNPOと共に運営を受託し、協力組織の強みを活かしつつ幅広い柔軟な事業展開を目指している。

実績やノウハウと共にネットワークの質と量を評価されて選定されるケース。運営主体が持つネットワークを施設運営という立場に移行しても保持することが大切となる。エコギャラリー新宿は、指定管理者として施設の管理だけでなく、質の高い情報発信に留意して活動を展開している。また、上記2事例同様、規則の柔軟な運用や収益面での柔軟性が質の高い活動のためには必要だとしている。

市民会議からの展開 (北区エコー広場館)

北区エコー広場館の運営母体の活動はリサイクル政策が動き出した90年代初頭に遡る。平成3年、東京都と23区のごみ処理に関する役割分担が打出された際、北区は区内にごみ処理施設を作らず、分別を徹底してリサイクル事業者者に再資源化を委託する施策を採用することにした。このリサイクルのシステムづくりを市民・事業者・行政が連携して行い、北区は「北区エコライフ宣言」をまとめた。参加した市民は自主的な活動組織として「北区リサイクラー活動機構(参加者140名)」を翌年の平成4年に立ち上げた。2007年現在、エコー広場館は区内に3施設あるが(2008年に4施設目が完成予定)その全ての運営を「北区リサイクラー活動機構」が指定管理者として受託している。

行政が誘導しつつ、市民の自発的な活動が軌道に乗った典型事例で、首都圏の多くの施設で参照された。その特徴は「開館日には常に一般の人が参加できる活動(リサイクル教室等)をボランティアが中心となって行っていること」で、年間200近い講座やイベントを実施している。

市民ボランティアの組織化に苦労している施設が多いなか、こうした継続的な活動を実現させるための留意点として、参加するボランティアの技能とモチベーションに合った場を与え、本人の自己実現に結びつけること、あまり細かいことにこだわらず良い意味での「いいかげんさ」をもって運営すること、(無料こそがボランティアという考えもあるが)働きに応じて最低限の費用を支給すること等を挙げる。さらに、区域の市民活動の土壌、マネジメント能力と行政との協働に長けた市民リーダーの存在こそが最も大きな要因と考える。

会員の高齢化やそれに伴う後継者の育成が組織にとっての課題だと言う。



外観



現在も分別回収場となっている



フリーマーケットは交流の場



「くらしの博物館」担当者は開館時から変わらない

NPOとコンサルタントのリソース共有 (長池公園自然館)

八王子市長池(ながいけ)公園は、旧都市公団によって計画された大規模都市開発地、多摩ニュータウンの一角に位置する。新宿より京王新宿 相模線で約40分、距離にして約30kmの南大沢駅の徒歩圏にある自然保全型の総合公園で、19.7haの面積を持つ。多摩ニュータウン内の自然環境のコアエリアとして位置づけられ、「里山の自然と文化の継承」をテーマに、元来の里山的景観を極力残すように配慮されている。

体験学習施設である「長池公園自然館」は市議会の決定を経て、2001年の開館時より(特活)NPO・フュージョン長池が施設の管理と運営が行なってきたが、2006年度から指定管理者制度が導入されるにあたって、企画競争が行われることとなった。それまでは長池公園自然館単独の運営業務であったが、制度変更を機に、公園全体の管理業務も付随された。そこで(特活)NPO・フュージョン長池は、公園と緑の管理の専門家である(株)富士植木と、自然環境調査計画のコンサルティング会社・(株)プレイスによる連合組織である「フュージョン長池公園」として入札に参加。4団体からの応募があったが、八王子市 都市公園指定管理者等選定委員会において、「利用の充実・サービスの向上」、「公共性・公平性・公正性の確保」、「効率的な管理運営と経費の縮減」などの選定基準に基づいて総合的な評価が行われ、「フュージョン長池公園」が選定された。

連合体としては、下記のような専門性を活かした役割分担を行っている。

【各主体の役割】 1 八王子市...管理者の指定・指導、協定金の支払い 2 特定非営利活動法人NPOフュージョン長池...公園施設の管理運営全般、催しの企画運営 3 株式会社富士植木...公園内の樹木等の管理、施設の修繕 4 株式会社プレイス...動植物管理と生態系保全、スケジュール管理等
また指定管理者の中核組織である(特活)フュージョン長池は、下記のようなコメントを掲載している。

【指定管理者制度導入のポイント】 行政が指定管理者制度を導入する場合、行政サイドがどのような考えを持ち、どのような姿勢で指定管理者を公募するのかが、その後の事業展開を大きく左右することになる。これまで通りの管理運営を良しとして、柔軟性や発展性のない管理委託の仕様をそのまま公募にかければ、これまでの業務に習熟している管理受託者(第三セクターなど)がそのまま指定管理者に選定されることとなる例が多く見受けられる。また、事業の安定性を重視するあまり資本力や安定性を求め過ぎるとNPOなどは太刀打ちできない。行政が、既存の規制やこれまでの仕様に縛られることなく、指定管理者制度を導入する意義を十分に検討し、幅広い柔軟な事業展開を目指すという趣旨で制度設計をすることが重要であろう。



上空から見た長池公園自然館(HPより)



外観(HPより)

市民ネットワークのNPO（エコギャラリー新宿）

エコギャラリー新宿の運営は、指定管理者制度のもとで、2004年からNPO法人新宿環境活動ネットが実施している。第一期は2004年から2年間、2006年に再度公募審査があり、新宿環境活動ネットが再選定され、3年間運営を任されている。

新宿区が2003年に環境基本計画を策定するときに、区と区民が「共に環境を改善する」という方針が打ち出され、同時に人材・情報発信の拠点として環境学習情報センターを設置するということが計画の中に盛り込まれた。新宿環境活動ネットは、それ以前から、市民団体、企業などの環境活動をつなぐ活動をしてきていたので、指定管理者として応募した。

プロポーザルを提出した後、公開プレゼンテーションを経て、指定管理者として選定された。以降、毎年度の始めに区と指定管理者の間で協定書を結んで事業内容を定めている。

環境学習施設で指定管理者制度をうまく活動していくためには、導入目的や優先順位の明確化が重要と考えられる。環境学習施設の運営は、ただ施設を管理すればよいのではなく、質が高い情報の発信をしていかなければならない。このため、管理者を指定する目的は、単なるコスト削減だけでなく質の高い情報活動も考慮した選定基準を持たないと、内容のある施設にはならない。

また、規則をできるだけ柔軟に運用することで民間の活力を十分に活用することが必要といえる。例えば、規則で収入源を限ってしまうのではなく、環境に配慮した品物を提供したり、販売したりするなど、一定の事業収入が確保できれば、管理運営の質の向上にもつながることができる。



外観(エコギャラリー新宿HP)



地域マップの解説

3-2 学習体系計画

環境学習施設は、様々な施設カテゴリーの一機能に着目して囲い込んだ性格が強い。そのため、環境学習以外の機能体系(博物学、各種PR、ビジターセンターにおける休憩機能、リサイクルプラザにおける家具再販売等)によって施設計画が大きく左右するのが一つの特徴ともいえる。

そのことを踏まえた上で環境学習施設の事例を見た場合、以下のような計画上的特徴を挙げることができる。

環境学習施設は基本計画上の位置づけや、他施設との機能別けの考え方に準じて中身が既定される。吹田市の事例はリサイクル啓発の核として様々な工房を持つリサイクルプラザを全国に先駆けて開設した。札幌市は先行する環境サポートセンターを、地域の大人を対象とした情報を中心に扱う施設と再定義し、環境プラザは小中学生にも判りやすい、展示に工夫が凝らした施設として計画している。

地域規模、地域の環境問題の歴史・資産、地域の活動状況等、地域性に合せて学習体系を組む。北九州市環境ミュージアムは洞海湾の汚染という身近なテーマから学習を進め、地球環境について考えるプログラムが組まれている。長池ネイチャーセンターは保存緑地を活かした自然観察会等を核にワークショップを組み、多くの住民が活動に参加している。北区エコ広場館は地域住民のリサイクル活動への関心の高さを活かす場として施設を計画し、息の長い活動が展開されている。

環境保全行政の現場との相乗効果によって学習が組み立てる。リサイクルプラザは再資源化工場の見学コースを前提としており、循環型社会の構築の必要性を体験を通して理解するプログラムが組まれている。

来館者の特性を考慮し、ハンズオン、インタープリターによる解説等により意識変化から行動変化を導く。環境学習施設に関していえる一般的なことだが、展示物のインパクトは博物館や科学館になかなか追いつけないため、抽象的な問題を判りやすく、深く理解するための工夫が必要である。ストップおんだん館はインタープリターによる解説を前提とした展示計画となっており、来館者と共に環境について考えるプログラムを組んでいる。名古屋エコパルは巨大な双方向型シアターによってゲーム感覚で学ぶ工夫がなされている。

多様な工房活動 (千里リサイクルプラザ)

大阪府吹田市にある“くるくるプラザ”は、大量消費・使い捨ての生活様式により増加の一途をたどる、ごみの減量化・再資源化に対処するための施設で、平成4年に開館した。リサイクル・減容化工場と、市民向けの学習施設が設けられている。「モノ」を生産流通させる企業、消費する市民、ごみの処理を担う行政、そしてそれぞれの段階で研究に携わる学識経験者等ごみに関わるすべての関係者が協力し、リサイクル型社会を構築するというコンセプトであり、行政・企業・市民により財団法人千里リサイクルプラザを設立し、管理運営に当たっている。

事業の内容としては、ごみの減量化・再利用及び再資源化を学ぶ実践教室(衣類のリフォーム、染め物、自転車整備持ち帰り、吹きガラス・バーナーワーク等のガラス工芸、家具・木工、親子木工、ほか各種教室の開催)やイベントなどの普及・啓発、廃棄物を中心とした環境問題に関する情報発信、再生資源の流通、再生成果品等の販売、調査・研究など行っている。

特徴として、身近な廃棄物を中心とした環境問題について、調査・研究活動を行う市民研究員制度を設け、年度毎に研究を行い発表会なども開催している。また、比較的大きな施設を活用してフリーマーケットを開催し、多数の出展者と買い物客が集まり人気イベントとなっている。

活動毎の工房があり、全ての部屋が中庭に面しているため、フリーマーケットを中庭で開催する時などに工房活動を一望できる。



市民工房4・自転車整備



市民工房5・ガラス工芸



市民工房6・家具木工作業室



フリーマーケットを開催するガラス屋根付きの中庭。周囲を工房が囲む。

環境問題の全体像からの学習 (札幌市環境プラザ)

札幌市環境プラザは、展示に重点を置き、小学生から中学生をターゲットとして計画されている。ここでの学習はエントランスの正面に置かれた「メッセージスタジオ」と呼ばれる、環境の様々なメッセージを地球儀にかぶせた展示を中心に組み立てられている。

この「メッセージスタジオ」には今起きている環境問題を7つのテーマに分けている。7つとは、大気、廃棄物、生態系、食、水、世界、エネルギーで、地球儀の周りに立てた柱に関連する映像が流れるモニターが組み込まれている。社会科見学等で来館した小学生には、先ずこのメッセージスタジオで、7つの問題をじっくり解説しそのあと、個別の展示やアトラクションを自由に見学させることが多いという。

子ども達は自分でアトラクションを触りたがるが、単に遊ぶだけでは教育的効果が薄い。子供の集中力が続く最初の時間にレクチャーを行い、後は自由に見学する、という切り分けを行なっている。また、個別の環境問題だけでは判りにくい質問などが出た場合、再びメッセージスタジオに戻って説明すると、個別問題の相互関連が理解にも役立つ。

人数が1クラスを越える場合は、さらにビデオ閲覧のコースを加えて、メッセージスタジオの周りに集まれる人数にするよう工夫している。

個別展示もハンズオンによる立体的な展示が多く、楽しみながら学習できるよう、様々な工夫がなされている(詳しくは学習ソフトの章を参照)

中心展示 + 関連個別展示によって環境の全体像を学習する体系を組んでいるといえる。



メッセージスタジオ



テーマ毎のモニターから映像が流れる



個別問題の展示(節電とCO2)

地域の公害克服と地球環境問題を連続させる (北九州市環境ミュージアム)

北九州は、八幡製鉄所をはじめとした工業地帯として栄えてきた。1960年代には、「煙は繁栄のシンボル」とさえ言われていたが、繁栄の反面、工場の排煙によるぜん息などの住民の健康被害や、工場排水による汚染で洞海湾は「大腸菌さえ住めない海」とさえ言われるようになり、深刻な公害問題を抱えるようになった。北九州市はこの深刻な公害問題に対し、住民による「青空が欲しい」運動等をきっかけとして住民、企業、行政が一体となって取り組み、公害を克服してきた歴史がある。北九州市環境ミュージアムは、こうした地域の公害克服の歴史を踏まえながら、地球環境の問題までを考えさせる展示プランになっている。

展示は、6つの展示ゾーンで構成されており、最初のプロローグでは、北九州の自然や水の循環など、身近な環境について紹介している。続いて、第1・第2ゾーンは、工業都市北九州の繁栄と公害の経験、公害克服の歴史が紹介されている。ここでは、ばいじんなどが降り積もった地元小学校の雨どいや汚染で真っ黒になった洞海湾の水のサンプルなどが展示されており、公害の深刻さを実感できる。さらに、公害の克服に立ち上がった市民や企業の取り組みによって生活環境が再生されるまでの経過を学習できる。第3ゾーンでは、公害の歴史にとどまることなく、日常の生活が環境に大きな影響を与えていることに気づき、自分たちの生活を見直すきっかけを提案している。さらに、第4・5ゾーンでは、リサイクルを軸として、身近なエコ商品やエコ素材を紹介し「循環型社会」へ向けてのヒントを得ることができる。最後に、地球をイメージしたドームシアターでは、音楽にあわせて様々な立体映像が映し出され、地球が「かけがえのない奇跡の星」であることを学ぶとともに、施設インタープリター（展示解説員）とともに環境のことについて考えるスペースにもなっている。

館内の展示は、訪問者の理解を促すために、多くのハンズオンを取り入れており、各ゾーンごとに施設インタープリターが配置され、展示をきっかけとし、気づきや理解を深めていくサポートをしている。地域遺品の実物が展示物の中に加えられていることにより、解説に説得力を持たせている。



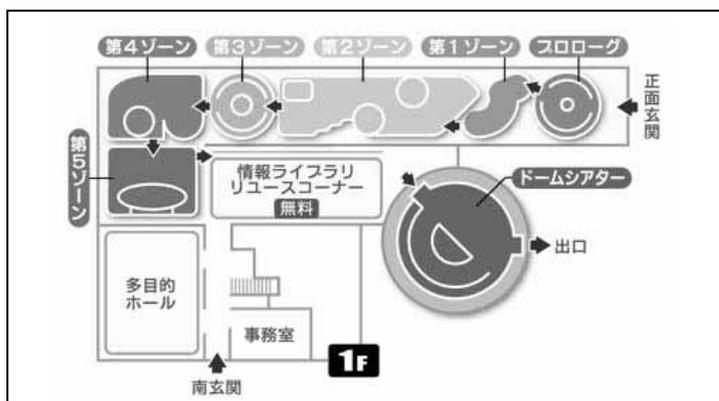
外観



第4ゾーン / 環境技術とエコライフ



水質浄化プロセス



1階平面構成(HPより)

自然環境の保全と活用（長池公園自然館）

東京都八王子市南西端、多摩丘陵上にある長池公園は、多摩ニュータウン開発の際に、原風景と自然環境を残す拠点エリアとして位置づけられ、19.7haの面積の中にため池や雑木林、小川や湿地等池を配置した自然保全型の総合公園である。園内には、管理施設を兼ねた「長池公園自然館」があり、この施設内で様々な講座が開催されるとともに、公園内の里山環境を活かした野外活動プログラムが展開されている。

指定管理者が、来園者に参加の機会を与えている環境学習活動として月1回、2つのプログラムがある。

その一つは、「長池公園サンクチュアリ・ワークスクール活動」で、年間を通じて受講生を募り、一般来園者が通常立ち入れない特別保全ゾーン内において、選択除草や貴重な植物の手入れなどの植生管理と動植物調査活動を実施している活動である。この講座の受講者は、長池公園の自然のよき理解者であり、リーダーシップ養成の意図も盛り込まれた講座となっている。

もう一つは、主として子ども対象にして開催されている「ネイチャー・イベント・デイ活動」で、さまざまなテーマによる自然観察会、ネイチャーゲーム体験、ネイチャークラフト製作などのイベントを企画実施している。

なお、この2つの環境学習体験活動とは別に、ボランティアが主体の里山活動が行われている。この活動主体は「長池里山クラブ」と呼ばれ、公園開園前より旧都市公団が事務局を担い、組織化が図られてきた。「長池里山クラブ」は、年間計画により、体験ゾーンエリアの田や畑、雑木林の管理をイベント的に体験する活動を行っており、月1回の会員参加のイベントのほか、随時、スタッフが必要な管理を実施している。

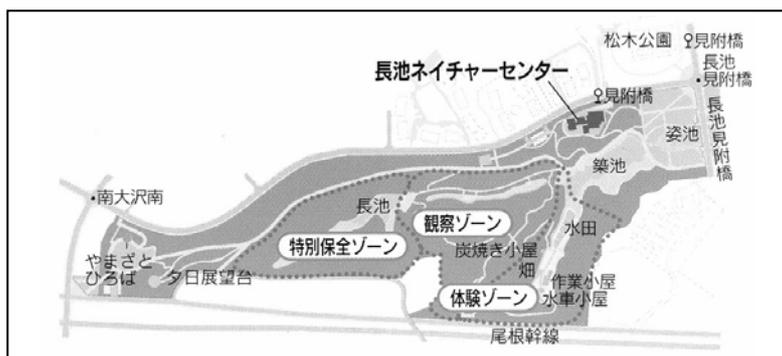
これらの活動は誰でも参加する事ができ、対象となる年齢やニーズに合わせ、展開されるプログラムにも多様性がある。指定管理団体の実施する企画は、動植物に関する知識を持った人がコーディネートを行うことで、専門性を担保している。



長池公園サンクチュアリ・ワークスクール活動



ネイチャークラフト教室



長池公園全体図(パンフレットより)

リサイクル文化の場づくり（北区エコ広場館）

今から16年前、市民・事業者・行政の三者による連携で策定された「北区エコライフ宣言」。その策定に参加した市民が中心となり、宣言の活動組織として平成4年に「北区リサイクラー活動機構」が誕生し、今日まで、北区の「富士見橋エコ広場館」「北の台エコ広場館」「滝野川エコ広場館」、3館の管理・事業運営を担い続けている。この3館の間では毎月連絡会を開催したり、合同で研修会や総会を催すことで、「エコライフ宣言」のコンセプトとなる”シンプルな生活文化をつくり出し、21世紀に生きる子孫に、美しく健康な地球と暮らしを引継いでいくためにリサイクルに取り組む”ことを具現化している。

例えば、不要となったシャツやズボン等の布を用いて帽子やかばんなどを作る手芸教室。不要となった布を再活用するリサイクル性を裁縫教室の形でプログラム化して行う。エコ広場館でも毎回20名以上、中高年の女性が参加して行われている定番のプログラムとなっている。開館後10時頃から始まり、持参したお弁当を挟んで3時頃に終える。プログラムを通して「物の大切さ」を逐一説くことは少なく、昼食を共に食べる等の家庭的な雰囲気づくりを通して施設の講座を作り上げている。

この背景には「エコ広場館は、誰もが、何時でも、気軽に参加し、交流し、新しい視点で暮らしを再構築していくエコライフステージとして、リサイクルに関するすべての活動に開かれている場である。」とする理念がエコ広場館にはある。そのため、自分たちが出来ることを、出来るときにやるというスタンスで活動しているので、毎月のスケジュール作りには日程の調整が大変という。一見、無責任のように思えるが、講師となる人も、受講する人も「この日なら大丈夫」、「行ける」といった気軽な気持ちでプログラムが組まれ、実施されている。しかも、参加者の事前申し込み制を採っていないといった徹底さだ。エコ広場のスタッフの大変さが伺えるが、エコ広場館を利用する人にとっては、使い勝手の良い施設と言えそうだ。



布ソウリ教室



フリーマーケット

分別工場見学とリサイクル講座

(しものせき環境みらい館)

しものせき環境みらい館は、下関市のリサイクルセンター(処理能力113トン/日、1日5時間運転)の一角に整備されている「リサイクルプラザ型」の環境学習施設である。「見て」「聞いて」「触れて」「楽しみながら」リサイクルの体験・学習ができるようになっている。

下関市が施設を建設し、しものせき環境みらい館の運営は、NPO法人環境みらい下関に委託されている。NPO法人環境みらい下関は、市民や地元事業者らが中心となって「もったいない」という言葉を実践していくための運動を続けてきたが、こうした運動が下関市と結びついて下関環境みらい館がうまれた。

リサイクルセンターに併設されているので、小学生の見学を多く受け入れている。見学にきた子供たちは、見学者ルートに沿って、缶、びん、ペットボトルなどが、機械や手作業で選別され、一定の量ごとまとめられていく工程を見学する。分別の現場を実施に見ることによって、普段出しているびんや缶がどのように処理されているかが実感できる。この見学コースは、要所で、日本語、日本語(子供用)、英語、韓国語、中国語を選んで解説を聞けるようになっている。見学をした子供たちは、後日、見学の印象をもぞう紙にまとめて送ってくる学校も多い。リサイクルセンター見学コースの入り口にたくさん貼ってあるが、「ごみのぶんべつは手さぎょうですのでたいへんそうでした。これからはちゃんと気をつけてぶんべつしたいと思います」など、見学の印象をすなおに綴っているものが多く印象深い。

啓発棟には、情報広場、展示ホールその他、各種リサイクル工房があり、自転車や粗大ごみの再生販売を実施したり、空き缶を使った工作教室、草履づくりの教室、牛乳パック紙すき教室など、リサイクル教室を開いたりしている。リサイクルの施設見学、リサイクル教室、イベントなどがひとつの施設でできる施設であり、こうした強みを生かして、平成18年の利用者は、3万8000人を数えた。(うち3万人は館内見学者数、8000人は体験教室・講座利用者数)。



外観



分別風景



小学生の見学感想文



解説の言語選択パネル

インタープリターによる展示解説（ストップおんだん館）

地球温暖化防止活動推進センター(JACCCA)が運営するストップおんだん館は、平成16年7月に子どもから大人まで地球温暖化について楽しく学べる施設として開設された。JACCCAは、平成10年に制定された地球温暖化対策推進法において地球温暖化対策に関する普及啓発を目的として設置された施設と位置づけられており、同様に同法で位置づけられた都道府県の地球温暖化防止活動推進センターの職員研修や活動支援を行うことも目的としている。

ビルの1階にあるこの施設は、情報コーナーと展示コーナー、ワークショップコーナーの3つのコーナーに分かれている。この施設の特徴の一つは展示システムが地球温暖化に関する情報の変化や活動の変化に柔軟に対応できるようにしてあることである。展示台や机、ワゴン、すべてが可動式であり、展示の更新やスペースの変化にも簡易に対応できるようになっている。また、パネルや展示台などすべて60センチ角に統一して様々な組み合わせができるようになっており、さらに、どこでも簡単にパネルを付けられるような工夫がされている。

もう一つの特徴は、インタープリターの存在である。インタープリターは、地球温暖化問題を教える説明員ではなく、地球温暖化のことを考え行動して行く人たちのサポーターであり、ガイドである。そのため、展示物には解説文が少なく、そのかわりインタープリターが来館者と一緒に考え、一人一人の「感じる気持ち」や「考える力」を大切にしている。

来館者ができるだけ自分の頭や身体を使って地球温暖化問題を身近なこととしてとらえ、原因とされる温室効果ガスを減らす行動を起こしていくきっかけとなるようにとの考えから、展示物を使ってインタープリターがやりとりを通して促す仕組みとなっている。



展示風景

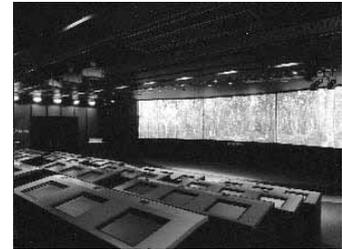
双方向シアターとワークショップ（名古屋市環境学習センター）

エコパルなごや（名古屋市環境学習センター）は、平成7年12月に開館した身近な環境から地球環境まで、楽しみながら幅広い視野で環境問題を考え、取り組んでいくための第一歩となる環境学習の拠点施設である。

ビルの13階にあるこの施設は展示コーナー、ワークショップコーナー、図書ライブラリーと大きな特徴であるバーチャルスタジオがある。

バーチャルスタジオは、大きなスクリーンに映し出された映像のもと、インタプリターの映像キャラクター（コパ）とともに、参加者がクイズに回答する形で相互にやりとりしながら環境学習を進めていくというもの。例えば、参加者一人ひとりの名前を呼んで、家庭で行っている省エネについて尋ねてきたり、それについての感想を述べてくれたりなど、画面のアニメキャラクターコパと会話をしながら進める（実はボイスチェンジャーをとおしたスタッフがバックヤードにいるというのは、後で聞いてわかったことである）。メイン番組は、食物連鎖や自然循環をテーマにした生態系編「ボクたち、地球家族」と、ごみ問題やエネルギー問題をテーマにした生活編「コパのチャレンジ！エコライフ」の2本（各40分）であり、その他環境映像が複数ある。全部で48席あり、小学校がクラス単位で学べるようになっている。また、バーチャルスタジオは、多目的ホールとして使用できるように設計されており、講演会や研究発表会、映画等に対応できるようになっている。

バーチャルスタジオでの学習とセットにしているのがワークショップで、実験や工作を実際に行って学んでもらうというもの。こちらは30～40分で終了する13のプログラムを用意している。



「バーチャルスタジオ」



実験・工作を行なう「ワークショップ」

3-3 ネットワーク

環境学習施設におけるネットワークの位置づけは大きく以下の3つに分けることができる。 ネットワークの構築自体が施設(拠点)の主たる目的の一つとなっているケース、 啓発活動の対象者をネットワークに求めるケース、 施設の運営や啓発活動をネットワークによって実施するケース。

ネットワークの構築自体が施設の主たる目的になっている場合、施設は一般的に情報拠点的位置づけとなっている。環境保全に関心を持った人に必要な情報を提供したり、環境関連団体の情報発信を援助する役割である。地球環境パートナーシップはその典型事例である。さらに地域に密着した情報提供を考える場合、地域の特徴や課題が鮮明になり、取り組みに工夫が見られる。フェイス・トゥー・フェイスのコミュニケーションに取組む北海道環境サポートセンター、環境関連の公募イベントを冊子にして情報提供するなごや環境大学(事務局は名古屋市環境学習センター)、学校の教育現場に、環境保全活動の現場の知識やノウハウを活かすエコギャラリー新宿の取り組み等、施設を拠点としたネットワーク構築の方法は様々である。

啓発活動の対象者をネットワークに求める場合、ネットワーク先の多くは学校である。学校の授業等との連携は様々な制約で実現が困難な場合もあるが、北九州環境ミュージアムは退職した教員をアドバイザーとして迎え入れ、学校の見学プログラム作りを手伝っている。

施設の運営や啓発活動をネットワークによって実施する場合、施設は市民団体や市民が力を集結する場となる。「運営体制」の項で取り上げた北区エコー広場館は住民参加による運営の先駆的事例。エコ・あくしょん江東は環境保全関連の市民団体が連合して啓発活動を委託されたケース、京エコロジーセンターはボランティアスタッフによる施設解説と、NPOによる講座実施という2種類の連携を構築している。

2章の「施設課題」に関する調査結果では「地域コーディネート」や、「ボランティアの協力」を挙げていた施設は1割前後と多くなかった。しかし、「ボランティア、NPOの運営への参加が重要」と考える自治体が9割に上ったのに対し、実際に運営や啓発事業に参加している施設は約5割前後だったことを考えると、潜在的な課題は多いと思われる。ここで取り上げたのは大都市のネットワーク事例だが、課題を抱える地域の参考になる事例を追加していく予定である。

幅広い環境情報の発信（地球環境パートナーシッププラザ）

地球環境パートナーシッププラザは、環境省と国連大学が共同で設置する、環境パートナーシップのための情報拠点。NPOと行政、NPOと企業など異なったセクターを結ぶことで、環境に関する諸問題を解決すべく、セミナーの開催やインターネットおよび機関誌などを通じて情報発信を行っている。

この施設では、環境問題の個別情報の提供などは行わず、環境分野の協働に関する情報に特化した事業を展開している。運営も、環境省・国連大学・NPOの三者により行われ、それぞれのネットワークを活かした広報などを行っている。

国が行う施策などに関して、政策立案者、市民・NPO、企業などを一同に会し、政策担当者が一般の声を直接聞く場としての「意見交換会」の開催や、環境省の次年度の施策に関する説明会である「重点事項ブリーフィング」など、行政とそれ以外のセクターを結ぶ事業を展開している。また、CSR（企業の社会的責任）に関するセミナーや、企業ボランティア育成に向けた、NPOと企業が集う場作りを開催している。

NPOなどの市民セクターからの情報発信支援として、環境イベント情報webサイト「環境らしんばん」を開設し、セミナーやイベントの情報を、一般・企業に向けて発信している。

道域ネットワークの活動 (北海道環境サポートセンター)

札幌には都心部に総合的な環境学習拠点施設が2箇所あり、「札幌市環境プラザ」が札幌圏在住者を対象として展示・見学に重点を置いて運営されているのに対して、「北海道環境サポートセンター」は、情報交流と活動・学習支援に重点を置き、道内全域をサービス対象として活動している。施設はJR札幌駅に面するビルの4Fにあり、フロアの開放、環境関連図書の閲覧・貸出、インターネットパソコン、各種教材・啓発資材貸し出し、各種パンフレット・ちらしの配布、会議室供用等が行われている。

環境全分野を対象とする情報交流型の拠点施設は道内随一であり、これまでも多方面から多様な期待や要請が寄せられてきた。そうした接点や活動支援、機関紙やインターネットを介した情報発信等により、道内の環境保全活動団体と幅広いネットワークを形成してきている。また、施設を運営する財団法人北海道環境財団は、温暖化対策法に基づく地球温暖化防止活動推進センターや、環境省北海道環境パートナーシップ(EPO北海道)の運営も担っており、これらの事業をとおして広く道外とのネットワークも有する。

情報はインターネット等で効率的に流通させることができるが、こうした活動の継続、発展のためには「フェイス・トゥー・フェイス」の活動こそが重要であり、「顔のみえる関係」を重視してきた。また、外部との協働による関係づくりも心がけてきた。現在もセミナーや企画展示等、施設で行われる事業の多くは、環境保全活動団体や関係機関との協働によっている。このほか、近年は学校での環境学習支援を強化してきており、札幌市、江別市、石狩市、北広島市、南幌町等、近隣中心とする小中学校の校外学習の受入れや、釧路市、稚内市等の遠隔地を含む道内各地の小中学校等での出前授業を相当数こなしている。なお、施設運営は公的補助に依存するが、現在は補助元からの派遣職員はなく、異動がないため人的なネットワークは活動を経るにつれて蓄積してきている。

他方、道内全域への均等なサービス提供は地理的にも無理があり、施設利用のみならず、セミナー等の事業や学校支援等も札幌圏に集中しがちで、遠隔地へのサービス拡大を課題として抱えている。また、市町村政策や企業向けの支援や貢献も課題である。

限られた人材と予算でこれらをクリアすることは容易ではないが、施設事業のみならず、前述のEPO北海道事業なども活用しながら、遠隔地のパートナーづくりや立場や分野の異なる主体とのネットワークを広げつつある。



北海道環境サポートセンター



情報コーナー

なごや環境大学との連携（名古屋市環境学習センター）

なごや環境大学とは、名古屋地域(周辺自治体も含む)の学習施設、大学・学校の教室、企業の施設・工場、空店舗・空スペース、森や川などの身近な自然など、まちじゅうをキャンパスにしようという考えから生まれたものである。

名古屋地域で行われている様々な講座やシンポジウム、見学会など環境に関するあらゆるイベントを取りまとめ、それらを整理して市民が体系立って把握できるように一冊のガイドブックに取りまとめたものである。(年2回発行)

ガイドブックには、名古屋地域の各団体が行うイベント(講座)の内容(概要、対象、定員、受講料、日時)が記載されている。これは、利用者側からはとてもわかりやすいことである。

環境学習は様々な場所で、様々な団体が実施しているが、それを取りまとめるには各団体とのネットワークが必要となる。そのまとめ役として事務局を担っているのが名古屋市環境学習センターである。市民への環境学習の実施だけではなく、その地域で活動している団体のネットワークづくりという役割である。



なごや環境大学ガイドブック
(2007春)

学校との協力 (北九州市環境ミュージアム)

北九州市環境ミュージアムでは、学校・団体利用のために、通常の常設プログラムだけでなく、さまざまな見学モデルコースが用意されている。教員経験者もあり、見学校側のニーズや所要時間に合わせた見学内容を検討し、最も効果的な見学コースを組み立てることができる。また、見学コースに環境学習サポーター(市民ボランティア)によるゲームや実験など、楽しみながら環境について学べる工夫を盛り込むことも可能となっている。

見学の際には、施設インタープリター(展示解説員)による展示解説とともに、目的や年齢に合わせた5種類のチャレンジシート(クイズ形式のワークシート)を解きながら展示を巡ることにより、より深い学習をすることができる。

展示コーナーの随所に環境学習サポーターが行うプログラムが準備されている。「地球の大きさ?」というプログラムでは、「サッカーボールを太陽の大きさにみたとすると、地球の大きさに近いのは、ソフトボール、テニスボール、ゴルフボール、パチンコ玉、じんたんのうちどれか?」という導入から、地球の資源や暮らし方について考える。「新エネルギー」のプログラムでは、模型用のモーターを手で回すことによって、豆電球をつけることを切り口に風力、潮力などの新エネルギーについて考える。

「総合的な学習の時間」の中に環境ミュージアムの「体験型学習プログラム」を組み込むことを学校側に提案しており、平成18年には、市内から133校、外国を含めて市外から193校を受け入れている。



環境学習サポーターによる「地球の大きさ」



発電実験



チャレンジシート

60分コース【見学コース例1】

オリエンテーション	展示ゾーン見学	映像メッセージ	ふりかえり
10分	25分	15分	10分

90分コース【見学コース例2】

オリエンテーション	展示ゾーン見学	映像メッセージ	特別プログラム「未来ホテルビンゴ」	ふりかえり
10分	25分	15分	30分	10分

120分コース【見学コース例3】

オリエンテーション	展示ゾーン見学	映像メッセージ	特別プログラム「ピオトース見学」	特別プログラム「未来ホテルビンゴ」	ふりかえり
10分	25分	15分	30分	30分	10分

見学モデルコース(北九州環境ミュージアムHPより)

企業・学校・地域団体とのネットワーク (エコギャラリー新宿)

エコギャラリー新宿のネットワークは、指定管理者であるNPO法人新宿環境活動ネットの実績に負うところが大きいといえる。

新宿環境活動ネットは、1999年に任意団体新宿環境情報ネットワークとしてスタートした。きっかけは1998年12月、新宿区環境部(現・環境土木部)主催の『環境シンポジウム』で、そこで出会った人々が、「区内の環境活動情報を横につなげば、それぞれがもっと元気に活動できるのでは」、と呼びかけあったのがはじまりだった。事業は多岐に渡るが、ネットワークに関連するものとして、新宿区エコ事業者連絡会と、「新宿の環境学習応援団」まちの先生見本市等がある。

【新宿の環境学習応援団】教育現場の「学校の先生」と地域で環境活動や普及啓発・環境学習を推進する「まちの先生」をつなぐパートナーシップを育み、教育現場で、企業や市民団体の知識やノウハウが生かされる仕組みを作る試みとして、学校での環境教育を支援ができる企業や団体を登録して、公立の学校を借りて「まちの先生見本市」という学校の先生とNGO・事業者が交流するイベントを年一度実施している。

2002年から毎年、区内の学校で実施しているが、2006年2月に開催した第6回まちの先生見本市では、51の企業・団体が提供できる学習活動の内容を紹介している。例えば、ファーストフードレストランは、「食と環境問題」というテーマで講師を派遣し、生ごみが自動車のエネルギーとなる、廃油が飼料や石けんになることを紹介する講座を提供している。また紙パックのメーカーは、紙パックがリサイクルされる過程や、森林の適切な管理についての講座の提供などが紹介されている。2003年にNPO法人化し、地域を繋ぐ活動を継続している。



手話コース



事例発表会



体育館での展示



ワークショップ

市民団体のネットワーク（えこ・あくしょん江東）

2006年11月に閉館となった「江東区エコ・リサイクルハウス」の施設運営と事業を委託されていた「えこ・あくしょん江東」は、事務局を中心として区内で活動している10の環境関連の市民団体のネットワークによって構成されており、その分野は自然系からエネルギー、3R、そして水辺までとても広い。

この「えこ・あくしょん江東」を組織化するきっかけは、江東区が先に記した「江東区エコ・リサイクルハウス」の運営を、区内で活動していた6つの団体に要請したことに遡り、その目的は「それぞれの団体・個人の特徴と能力を生かして、環境学習、環境保全に貢献する活動を繰り広げ、江東区を基盤に持続可能な社会を実現していくこと」と謳われている。この目的実現のため、「江東区エコ・リサイクルハウス」内だけでなく、教育機関や公共施設などにも出向き、組織を構成しているそれぞれの団体の特色を活かした講座やイベント、展示会など年間130以上の事業を展開してきた。講座やイベントは1つの団体が事務局と共に行うことが多いが、大きなイベント等の場合は複数の団体が参加して行ってきた。

現在は2007年2月、潮見に新設された環境学習情報館「えこっくる江東」で啓発事業を受託し、講座やイベントを手掛けている。

「えこ・あくしょん江東」が抱える課題として、発信する環境情報の質の高さや環境学習の精度を上げるために、客観的な評価の導入やレベルアップするための仕組み作り、事業面だけの受託では、地域住民との関わりが薄く、地域コミュニティとの関わり方に工夫が必要、性格の違う団体の連合体である「えこ・あくしょん江東」の組織の運営方法等が挙げられている。



えこ・あくしょん江東のメンバー



えこ・あくしょん江東のメンバーによる講座

ボランティアとの連携（京エコロジーセンター）

京エコロジーセンターのボランティアとの関わりは大きく分けて二つある。一つは既存のNPO等との関係、もう一つはセンター自らが募集し、育成している「エコメイト」についてである。

NPOとの関係では、NPOとの協働というのはセンターの設立当初からの基本方針であり、センターが行う事業の多くはNPOと協働で進めている。ピオトープの運営、環境学習のプログラムづくり、環境教育リーダー養成講座など、NPOに委託する形で進めている。その他、「環境先進モデル調査事業」を協働で実施するNPOなどを応募している。また、環境保全活動の支援として、毎年10団体に対して、活動費の1/2の助成を実施している。NPOが、独自に実施している講演会などのイベントも多くあるが、後援する場合には広報等を行うなどの協力を行っている。

次に「エコメイト」についてである。センターに入ると、青のベスト(夏はバンダナ)を着た「エコメイト」というボランティアスタッフが出迎え、施設を案内し説明してくれる。市内外から集まった「エコメイト」は80名、毎日複数名が交代で1人あたりおおよそ月2回程度「出勤」してくる。「エコメイト」になるには、講習を半年間受けることが要件であり、任期は3年である。3年の任期を終了すると、「京エコサポーター」として、地域のイベントなどで活動することになっている。「エコメイト」はテーマに分かれたチームが作られており、チームでイベントなどを企画・実施する。

このように、センターでのボランティアとの連携としては、説明などには「エコメイト」を活用し、講座やイベントなどはNPOと連携して実施している。



青いベストを着るエコメイト

3-4 評価と改善

行政における行政評価と同様、施設の評価方法も公共施設における今日のトピックの一つといえる。

施設の評価方法として今日でも最も多く行なわれるのは来館者数であろう。2章の「運営課題」でも、来館者数を伸ばしたいと考えている施設が半数に上り、「運営課題」の上位2位につけていた。来館者数は全市民を対象としている公共施設を評価する上で有効だが、例えばフリーマーケットのような、人数は多いが環境教育的効果が十分に行き届かないイベントと、少ない人数に対して丁寧な指導をする講座形式のイベントの質的な違いを評価しきれない点に問題がある。

評価手法については何れの自治体・施設も試行錯誤の中にあり、万能薬的手法の開発には至っていない。本節では評価に向けた様々な取り組みの中から、様々な評価の主体、そして評価を行った後の見直し・改善、という2つの視点から事例を集めた。

来館者アンケートは利用者からの評価を得る手法として一般的だが、好意的な記述が多くなりがちで改善に役立てにくい。ストップおんだん館の事例では属性の異なる3種類の利用者アンケートを併用しながら運営に役立てている。

指定管理者制度の導入で、公共施設の評価主体が運営主体とは別人格になるケースが増えてきた。新宿区の事例から、自治体側の委託団体選出方法が活動結果の評価軸に繋がることが理解できる。

杉並区の事例では、抜本的な改革のため、外部コンサルタントに評価を依頼している。マーケティングの視点を取り入れている点が興味深い。

目黒区と板橋区の事例は都内でも長い実績を持っている環境学習施設だが、目黒区の事例では活動実績と環境問題の変化を踏まえて施設テーマの変更がなされた。板橋区の事例では、より効果的な学習方法を目指して、施設の位置づけを巡る検討がなされている。

こうした評価・改善を抜本的に実施している施設は一部に留まる。汎用性のある評価手法の確立とともに、施設の評価・改善の必要性を施設自身が理解し、環境学習施設全体の底上げを図っていくことが重要といえる。

自治体による指定管理者の評価（エコギャラリー新宿）

エコギャラリー新宿の運営についての評価は、新宿区が指定管理者の管理業務に対して実施する事業評価と新宿環境活動ネットが自主的に実施する評価のふたつがある。

新宿区が実施しているものは、年度の管理業務が、年度当初に締結した協定書に基づいて、不足なく行われていたかどうか、また、施設の設置目的に照らして適切に管理されていたかどうかについてチェックを行い、今後の管理業務に反映させるため行うもので、平成16年には外部有識者5名、区職員4名で構成される評価委員会で実施、平成17年は所管課である環境保全課と教育委員会の区職員4名によって行われた。

評価の概要は、施設の管理運営業務に関すること、環境学習関連事業に関すること、収支状況に関することについて、指定管理者が作成した報告書と現地調査・ヒアリングにもとづいて評価するもので、平成17年度は、次の3段階で評価している。A…適正に行われている B…最低限必要なことは行われている C…改善を要する。（平成16年度は、4段階であった。A…大変優れている B…適正に行われている C…最低限必要なことは行われている D…改善を要する）。

エコギャラリー新宿の指定管理者として、新宿環境活動ネットは、2004年と2006年と続いて選ばれたが、これは新宿環境活動ネットの活動が区の2つの選定要件に合致していたためと考えられる。第一は、地域の環境に関する団体を活用し地域の環境改善に生かせることが重要で、そのような力がある民間団体または企業を対象にしていたこと。第二は、コスト削減だけが目的ではなく、環境に対する意識改革と実践をめざすこと、であった。

指定管理者の評価は、ともすれば、講座の開催数や利用者数だけで評価されてきているが、事業の質を評価しようとしている一例といえる。



外観（エコギャラリー新宿HPより）

外部委託評価（すぎなみ環境情報館）

すぎなみ環境情報館は地上5階、地下2階からなる複合福祉施設の1フロアを利用している。その他の階は、福祉事務所、児童館、消費者センター、社会福祉協議会といった機能・団体が入っている。施設のオープンは平成16年4月だが、初年度はあまり利用されない状況が続いていた。内部的な協議を重ねたが打開策が見つからず、オープンしたその年、民間のコンサルタント会社に問題解決のための研究を委託し、施設の抜本的な見直しを行った。

先ず、ターゲットの見直しを行った。施設の計画段階で様々な意見を聞いていたが、環境分野の専門家だったため、一般利用者にはなじめない施設となっていた。この指摘から「次代を担う子ども」や「あと一押しすれば課題に気づく人」をターゲットにすることとし、これに伴い、ハード面や環境学習プログラムにも手が加えられた。

ハード面では、サインの見直し、整備専門書架を整理し、イベントスペースを設置、1階エントランスに受付を設置し、パネル展やビデオ放映などを実施。学習ソフトの面では、子ども向け、初心者向けプログラムの整備、イベントスペースでのフリーマーケットや展示会の開催、屋上緑化の有効活用(植栽ボランティアによる屋上庭園化と庭園を利用したイベント開催など)、といった様々な工夫が施された。こうした改善により、来場者が月当たり3,000人から5,000人増加した。また、講座への参加者も平均12.5人から19.6人へと増加した。

行政は多くの場合、一度決めた方針は簡単に変えることができないが、「すぎなみ環境情報館」の場合は特異と言えるかもしれない。その背景には区長直轄で区の職員OBが館長の任に就き、陣頭指揮を執ったことにあると考える。



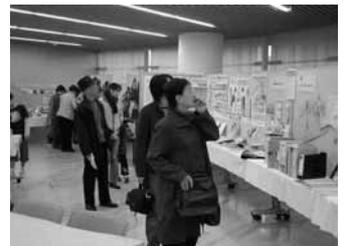
複合施設「あんさんぶる荻窪」外観



リニューアルされ名称表示等がついたエントランス



専門書架



イベントスペースでの展示会

アンケートとアドバイザー会議の実施（ストップおんだん館）

ストップおんだん館では、利用者の声を把握し内容を改善していくために、「来館者アンケート」「予約プログラムアンケート」「ツール貸し出しアンケート」を行っている。

来館者アンケートは、来館した人に記入してもらうもので、内容は来館者の満足度を把握できるような形式にしている。予約プログラム用は、プログラム実施後に代表者から回収し、ツール貸し出し用は、回収時に回答をもらっている。アンケート結果は、改善を行うなど、館の運営に役立っている。

アドバイザー会議は、館の運営等について外部の委員（NPOや企業など）に意見をもらう場であり、大きな方向性等について意見をもらうことにしている。

環境学習はすぐに結果があらわれるものとは限らず、プログラムや運営等をどのように評価していくかということは検討事項である。来場者数だけで評価されるのではなく、リピーターの数や満足度などを評価軸にしていこうとしている。



ストップおんだん館

施設テーマの見直し ゴミからエコへ (目黒区エコプラザ)

目黒リサイクルプラザは、区のリサイクル事業と密接な連携を図りながら、リサイクルの普及啓発を目的として平成5年4月に開設した。そして、運営に幅広く区民事業者の知恵を導入していくために区民や事業者を構成とするリサイクルめぐろ推進協会を設立し、リサイクルプラザの企画運営に当たってきた。その後、平成10年には平町リサイクルプラザが開設し、2施設での運営となった。

しかし、温室効果ガスの増大に伴う地球温暖化問題が大きな社会問題となるに連れ、区としてもそれらの対策を具体的に進めていくことが必要となり、「リサイクル」だけでなく広く環境をテーマにした施設とすることとなり、名称を「リサイクルプラザ」から「エコプラザ」とし、運営する団体名も「エコライフめぐろ推進協会」に改名した。

テーマは、これまでのリデュース、リユース、リサイクル等の3R以外に、ヒートアイランド問題、温暖化問題、緑や水質浄化等のテーマまで幅が広がり、それに応じて展示や講座の内容も変更した。区役所の所管課もごみ・リサイクル担当から環境保全担当となった。

リサイクルプラザの時は、町内会や自治会などの地域密着型であったが、エコプラザとなると、それらを大切にしながら、加えてまちづくりや環境保全などの団体とのネットワーク事業も増えてきている。また、ヒートアイランドのテーマを扱うことになり大学など専門家との連携も必要となった。



資料コーナー

施設の位置づけの見直し ベースキャンピング化 (板橋エコポリスセンター)

板橋区の環境学習施設”エコポリスセンター”は平成7年に環境情報発信基地としてスタートし、今でも毎年20万人前後の来場者をカウントしている。公設公営のスタイルをオープン当初から維持している。

エコポリスセンターで使われるプログラムの開発は板橋区内にある大学の教授をはじめとした有識者や町会、商店街、学校関係者などから構成される運営協議会でテーマが決定され、センター内の非常勤職員(板橋区独自の指導員制度で養成された人たちで、エコポリスセンターが非常勤職員として採用している)によってプログラムが開発されている。テーマも自然系から大気汚染、温暖化防止、ごみ関係といった街中系まで環境全般を手掛けている。プログラムの熟成は講座を通して、問題点が見つければ、その点を改良しながらプログラム自体のグレードを上げている。

近年では、このプログラムを館内だけでなく、区内の小中学校に出向いて行う「環境学習の出前講座」で実施することが多くなっている。平成17年度では区内78校の小中学校の内、50校でこの出前講座を実施した。これだけ多くなると、講師の確保も大変で、職員や指導員だけでなく、大学のインターン制度で受入れた大学生にまでお願いすることがあったとのこと。ここまで出前講座を進めた背景には、“箱には人は集まらない”ことを経験し、それならば、対象としたい人が集まっている所に出向いて講座を行えば良いという考えがある。設立当初は環境学習の情報発信基地として、今では環境学習を行う上での拠点(ベース・キャンプ)として施設を位置付けている。

プログラム評価についても、現行実施している入場者数や講座参加者数といった実数、参加者へのアンケート調査による満足度といった意識、両面から評価を行っているが、最近では学校からの協力も得られ、数値判断ができる評価作りを模索している。



板橋区立エコポリスセンター

3-5 啓発・学習活動

環境学習に関連する講座形式のイベント(以下啓発事業)は、多くの環境学習施設にとって啓発の「要」となる中心的な活動である。限られた資源を活用しながら効果的な学習プログラムを組むために、多くの施設が創意工夫を凝らしており、学習プログラムの全体像を把握してその要点と課題を理解することは、環境学習施設の「環境学習の現状」を知る上で欠かせないものといえる。

啓発事業の内容は施設方針や運営体制、施設の立地や周辺環境等が大きく影響する。

特に人的要因は大きく、ボランティアが中心となって啓発活動を展開する場合は、ボランティアの特技等を活かすことを重視するケースが多い。ワークショップ形式の啓発事業はファシリテーターの個性によって同じプログラムでも大きく違う印象を与えるものとなる。設備や予算が影響することは言うまでもない。つまり施設によって啓発事業の条件が異なり、施設にあった啓発事業を考える必要がある。

本節で取り上げたのは、今日の環境問題でも特に緊急性のあるトピック(地球温暖化、物質循環の確保と循環型社会の構築、健全な水循環の確保、生物多様性の保全)に関連する啓発事業である。これらの事例は新たな啓発事業を考えるヒントにもなり得るし、地域人材の発掘方法に新たな視点を与えるものにもなる。

今回取り上げたのはごく一部の事例である。追って事例を追加していく予定である。

地球温暖化問題

自然エネルギーの活用（京エコロジーセンター）

センターには小学生用と中学生・高校生用を対象とした学習プログラムを全部で7つ用意している。ごみ、くらし、水、自然エネルギー、食、自然をテーマにしたものである。

例えば自然エネルギーをテーマにしたプログラムでは、自然エネルギーについての概要説明の後、1階にある自転車発電等を体験、それから屋上での太陽光発電の見学を行う。そして、部屋にもどって自然エネルギー関連のビデオを見て、最後に振り返りシートに、エネルギーの大切さや自分でできることなどを記入して終わるというコースである。

センターでは、温暖化防止のプログラムも現在開発中である。



外観



太陽光発電

「南の島体験ゲーム」（北海道環境サポートセンター）

日本の暮らしと南国の島に住む人とのつながりについて考えるゲーム。

はじめにスライドを使って地球温暖化と私たちの暮らし、南の島への影響を紹介。その後、6つのグループに分かれて、南の島体験ゲームをスタートする。ゲームはすごろくを進めると自分達の暮らしで南の島の海面の高さが何センチ上がるか、下がるかが分かる内容になっている。すごろくが終了したあと、その水位結果を実際に南の島の模型が入った水槽に水を入れて実体験する。それぞれのグループの結果で南の島が沈没したり、また出でたり、自分達の暮らしの影響を模型によって再現される。最後に水が増えたり減ったりした理由についてグループワークをしてその結果を発表する。



すごろくで海面水位が変化する



水槽による水位変化の実験

「電気な人はだれ？」(北海道環境サポートセンター)

身の回りにあるたくさんの電化製品は便利で欠かせないものになっているが、本当に必要なのか、減らすことはできないのかを考えるプログラム。

電化製品の絵が描かれたイラストカードを使って、「もしも3つしか選択できなかったら」というルールでカードゲームを進行。一人ひとりが自分に本当に必要な3つのカード(電化製品)を選ぶ。いらない電化製品については、なくても困らない方法を考えて発表する。

エレベーターを使わないで階段を使ったり、暑いときはクーラーを使わないで窓を開ければいいなど、普段はあまり気にしなかった電化製品を使わないで済む方法を参加者同士で考える。締めくりに一人ひとりが選んだ3つのカードをもとに性格判断をする。



必要な電化製品を3つだけ選ぶ

物質循環の確保と循環型社会の構築

多様なリサイクル教室（しものせき環境みらい館）

しものせき環境みらい館では、体験教室とリサイクル教室を実施している。体験教室は、リサイクルプラザの来館者は、いつでも・誰でも体験できるもので、「紙すき」「裂き織り」「廃油石けん」などの講座があり、平成18年には、延べ3364人のボランティア講師によって302回開催され、2523名が参加した。

リサイクル教室は、事前に参加募集をする教室で、パッチワーク、裂き織り（機械）、ガラス工芸（サンドブラスト技法）、染色（草木染）和服のリサイクル、廃油で石鹸作り、生ごみ堆肥化、きものの着付け教室、古布でぞうり作り、古布で小物など、約15の教室がある。年間302回、2500人を超える受講者数がある。



布ぞうり



空き缶工作

リサイクル手芸（北区エコー広場館）

不要となったシャツやズボン等の布を用いて帽子やかばん等を作る手芸教室。不要となった布を利活用するリサイクルを裁縫教室のようなプログラムの中で実践する。通常開館後10時過ぎから開始し、持参したお昼のお弁当を挟んで3時前に終了する。この時間内に作品が完成することを想定しているが、大まかに作って家で完成するケースもある。

通常20人以上の参加者があり中高年の女性が多い。リピーターが多く施設の活動として定着しており、講師は裁縫技術の指導、デザインのアドバイス等をする。講義の位置づけとしては環境学習的な要素よりも「リサイクルの実践の場」という位置づけが強い。

北区エコー広場館の場合、リサイクル手芸を通して講師が声高に物を大切にすることを説くというよりも、家庭的な雰囲気づくりによって、リサイクル文化の場としての継続的な活動にポイントがあるといえる。



裂き織り



パッチワーク

自転車工房 工作教室 (千里リサイクルプラザ)

吹田市くるくるプラザ(資源リサイクルセンター)は、ごみの減量、再資源化および再生利用を図り、快適な生活環境づくりと循環型社会を形成するため、市民のリサイクル活動を推進する拠点施設で、ごみの再利用、啓発、研究のための施設。平成4年(1992)にオープンし、行政や近隣の企業により出資された(財)千里リサイクルプラザが運営に当たっている。

この施設の特徴として、“衣類のリフォーム教室”、“染め物教室”、“陶芸教室”、“自転車整備持ち帰り教室”、“ガラス工芸教室”、“家具・木工教室”が設けられていることだ。指導員によるアドバイスや、ごみとして出されたもののリフォームを行い再利用している。リサイクル活動の実践や体験をする場として専用の教室があり、中でもガラス工芸教室は、炉も備えた本格的なもので、自分のお気に入りのグラスを作ることが出来る。



リサイクル手芸成果品の販売



ガラス工芸教室の炉

「ごみ分別で、ゴミラをたすけ君！」(えこ・あくしょん江東)

平成19年2月に開館した「えこくる江東」では開館から約2ヶ月間の土曜・日曜を中心にオープニングイベントが開催された。「ごみ分別で、ゴミラをたすけ君！」は、その一貫で行なわれた、ごみの問題を知ってもらう子供向けイベント。ゴミラ(着ぐるみ)と、“ゴミラをたすけ隊員”(区の清掃職員)が登場し、持ち込んださまざまなごみを会場の全員参加でどう分けるか体験し、リサイクルの仕方や、元のごみを減らすにはどうしたらよいかなどを学ぶ。

その後の清掃車の見学を行い、日ごろ見ることのできない清掃車の仕組みや工夫、自分たちの出すごみが思わぬ危険につながることを学び、ごみの問題を身近に感じてもらう。



ごみの分別をする風景



清掃車の前で記念撮影の参加者

生物多様性の保全

自然体験観察園（生き生き地球館）

生き生き地球館には、施設内に自然体験観察園が併設されており、機能に応じて5つのエリア分けがなされている。(特活)シニア環境大学のスタッフによるガイドツアーなども行われており、都市内では貴重となった生物について学習することが出来る。

- ・体験広場 各種の行事で自然の材料を使った工作や秋の脱穀作業などが体験できるようになっている。母屋(休憩所)があり、食事が取れるようになっている。
- ・野草・草地広場 セリ、ナズナ、ハコベラ、ナデシコなど、生活の中で昔から親まれてきた四季の野草や草花を楽しむことができる。
- ・雑木林 田畑を取り囲むように広がる雑木林では、クヌギやコナラの林など多くの生き物を育てている。里山の景観を再現している。
- ・田園 段々になった田畑の風景があり、春には美しいレンゲ畑になる。近くには、ため池や蓮田などがあり、単なる田畑ではなくトンボなどの虫たちと共生空間を作っている。畑では、綿やケナフなど、私たちの生活の中で使われている植物を育てている。
- ・有用植物の庭 楊枝の原料であるクロモジ、紙の材料になるミツマタ、染料になるクリナシやシャリンバイといった生活に必要な植物について知ることができる。いろいろなハーブも植えている。

「自然観察会」(えこ・あくしょん江東)

江東区は、ほぼ全域が江戸時代の埋立て事業で作られ、近年では工場跡地にマンションが林立する町へと変貌している。

こうした町の歴史を盛り込みながら、地域の自然に触れてもらう、自然への興味を引出させ、生態系の意識を獲得する、そして、生き物が生き続けるためには生息できる場が必要なこと等を自覚させる目的で月1回のペースで自然観察会を実施している。

参加者の多くは、小学校4年生の児童と親。現代の親も子ども時代に自然体験が少ない世代であり、この観察会の対象者としている。観察会に実施する仙台堀川公園は、江戸時代に造られた運河を埋めて造られたもので、公園内に汽水の川が流れている。川にはハゼ類を初めとする魚や、鳥、貝、フジツボやイソギンチャクが生息しており、河口域の近くという地域性を生かしながら地域の自然観察会を実施している。



観察会の様子



イソギンチャクが生息している

「タネのふしぎ」(えこ・あくしょん江東)

「えこっくる江東」の2Fにある企画展示コーナーには、子ども向け環境学習ツールBOXが数種類用意されている。”好きな時に好きな友だちと、楽しく遊びながら自然に学べるように工夫されている。

「タネのふしぎ」は、動くことのできない植物たちは子孫を残すためのさまざまな工夫がある。「はじける」「くつつく」「風に乗る」「風に舞う」「鳥に食べられる」「リスなどに運んでもらう」など、どの種がどんな工夫をしているのか、実物の形を良く見てゲーム感覚で体験。

ひと昔前に江東区に住んでいたと思われる狸やイタチなどが的になっている「オナモミダーツ」は、ボードにダーツのように投げて遊ぶ。

いずれも簡単な内容だが、見ただけで遊び方が理解できることが重要で、来館者が展示に触れることをきっかけにしてインタープリターが来館者に語りかけ、一緒に遊びながら興味を広げていける。



タネのふしぎ



おおかみダーツ

化学物質の環境リスク

水とわたしたちの生活（新潟県立環境と人間のふれあい館）

身近な水の水質調査を通じて、水質汚染の原因を考えるプログラム。

参加者は学校周辺の用水や施設周辺の湖沼(福島潟)の水を持参する。約30分のワークショップで採取した水のCODパックテストを実施。CODとは化学的酸素要求量(Chemical Oxygen Demand)の略で、水中の有機物が分解されるために必要な酸素の量を表す。参加者はCODパックの中に調査対象の水を入れ、CODパック中の試薬の色が変化する様子を観察し、色の変化具合でそれぞれのCODを把握する。用水や湖沼の水の他、水道水の中に醤油を1滴垂らした水も実験対象とすることがある。見た目が透明な水でも水質面で汚染されていることを明らかにする。

その他

エコマップ (エコギャラリー新宿)

環境マップは、新宿の環境やまちづくりについての情報を、たくさんの参加者が持ち合って、ひとつの地図を製作することによって、まちの環境についての情報を共有し、環境改善の方策を考える手法である。エコギャラリー新宿ではエコマップを展示だけでなく、講座やイベント、環境リーターの研修など、様々な用途に活用している

「新宿エコマップ」は、NPO法人新宿環境活動ネットが、エコギャラリー新宿の指定管理者になって以来約1年半の間、来館者と共に作成してきたもので、区内の良いところ(花がいっぱいきれいなところ、虫や生き物がたくさんいるところ)、悪いところ(工事中で危ない)、可能性があるところ、などの情報が、書き込んである。

「はかって何？」は、夏休みに、子供や先生が、新宿中央公園内での温度を計って記録したエコマップである。地球温暖化やヒートアイランド現象の緩和のために自然がどのような役割を果たしているかを学ぶために実施したもので、芝生の温度は25度だったが、コンクリートの歩道の表面は43度もあったことや、滑り台の表面が57度に達していることなどが報告されている。公園管理のための参考情報として、区にも報告されている。



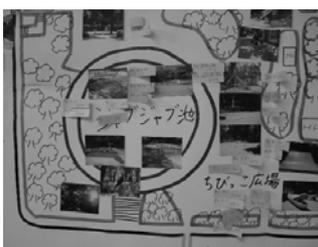
新宿エコマップ



草花観察探検in新宿マップ



はかって何？マップ



はかって何？マップ(部分)

「砂町のエコトレジャーを探せ」(えこ・あくしょん江東)

「持続可能な町づくり」の根幹は自分の住む町のステキさ、豊かさ、暖かさであることを、子どもたちに気づいてもらうための街中探検講座。

旧エコ・リサイクルハウスのあった南砂町で実施した講座で、同区で活動している社会教育団体とのコラボレーション事業として実施。宝探しの指令書をもとに街中をグループに分かれて探索し、数々の仕掛けを体験。この過程でステキな大人達に囲まれている幸せを実感し、自分が大人になった時にはそんな暖かい人のつながりのあるコミュニティの創生者になって欲しいと願い企画し、実施した。

南砂の履物屋さん、呉服屋さん、団子屋さん、鉄鋼所、神社を守る古老などのご協力をいただき、その方々お一人お一人が宝であり町全体型が宝である事に気づいてもらい、将来自分もそういう宝になれるようにというメッセージをこめた。



エコトレジャーに出発する子どもたち



エコトレジャーを終えて記念撮影

エコマネーの活用(名古屋市環境学習センター)

EXPOエコマネー事業は、愛知博覧会の期間中に行われていた事業である。市民は、万博会場内、また会場外の協力店舗(サポーター)で買い物時にレジ袋を断ったり、公共交通機関を利用することで“EXPOエコマネー”(=ポイント)を貯めることができ、万博会場内にある「EXPOエコマネーセンター」で、貯まったポイントを植林事業に還元したり、エコ商品に交換することができるというもの。

この事業は、愛知博覧会後も継続して行われている。レジ袋を断ることや公共交通を利用するとポイントが貯まることは同じだが、さらにエコパルなごやに来場したり、なごや環境大学を受講したりするとポイントが貯まるという内容を加えた。

貯まったエコマネーポイントは、ウッドトレイやパスケース等のエコ商品と交換できたり、植樹への寄付もできる。ポイントの交換やポイントの付与(レジ袋を断るなどのエコ活動でためたポイントをエコマネーに転換)はEXPOエコマネーセンターだけであったが、エコパルなごやトリサイクル推進センターもサテライトとしてオープンした。

名古屋地区の環境関連の活動とエコマネーを有機的に結びつけた事業として注目される。



エコマネーの樹木への寄付を宣伝するポスター

地域の環境を考える「しものせき竹取物語」

(しものせき環境みらい館)

「しものせき竹取物語」は竹林を整備・管理するボランティアグループで、事務局を「環境みらい下関」において2006年にスタートした。

これは、平成10年に山口県で策定した「やまぐち里山文化構想」に基づいた、“かぐや姫の里づくり”の一部をなすもので、放置された竹林が、周囲の里山や、スギ・ヒノキ人工林に侵入するという問題が生じているため、地元竹林所有者と都市住民(地域外住民)の交流・連携による美しい竹林の里の再生活動を展開している。所有者との協議し・地域の方々と交流などを通して、竹林の整備及び管理、竹の炭焼き、竹材の利活用(竹細工)、タケノコの収穫などを行っている。



竹林整備の様子(HPより)

3-6 展示物

環境学習を「施設」で行う根拠は展示物にあるといっても過言ではないが、どのような展示が良いか、という議論は殆どなされていないのが現状である。環境学習のための施設と展示の関係について考えてみると、いくつかの特有の課題を挙げることができる。

まず、展示が地域に根ざした博物学的希少性を持つことや、芸術的鑑賞に堪えるケースは稀で、強い集客効果を生むことが難しいという課題がある。施設の特徴を出し、来館者が興味を持つための強いストーリー性やアイデアが求められる。

展示は単に面白いだけでなく、施設テーマに即した啓発的效果を生み出すことを求められる。展示を通して、地域あるいは地球の環境の状況と普段の生活を結びつける想像力を如何に働かせられるかがテーマとなる。このために、単に物としての展示物だけでなく、直接来館者に話しかけ、いっしょに考えるインタープリターの役割が重要となる。

日々刻々と変化する地域や地球の環境の状況に常に追いつくことが求められる、という課題も挙げられる。特に地球温暖化は近年急激に進行しているといわれており、温暖化に関連する情報は直に古くなってしまふ。2章の「啓発事業」の項で一番多かったのが「展示を用いた解説・館内案内」であったが、「施設の課題」で、「人員予算」・「来場者数」に次いで「展示のマンネリ」は3位につけていた。展示に使える年間予算は平均すると数十万程度で更新は非常に困難な状況にある。これは一番伝えたい新しい情報を展示できない環境学習施設が全国に存在することを意味している。

本節では啓発事業と同じく、環境問題の中で特に緊急性のあるトピックに絞って展示物の事例紹介をしている。一部の施設ではあるが、新たに展示物を制作する際の事例集として、また、本報告書のテーマでもある展示物の共有化・共同開発に向けた基礎的データとなることを意図している。

地球温暖化問題

「持てるかな」、「かくかくしかじかおんだんか」、
「ならべてみよう」（ストップおんだん館）

ストップおんだん館の展示は、インタープリターとのコミュニケーションを通じて理解したり、考えるということを基本としている。また、館内にはそれぞれねらいをもって作られた複数の展示物があるが、特にコースを設けて、見る順番を決めているわけではない。団体で事前に申し込むと、インタープリターが参加者の時間や目的に応じてプログラムを組み立て、対応してくれる「予約プログラム」を受けられる。

なお、参加型の学習プログラムつき展示物は貸し出しも行っており詳細はホームページに掲載されている。

展示物の一例を示す。

「持てるかな～エネルギーのかばん～」は、3つのバックがあって、それぞれアメリカ、日本、中国が使用している石油の量を一人当たりの重さにして示しており、その国を当てるといもの。中国が軽く、日本はかなり重く、アメリカはさらに重い。使用しているエネルギーの大きさを実感してもらうというもの。

「かくかくしかじかおんだんか」は温暖化のメカニズムを理解してもらうための展示物である。二酸化炭素などの温暖化ガスの役割を地球のイラストパネルに「ねつ」や「CO₂」といった小さなマグネットを貼り付けながら説明する。地球の一部分のパネルをめくると、地下の断面を示すパネルになる。地下から掘り出された化石燃料の消費がCO₂を多量に発生させ、バランスを崩しているということ理解できる。

「身近なものから地球の歴史を知る～ペットボトル編～」は、ペットボトルができるまでを、石油ができるもととなった海のプランクトン、原油、ナフサ、PET樹脂などを順番に並べたりしながら、長いプロセスをえて経てできてきたことを理解してもらうものである。説明の合間には石油ができるまで何年かかるかを考えたりするクイズなども用意されている。



「持てるかな」



「かくかくしかじかおんだんか」



「身近なものから地球の歴史を知る
～ペットボトル編～」

人力発電マシン（京エコロジーセンター）

エコロジー体験コーナーには、「人力発電マシン」が設置してある。自転車型の発電機でペダルをこくと電気が起こるというものである。よく見かけるのは、発電量を表示するものが多いが、子供たちになじみがある携帯用ゲーム機がセットされている。ゲームをすることなどほぼ不可能で、画面を表示させるだけでも精一杯である。日頃使っている携帯用ゲームに必要なエネルギーを体感できるというものである。



ハンドルにゲーム機がある発電マシン

気づきと学びのコーナー（京エコロジーセンター）

地球温暖化についてわかりやすく解説した大型の本、「地球温暖化は始まっている」がある。温暖化のメカニズムや温暖化の影響までを簡単に説明している。大きな本を自分でめくるという行為の楽しさを加味した展示物である。壁面には「急激な気温の上昇」と「地球温暖化と暮らしはつながっている」と2枚の立体パネルが展示されている。地球温暖化の実態をわかりやすく捉え、それと生活のつながりをシンプルに表現している。立体的そして大きく表示し、ちょっと立ち止まってみたいくなるという感じにしている。



立体的で大型の展示

京都議定書の2回目のハッピーバースデー (京エコロジーセンター)

京エコロジーセンターの企画展示。

牛乳パックで作った「木」の林の枝に、牛乳パックでできた「葉っぱ」がついている。来場者は、地球温暖化防止に関するメッセージを、葉っぱの形にちぎった紙(メッセージペーパー)に記入する。メッセージペーパーは、既に付いている「葉っぱ」をはがして付け替えて持ち帰ってもらう。「葉っぱ」の中には花の種が入っているという仕掛けである。



牛乳パックの「木」に葉っぱ型のメッセージペーパーがついている

節電とCO2 (札幌市環境プラザ)

節電とCO2発生の関係を生活に即した視点から理解するための展示。

エアコン、電子レンジ、テレビ等が置いてある電化製品棚、その電化製品から伸びてきているコンセントとコンセントの穴、そして情報モニターからなっている。電化製品から伸びてきているコンセントをコンセントの穴に入れるとモニターに総電力が表示される。電力の計算は家電製品によって異なっているがコンセントを入れたままの待機電力と比較できる。また、パネルを操作すると、その電力が発電の際放出するCO2の量と、そのCO2を吸収するための木(トドマツ)の本数が絵で表示される。

「コンセントを抜くとCO2の排出抑制、森林への付加抑制ができる」ということが理解できる展示で、特に「コンセントを抜く」という具体的な動作と結びつけている点がポイントといえる。



家電製品



コンセントのついたモニター



放出するCO2の量をトドマツの本数で表示

物質循環の確保と循環型社会の構築

ゴミの分別クイズ(札幌市環境プラザ)

各自治体の資源ゴミの分別に関しては多くの展示品がある。札幌市環境プラザの展示品も他施設同様、様々なゴミがどの分別区分になるかをクイズ形式で当てるものだが、一步踏み込んで動作的要素を取り入れている。分別ゴミ箱を模った回答用のボックスの上部にパソコン画面を設け、画面に出た資源ゴミの分別に相当するゴミ箱の穴に手を入れてクイズに答えるようになっている。CO2の展示品同様、ゴミを正しく捨てるという「具体的動作」と結びついている点に配慮が見られる。

また、周りには紙リサイクルの様々な選択肢をまとめたボードや、コンポスト内の腐敗化プロセスの模式的展示等、ゴミをテーマとした様々な展示がまとめられている。



ゴミの分別クイズ



迷える紙

ものの一生 (板橋区エコポリス)

環境学習ソフト「ものの一生をたどる」は今から10年以上前、産学官の有志による共同プロジェクトとしてスタートし、環境学習施設をはじめ、教育機関などで使用された。

この事業の大きな特色は「割り勘」の考え方をういたところ。当時はまだコンピュータがそれ程普及されていない時代で、ソフト開発にも大きな金額が必要だった。一方、ブラジルで開催された地球環境サミットで宣言された「アジェンダ21」や「ローカル・アジェンダ21」などで自治体が環境学習施設を設置する時期を迎えつつあった。そこで、施設に必要な学習ソフトを共同で制作することで、一自治体が負担する費用を抑えることができた。このプロジェクトには10自治体程が参加し、それぞれの自治体に設置された環境学習施設でも「ものの一生をたどる」は使用された。



ものの一生(一画面)

「ゴミ箱で見るごみの変化」 (えこっくる江東)

平成19年2月にオープンした「えこっくる江東」は、「身近なゴミの話から、世界の環境の問題まで、楽しみながら体験しながら学べる施設」を標榜している。1Fの常設展示コーナーには「ゴミ箱で見るごみの変化」といった展示物が設置されており、「江戸時代」、「高度成長時代」、「現在」と3つの時代に使用された「ゴミ箱」と「ごみ」を比較する構成になっている。江戸時代は「使えるものは何でも使う」精神が徹底しており、ゴミ箱に入れられる物は「瀬戸物のかけら」や「ほこり」、「ちり」の類。高度成長時代の特徴は「生ごみと紙」がゴミ箱に入れられた物の半分以上を占め、徐々にプラスチックや家電・家具などもごみとして出てきた時代として紹介。そして、現在は分別収集の時代に入ったことを紹介している。博物学的視点からごみ問題を考える展示となっている。



「ゴミ箱で見るごみの変化」

日本人1人の年間の紙の使用量 (いきいき地球館)

日本国内の紙の使用量を人口で割った枚数がどれだけ多いかをコピー用紙を使って説明した展示。

現在の多さを示すため、昭和10年(1935年)から平成7年(1995年)の間の4年を選んで比較しており、同じ量の紙を生成するのに必要な木の本数をミニチュアで示している。これによると1935年は 約2323枚で 直径14cm 高さ8mの木約1/3本分だが、1995年は 約35161枚、直径14cm 高さ8mの木約5本になっていて、約15倍増えている。

積み上げたコピー用紙は人の背丈を遥かに超えており、如何に環境負荷が高くなっているか、紙の無駄遣いを控えるべきかが実感できる。



コピー用紙を積み上げた展示



1人が1年間する紙を木に換算

都市の大気環境の確保

北九州地域の大气汚染（北九州市環境ミュージアム）

北九州市環境ミュージアムの第2ゾーンは、八幡製鉄所など北九州工業地帯から出される排煙によって引き起こされた「公害」とその克服の歴史について展示している。ここでは、公害の深刻さを証言するものとして、亜硫酸ガスが溶けた雨によって腐食した地元小学校の雨どいや瓦などの実物が展示されている。

また、音声と回転するジオラマ（本当の情景を再現した模型）を組み合わせた「ラジオラマ」で、主婦や子供たちなどの生活する人の眼でみた公害のストーリーを、ジオラマを見ながら聞くことができる。ストーリーは、日本語、中国語、韓国語、英語の中から選んで聞くことができるようになっている。



亜硫酸ガスが溶けた雨で腐食した雨樋



公害の歴史を解説したラジオラマ

健全な水循環の確保

水の流れ（北九州市環境ミュージアム）

汚れた水をきれいにするために、どれくらいたくさんの水が必要かを示すものとして「こんなにも水が必要」という展示がある。

これは、生活排水を魚が住めるくらいきれいにするためには、どのくらいの水が必要かを考えるもので、3D映像として表示される選択肢（みそ汁、醤油、牛乳、カップ麺、マヨネーズ）の中から最も水が必要なものを選ぶようになっている。単純な質問だが、ハイテクを用いて提示することによって、大人でも楽しめるものになっている。

なお、日本語の他、英語、中国語、韓国語でも表記されている。



「こんなにも水が必要」



3D映像で答えを表示

洞海湾に関する展示（北九州市環境ミュージアム）

洞海湾の汚染と水質改善は、第2ゾーンの展示の中核である。標本やパネルなどを有効に使って、水質の変化が視覚的に理解できるように展示されている。汚染がひどかった1960年代のヘドロの標本が当時の水質のデータをもとに作られて展示されている。また、湾内の水質のサンプルも展示されており、水質の改善状況が一目で比較できるようになっている。

汚染がひどかった当時の洞海湾の写真と現在の写真を対象した写真や、水質改善の結果、湾内に帰ってきた魚の種類を示したパネルなどもある。こうした写真やパネルを多角的に組み合わせることによって、水質改善が実感できるようになっている。



洞海湾のヘドロ



洞海湾水質汚染の改善



1960年代の洞海湾と現在の洞海湾

雨と水循環(すみだ環境ふれあい館)

東京で使われる水の大半は上流のダムに頼っている一方で、都内には年間の水道使用量を上回る量の雨が降っている。これまでは、この水資源を捨てる一方だったため、墨田区では25年前から雨を活かす運動に取り組んでいる。

具体的には、路地尊と呼ばれる地域コミュニティの中で貯めて活用できるの埋設型の雨水タンクの設置、学校や公共施設での雨水利用の推進、ビルや一般家庭で雨水タンクを設置しやすいよう助成などを実施してきた。昭和59年に完成した両国国技館に雨水利用の施設があり、地下に1000トンの貯水槽が設置されている。そのとなりにある江戸博物館は2500トンの雨水をためることができる。貯めた雨水は、通常はトイレや植木の散水、打ち水、洗車や清掃などに使い、災害時には初期消火や避難場所のトイレ、生活用水、非常用の飲み水などに使われる。



路地尊

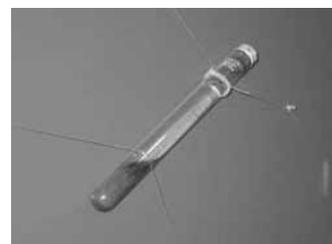
雨と大気汚染(すみだ環境ふれあい館)

雨水は本来蒸留水のようにきれいであるが、汚染された大気の中を降ってくると汚れてしまう。写真は、都内の雨水タンクから採取したサンプルで、このように沈殿物が溜まってしまふ。試験管の中の黒いものは大気の汚れで、主として車の排気ガスが原因である。

このように大気汚染の問題があるため、東京など都市部の雨水は飲用には適しない。その一方で、大都市が少ない南半球のオーストラリア、タスマニア地方では、雨水を直接集めて濾過と紫外線による殺菌を行い、ボトルに詰めて飲料水として販売しているところもある。



雨水タンク



雨水サンプル

水系図(いわて環境学習交流センター)

いわて環境学習交流センターは、岩手県と(特活)環境パートナーシップいわての協働運営により、平成18年に開設された施設。県が盛岡駅前に整備した、NPOサポート、青少年活動、男女共同参画、国際交流、図書館などの施設が入る、いわて県民交流情報センター(アイーナ)のオープンとともに設置されている。

環境学習交流センターでは展示にも様々な工夫がなされているが、中でも目を引くのがセンター入口の壁面に飾られた、岩手大学工学部情報システム工学科横山研究室の協力により作成された巨大な地形図や水系図だ。地域の環境を知るといえる意味では、地図情報は極めて重要な基礎情報である。特に岩手のような大きな県になると、地域によって積雪量などの気候が大きく変わってくる。また、河川の集水域を示す水系図も、生態系などを理解する上では重要なデータであるが、一般にはあまり馴染みがない。こうした地域情報を視覚化することで、例えば北上川の集水域の巨大さが分かるなど、地域環境への理解がより深まるものと思われる。



水系図

水循環の把握のための展示 (新潟県立環境と人間のふれあい館)

水の循環と人間や社会との結びつきを理解するための展示。

陸地に降った雨が地上及び地下を通じて海へと流れ込み、海からの蒸発の過程を経て雨として再び陸に戻る様子をパネル展示。この大きな循環の中に人間が位置することを示すため、家庭の台所や風呂で使われる水の量をクイズ形式で問うたり、人間の体内中の水分量を年齢別に表示している。水分量については、タッチパネル式画面に体重・年齢・男女別を入力すると入力者の水分量が分かる。画面上には、牛乳びんに換算して水分量は何本かということも表示され、見学者は展示室の側面に飾られた空の牛乳びんから自己の水分量をイメージできる。

水循環というマクロな視点と、身体や生活の中の水というミクロな視点とを併せて展示している点がポイントといえる。



水の循環を示したパネル



展示室側壁に飾られた空ペットボトル



体内の水分量入力状況

生物多様性の保全

来園者と公園の自然をつなぐ情報を提供 (長池公園自然館)

元来、身近な自然の残る里山であることから、長池公園内の豊かな自然と文化＝人の営みが、主たる展示テーマとなり、常設パネルで解説展示されている。里山は、人が利用し手入れをすることで成り立つ半自然環境であり、これに関連して、「長池里山クラブ」により実施されている炭焼きのプロセス展示や、かつての里山で使用されていた農機具などが実際に使える状態で保全展示されている。また、公園内で見られる野草や昆虫のスナップ写真をリアルタイムに掲示案内し、自然散策をする人への情報提供を行っている。

特筆すべきは、公園の自然愛好家たちが、公園で撮影された生き物を誰でもWEB上に投稿できる「長池公園生き物図鑑」をつくっていることで、その概要やメンバーの撮影した動植物の写真などが展示の1コーナーを担っている。季節ごとに見られる生き物の生きたままの展示もあり、来園者が、館内で予備知識をつけた上で園内のフィールドに出かける事で、より興味を高めることが出来るように感じた。なお、施設の建物自体が、屋上や壁面の緑化、太陽光や雨水の活用等の設備が整っており、環境共生のテーマを具体化した工夫が随所にちりばめられている。



長池昔の様子



様々なテーマの「長池マップ」

環境観察マップ（板橋区エコポリス）

板橋区立エコポリスセンターには「環境観察マップ」というデータベース・ソフトがある。このソフトは板橋区内の自然を「植物」「鳥」「昆虫」「哺乳類、魚類」などのカテゴリーに、さらに固体別にと設計されている。それぞれの固体は毎年分布を調査・収集し、整理され、データベース化したものを提供している。勿論、施設内でも常設されているパソコンから閲覧できるし、HPにアクセスすれば誰でも閲覧できるシステムを整えている。

この分布を収集するに当たっては、「環境観察員」として登録した区内の方が収集を行っている。観察員は幾人かでグループを作り、受持ちの地域を観察し、観察した結果はレポートとしてエコポリスセンターに提出、それをマップに反映する仕組みになっている。



区民の環境観察員による
「環境観察マップ」
(板橋区エコポリスHPより)

化学物質の環境リスク

新潟水俣病のメカニズムについての展示 (新潟県立環境と人間のふれあい館)

新潟水俣病の被害・発生・歴史に加え、世界の水銀汚染や環境問題について理解するための展示。

新潟水俣病の原因物質であるメチル水銀(有機水銀)の発生過程把握のため、アセトアルデヒドを用いた製品を展示。シャンプー・芳香剤・ガムテープなど、身近な商品に使われていることが分かる。被害発生のメカニズムや社会の動きについてはパネルや映像で展示されている。展示物にはメチル水銀が阿賀野川に流れ込み食物連鎖を通じて新潟水俣病を発生させた過程や被害の様子等が含まれる。また、水俣病被害者の登録者6名(平成19年度現在で活躍している者は4名)が語り部となり、有害物質がいかに地域の人びとを苦しめたのかについて見学者に伝えている(要申込)。

一工場の化学物質管理の不備が引き起こした公害問題の深刻さについて様々なメディアを使って伝えている点がポイントといえる。



アセトアルデヒドを用いた製品の展示

その他

「暮らしの博物館」(北区富士見台エコー広場館)

北区富士見台エコー広場館には「暮らしの博物館」という展示コーナーがあり、昭和30年代の台所と居間を再現している。ここには氷を使って物を冷やす冷蔵庫をはじめ、卓袱台や裸電球など当時の生活道具が数百点も展示されている。ただ、単に展示されているのではなく、日曜日には台所を使って「お汁粉」を作り、来場者に振舞っている。

オープン以来の担当者に博物館の展示物について尋ねると、「ここに展示されている物は全て寄付されたもの。新調したと言えば、昨年、畳と障子と襖を張り替えたくらいね。」と微笑みながら答えてくれた。また、ここで「伝承手作りおもちゃ」の講座が随時開いており、訪問した5月に因んでタバコの空き箱を使って作られた「兜」が居間の中央に置かれた卓袱台の上に飾られていた。



昭和30年代の「台所(手前)」と「居間(奥)」



「伝承手作りのおもちゃ」の作品

2-7 指導者養成

自治体が環境学習施設の施設計画をする際に人材育成の計画を同時に立案するケースが少なくない。環境保全に関心を持ち、行動する人材を育成することは施設建設の目的であり、その道筋をつけることは施設の有り方を考える上での重要な課題といえる。

特に施設開館時にコアとなる市民ボランティアを育成する場合は開館前から住民協議会等を繰り返し開催し、自治体との調整に長けた市民リーダーを中心に組織化するのが通例である。この方法は開館時に活動が存在するため、スムーズなスタートが切れるが、人材の更新システムに工夫が必要となる。

本節で取り上げたのは、施設ボランティアを継続的に更新していくシステムを取り入れている京エコロジーセンターと、地域の環境活動のリーダーを育成するエコギャラリー新宿の2事例である。

施設で活動するボランティアの募集は、平均的な自治体規模では困難な場合が多い。地域にあった方法で活動を成立させることが一つのポイントといえ、今後、こうした視点からも事例を追加したいと考えてる。

エコメイト養成講座（京エコロジーセンター エコメイト）

京エコロジーセンターでは、館内の案内や来館者向けのイベントの企画や実施、その他館の行事をサポートしてもらうための人材を育成し「エコメイト」として活動してもらっている。

募集は広報等で公募し、まずは「エコメイト養成講座」を約半年間実施する。内容は来館者への幅広い対応をしていくために、ごみ処理や地球環境問題、グリーンコンシューマー、ピオトープ等について、NPOや行政の担当者から講習を受けるとともに、学習の場づくりの技術などを身に付けてもらうための研修である。これが終了すると「エコメイト」として活動してもらうことになる。「エコメイト」として館内の案内やグループでの活動をしてもらうとともに、展示解説に技術、展示を活用した体験的な環境学習の場づくりなど技能の向上を図るための研修、省エネルギーや温暖化対策、ピオトープなどの専門的な知識を身に付けてもらうための研修、その他見学会等、年間を通じたプログラム実施している。活動しながら学習し、将来、地域の環境リーダーとして活躍してもらうための能力を身につけることを目的としている。

エコリーダー養成講座（エコギャラリー新宿）

エコギャラリー新宿では、「入門編」と「専門編」に分けて、エコリーダーの風養成講座を実施している。

入門編は、新宿区が実施していた養成講座を、エコギャラリー新宿が指定管理者として継承したもので、暮らしや地域を見直す講義と体験学習を通して、地域の環境活動のリーダーとなる人材を養成する(定員30人)。2006年度は、全6回の日程で開催し、最終日は「環境都市新宿」を創るプロジェクトを提案するワークショップを実施した。このワークショップには、毎年、区長も参加して、参加者とともに新宿の環境都市としての将来ビジョンを話し合っている。講座の修了者には、修了証を授与する。

専門編である「環境学習・環境活動指導者養成講座」は、エコリーダー養成講座修了者及び環境学習に携わる意欲のある人を対象に行っており、新たな活動を広げる地域や地域のキーマン育成を目指している(定員20人)。

養成講座の修了者には、専門編等を経て次年度の講座の企画に修了者の参加を促している。修了者は、地区協議会に参加したり、活発に活動しているという。

参考資料

ヒアリング施設データ
アンケート回答施設一覧
アンケート調査票

ヒアリング施設データ

	施設名称	札幌市環境プラザ
	住所	〒060-0808 札幌市北区北8条西3 札幌エルプラザ2階
	電話番号	Tel 011-728-1667 Fax 011-728-7280
	面積	508㎡
	設置年度	平成15年9月
	設置者	札幌市
	運営者	指定管理者 財団法人 札幌市青少年女性活動協会
	サイト	http://www.kankyo.sl-plaza.jp/sapenvWeb/show/
施設概要	<p>札幌市が開設した札幌駅前にある環境学習施設。小中学生を主なターゲットとしており、体験型展示を積極的に取り入れている。特に「メッセージスタジオ」と呼ばれる地球儀を中心とした学習体系に特徴がある。</p>	

	施設名称	北海道環境サポートセンター
	住所	〒060-0807 札幌市中央区北4条西4丁目1 伊藤・加藤ビル4階
	電話番号	Tel 011 - 218-7881 Fax 011 - 218 - 7882
	面積	383㎡
	設置年度	平成9年10月(平成18年10月に現在地に移設)
	設置者	財団法人北海道環境財団
	運営者	財団法人北海道環境財団
	サイト	http://www.heco-spc.or.jp/
施設概要	<p>市民・民間の主導による自発的な環境保全活動を促進し、環境学習の機会の提供や情報交流などさまざまな活動支援を行うため、北海道の出資により設立された非営利団体「財団法人北海道環境財団」が設置・運営する活動拠点。</p>	

	施設名称	いわて環境学習交流センター
	住所	〒020-0045 岩手県盛岡市盛岡駅西通一丁目7番1号 いわて県民情報交流センター(アイーナ)5F
	電話番号	TEL: 019-606-1752 FAX: 019-606-1753
	面積	300㎡
	設置年度	平成18年4月
	設置者	岩手県
	運営者	岩手県、(特活)環境パートナーシップいわて
	サイト	http://www.aiina.jp/environment/
施設概要	<p>地球温暖化対策や持続可能な循環型社会の構築など今日の環境問題の解決に向けて、県民、事業者、環境保全団体、行政等様々な人や組織の環(わ)を広げ、つなげることによって環境に関する様々な情報が集め、また発信するような取組を進めることを目的として、環境学習交流センターを設置します。</p>	

	施設名称	新潟県立環境と人間のふれあい館～新潟水俣病資料館～
	住所	〒950-3324 新潟市北区前新田字新々田乙364-7
	電話番号	Tel.025-387-1450
	面積	1,210.20㎡
	設置年度	平成13年8月
	設置者	新潟県
	運営者	新潟県
	サイト	http://www.fureaikan.net/
施設概要	新潟水俣病の経験と教訓を後世に伝えるために設立された施設であり、新潟水俣病を中心に水環境を主なテーマとした展示が行われている。新潟水俣病被害者の会・共闘会議と汚染源である昭和電工との解決協定締結(平成7年12月)を契機に建設された。	

	施設名称	富士見橋エコー広場館、他2館
	住所	〒114-0014 北区田端5-16-1
	電話番号	Tel.03-3824-3196 Fax.03-3821-2468
	面積	536.6㎡
	設置年度	平成6年4月
	設置者	北区
	運営者	NPO法人北区リサイクラー活動機構
	サイト	http://www.city.kita.tokyo.jp/docs/facility/052/005217.htm
施設概要	富士見橋エコー広場館は、「リサイクル生活文化」の創造を目指して住民と企業と行政が互いに連携しながら日常の暮らしや地域活動を通じて誰もが、いつでも気軽に参加、多様な活動をおこしてゆく「エコライフ」ステージとして位置付けています。	

	施設名称	環境学習情報館 えこっくる江東
	住所	〒135-0052 江東区潮見1-29-7
	電話番号	Tel.03-3644-7130 Fax.03-3644-7135
	面積	777.9㎡
	設置年度	平成19年2月
	設置者	江東区
	運営者	江東区
	サイト	http://www.ekokkuru-koto.jp/index.html
施設概要	えこっくる江東は、ごみや資源、地球環境などをテーマにした展示・体験コーナー、企画展や環境に関する情報を提供するコーナー、会議室、研究室、ワークショップルームなどを設置することで、区民や団体の情報交換や交流、活動拠点として活用してもらいます。	

	施設名称	板橋区立エコポリスセンター
	住所	〒174-0063 板橋区前野町4-6-1
	電話番号	Tel.03-5970-5001 Fax.03-5970-2255
	面積	1,444.6㎡
	設置年度	平成7年4月
	設置者	板橋区
	運営者	エコポリスセンター
	サイト	http://www.ita.ed.jp/ecopolis/center/intro/intro.html
施設概要	エコポリスセンターは、人と環境が共生する都市「エコポリス板橋」の実現をめざして、環境学習の場の提供・環境情報の発信・環境にやさしい新技術の普及啓発を行っています。また、地域センター管理事務所や憩いの家を併せ持つ複合施設となっています。	

	施設名称	エコギャラリー新宿 (新宿区環境学習情報センターおよび新宿区立区民ギャラリー)
	住所	〒160-0023 東京都新宿区西新宿2-11-4(新宿中央公園内)
	電話番号	03-3348-6277
	面積	1階 区民ギャラリー展示ホール 260㎡、2階 展示室 約100㎡、研修室約90㎡、情報コーナー 約90㎡。
	設置年度	平成16年6月
	設置者	新宿区
	運営者	NPO法人新宿環境活動ネット(指定管理者)
	サイト	http://www.shinjuku-ecocenter.jp/index.html
施設概要	エコギャラリー新宿は、新宿区立環境学習情報センターと新宿区立区民ギャラリーの複合施設を一体として運営するための愛称。新宿区環境基本計画で描かれた連携・協働による環境都市づくりの将来ビジョンを実現するために、環境教育や環境学習の拠点として設置された施設です。ネットワークをいかして、区内の企業、学校、NPO、行政などの連携の中核としての役割を担っている。	

	施設名称	すみだ環境ふれあい館
	住所	東京都墨田区文花1-32-9
	電話番号	03-3611-6355
	面積	1,060㎡(館内床面積)
	設置年度	2001年5月
	設置者	墨田区環境保全課
	運営者	墨田区環境保全課
	サイト	http://www.city.sumida.lg.jp/sisetu_info/siryou/kankyou_hureai/
施設概要	当館は、廃校になった小学校校舎を活用し、雨水資料室、環境学習室、関野吉晴探検資料室があります。雨に関する資料や地元出身の探検家関野吉晴さんがグレートジャーニーに使った実物展示の体験型の施設です。	

	施設名称	エコプラザ目黒
	住所	〒153-0063 目黒区目黒1丁目26-16
	電話番号	(03)5721-2300
	面積	約400㎡
	設置年度	平成5年4月
	設置者	目黒区
	運営者	エコライフめぐろ推進協会
	サイト	http://park15.wakwak.com/~meguro.3r/
施設概要	<p>エコプラザは、地域及び地球の環境保全に資するため、資源及びエネルギーの有効利用等の普及啓発を進め、環境負荷低減に関する区民等の自主的活動の支援を行うための施設。</p> <p>開館時間 目黒エコプラザ(9時～17時 活動室のみ21時)、平町エコプラザ(9時～17時)</p> <p>休館日 目黒エコプラザ(日曜、祝日、年末年始)、平町エコプラザ(火曜日、祝日、年末年始)</p>	

	施設名称	すとおぶおんだん館
	住所	〒106-0041 東京都港区麻布台1丁目11-9ダヴィンチ神谷町1F
	電話番号	(03)5114-1284
	面積	339㎡
	設置年度	平成16年7月
	設置者	環境省
	運営者	全国温暖化防止活動推進センター
	サイト	http://www.jccca.org/ondankan/index.html
施設概要	<p>ストップおんだん館は、地球温暖化問題に関する情報を集め、身近なところからこの問題にとりくむための展示と体験プログラムを備えた施設。</p>	

	施設名称	すぎなみ環境情報館
	住所	〒167-0051 杉並区荻窪5-15-13 あんさんぶる荻窪
	電話番号	Tel.03-3398-3191 Fax.03-3398-3193
	面積	6,982.3㎡ (施設全体)
	設置年度	平成16年4月
	設置者	杉並区
	運営者	環境清掃部環境課
	サイト	http://www.kankyoku.city.suginami.tokyo.jp/
施設概要	<p>すぎなみ環境情報館は、環境先進都市の実現を目指し、区民一人ひとりの環境配慮行動を推進するため、情報の収集・提供や講座・講習会の開催など、さまざまな事業を行っている。また、環境学習室、情報資料コーナー、ビオトープ等を設置して、区民や団体の情報交換や交流・活動の機会と場を提供している。</p>	

	施設名称	長池公園自然館(長池ネイチャーセンター)
	住所	〒192-0363東京都八王子市別所2-58
	電話番号	TEL: 042-678-4616 FAX:042-678-4647
	面積	1,313㎡
	設置年度	平成13年4月
	設置者	八王子市
	運営者	フュージョン長池公園(特定非営利活動法人NPO・フュージョン長池、株式会社富士植木、株式会社プレイス)
	サイト	http://www.pompoco.or.jp/shizenkan/index.htm
施設概要	八王子市南西部、由木地区別所にあり、多摩ニュータウン西部地域において、最も大規模に多摩丘陵の原地形が保全された地区公園。長池公園自然館には、里山の自然と文化に関する常設の展示室や企画展示室、工作室、講演会等が行えるレクチャールーム、会議室等がある。	

	施設名称	名古屋市環境学習センター エコパルなごや
	住所	〒460-0008 名古屋市中区栄1丁目23-13 伏見ライフプラザ13F
	電話番号	(052)223-1066
	面積	1,152㎡
	設置年度	設置年:平成7年12月
	設置者	名古屋市
	運営者	名古屋市
	サイト	http://www.ecopal.city.nagoya.jp/
施設概要	くるくるプラザ(資源リサイクルセンター)は、ごみの減量、再資源化および再生利用を図り、快適な生活環境づくりと循環型社会を形成するため、市民のリサイクル活動を推進する拠点施設で、ごみの再利用、啓発、研究のための施設です。	

	施設名称	京都市環境保全活動センター 京エコロジーセンター
	住所	〒612-0031 京都市伏見区深草池ノ内町13
	電話番号	(075)641-0911
	面積	2,700㎡
	設置年度	平成14年4月
	設置者	京都市
	運営者	(財)京都市環境事業協会
	サイト	http://www.miyako-eco.jp
施設概要	平成9(1997年)に開催された「地球温暖化防止京都会議(COP3)」を記念し、京都市民の環境意識の定着を図り、環境にやさしい実践活動の輪を広げるための拠点施設	

	施設名称	大阪市立環境学習センター・生き生き地球館
	住所	〒538-0036 大阪市鶴見区緑地公園2-135
	電話番号	Tel 06-6915-5801 / Fax 06-6915-5805
	面積	3,400m ²
	設置年度	平成9年4月
	設置者	大阪市
	運営者	大阪ガスビジネスクリエイト株式会社
	サイト	http://www.chikyukan.com
	施設概要	<p>「生き生き地球館」はふだんの生活の中で出来る環境にやさしい行動をわかりやすくお伝えするとともに、楽しく環境について学ぶことができる場所です。アニメーションや色々なゲーム、工夫をこらした展示物を通じて来館されるみなさんに、現在、未来の地球環境を守るためにはどうすればいいの？にお答えする施設です。</p>

	施設名称	吹田市資源リサイクルセンター くるくるプラザ
	住所	〒565-0826 大阪府吹田市千里万博公園4-3
	電話番号	Tel 06-6877-5300 Fax 06-6876-0530
	面積	9,245m ² (くるくるプラザ部分)
	設置年度	平成4年3月
	設置者	吹田市
	運営者	財団法人千里リサイクルプラザ
	サイト	http://www.infomart.or.jp/kurukuru/
施設概要	<p>くるくるプラザ(資源リサイクルセンター)は、ごみの減量、再資源化および再生利用を図り、快適な生活環境づくりと循環型社会を形成するため、市民のリサイクル活動を推進する拠点施設で、ごみの再利用、啓発、研究のための施設です。</p>	

	施設名称	しものせき環境みらい館
	住所	〒751-0847 下関市古屋町1丁目18-1
	電話番号	0832-52-1943
	面積	31,000m ² (工場棟含む)
	設置年度	平成15年7月
	設置者	下関市
	運営者	NPO法人環境みらい下関
	サイト	http://www.kankyo-mirai.jp/
施設概要	<p>下関市のリサイクルプラザに併設された環境学習拠点である。リサイクルプラザの見学だけでなく、リサイクル工房、市民環境講座、フリーマーケットなど、様々な活動の場として活用されている。</p>	

	施設名称	北九州市環境ミュージアム
	住所	〒805-0071 北九州市八幡東区東田2丁目2-6
	電話番号	093-663-6751
	面積	約2,000㎡
	設置年度	平成14年
	設置者	北九州市
	運営者	財団法人タカミヤ・マリバー環境保護財団共同事業体
	サイト	http://www.qbiz.ne.jp/museum/
施設概要	<p>環境ミュージアムは、北九州博覧祭2001のきっかけに建設された。世界の環境首都を目指す北九州市が、過去の公害克服の歴史と未来の環境保全のために情報を発信している『市民のための環境学習・交流総合拠点施設』となっている。</p>	

アンケート回答施設一覧

北海道			
北海道	北海道野幌森林公園自然ふれあい交流館	江別市西野幌	自然系
	北海道環境サポートセンター	札幌市中央区	その他
札幌市	札幌市環境プラザ	札幌市北区	生活系
	札幌市リサイクルプラザ	札幌市西区	生活系
	札幌市豊平川さけ科学館	札幌市南区	自然系
	札幌市円山動物園	札幌市中央区	自然系
	札幌市下水道科学館	札幌市北区	その他
	札幌市水道記念館	札幌市中央区	その他
	札幌市青少年科学館	札幌市厚別区	その他
	札幌市北方自然教育園	札幌市南区	自然系
	札幌市定山溪自然の村	札幌市南区	自然系
	札幌市消費者センター	札幌市北区	その他
	札幌市市民活動サポートセンター	札幌市北区	その他
釧路市	釧路広域連合清掃工場	釧路市高山	3R系
	春採湖ネイチャーセンター	釧路市春湖台	自然系
留萌市	留萌市美・サイクル館	留萌市留萌村	3R系
苫小牧市	リサイクルプラザ苫小牧	苫小牧市沼ノ端	3R系
稚内市	稚内市浜勇知展望休憩施設	稚内市浜勇知	自然系
	稚内市大沼野鳥観察館	稚内市声間	自然系
	稚内市少年自然の家	稚内市富士見	自然系
	稚内市自然体験施設	稚内市上声間	自然系
	稚内公園新エネルギーサテライト	稚内市中央	その他
紋別市	紋別リサイクルセンター	紋別市上渚滑町	3R系
滝川市	中空知衛生施設組合 リサイクルクリーン	滝川市東滝川	3R系
	森のかがく活動センター	滝川市空知町	自然系
深川市	深川市リサイクルプラザ	深川市一巳町	3R系
北広島市	北広島レクリエーションの森	北広島市西の里	自然系
石狩市	石狩市リサイクルプラザ	石狩市新港南	3R系
北斗市	石狩浜海浜植物保護センター	石狩市弁天町	自然系
黒松内町	黒松内町ブナセンター	黒松内町黒松内	自然系
幌延町	幌延ビジターセンター	幌延町下沼	自然系
斜里町	知床自然センター	斜里町岩尾別	自然系
	知床博物館	斜里町本町	自然系
壮瞥町	森と木の里センター	壮瞥町東湖畔	自然系
様似町	様似町クリーンセンター	様似町西様似	3R系
上士幌町	北十勝二町清掃工場	上士幌町上士幌西	3R系
	ひがし大雪博物館	上士幌町糠平	その他
	ナイト高原牧場	上士幌町上音更	3R系
清水町	清水町清掃センター	清水町羽帯	3R系
青森県			
青森県	白神山地ビジターセンター	中津軽郡西目屋村	自然系
	青森県立自然ふれあいセンター	青森市浪岡大釈迦	自然系
	十二湖エコ・ミュージアムセンター	西津軽郡深浦町	自然系
弘前市、大鰐町	弘前地区環境整備センタープラザ棟	弘前市町田	生活系
八戸市、階上町	八戸市リサイクルプラザ	八戸市櫛引	3R系
鱒ヶ沢町	エコクリーンアフィ	西津軽郡深浦町風合瀬	3R系
岩手県			

久慈市	内間木ビジターセンター	久慈市山形村	その他
遠野市	清養園クリーンセンター廃棄物再生利用施設	遠野市綾織町	3R系
紫波町	紫波町環境 循環PRセンター	紫波町紫波	その他
田野畑村	北山崎ビジターセンター	田野畑村北山	自然系
一戸町	カナンの園 シャローム分場(リサイクルセンター)	一戸町奥中山	3R系
	岩手県立児童館 いわて子どもの森	一戸町奥中山	自然系
宮城県			
宮城県	宮城県環境情報センター	仙台市宮城野区	その他
	宮城県蔵王野鳥の森自然観察センター	刈田郡蔵王町	自然系
	県民の森	宮城郡利府町	自然系
	昭和万葉の森	黒川郡大衡村	自然系
	こもれびの森 森林科学館	栗原市花山草木沢	自然系
	宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリセンター	栗原市若柳	自然系
仙台市	環境交流サロン	仙台市青葉区	その他
	葛岡リサイクルプラザ	仙台市青葉区	3R系
	今泉リサイクルプラザ	仙台市若林区	3R系
白石市	いきいきプラザ	白石市沢端町	生活系
大崎市	大崎市古川リサイクルデザイン工房	大崎市古川	生活系
加美町	荒沢自然館	加美町鹿原田谷地	自然系
南三陸町	南三陸町自然環境活用センター	南三陸町戸倉	その他
秋田県			
秋田県	秋田県環境と文化のむら	五城目町上樋口	自然系
秋田市	秋田市総合環境センターリサイクルプラザ	秋田市河辺豊成	3R系
東成瀬村	まるごと自然館	東成瀬村椿川	その他
山形県			
山形県	環境科学研究センター	村山市楯岡	その他
新庄市	新庄市エコロジーガーデン	新庄市十日町	自然系
長井市	千代田クリーンセンターくりえいと工房	長井市高島町	3R、生活系
福島県			
福島市	福島市・浄土平天文台	福島市土湯温泉町	自然系
	福島市小鳥の森	福島市山口	自然系
	福島市リサイクルプラザ	福島市仁井田	3R系
郡山市	郡山市富久山清掃センター リサイクルプラザ	郡山市富久山町	3R系
	平成記念郡山こどものもり公園	郡山市富久山町	自然系
	野鳥の森学習館	郡山市菜根	自然系
	高篠山森林公園	郡山市逢瀬町	自然系
	郡山市ふれあい科学館 スペースパーク	郡山市駅前	その他
いわき市	いわき市リサイクルプラザ クリンピーの家	いわき市渡辺町	3R系
北塩原村	裏磐梯ビジターセンター	北塩原村桧原	自然系
平田村	平田村きららクリーンセンター	石川郡石川町	その他
茨城県			
土浦市	土浦市ネイチャーセンター	土浦市大岩田	自然系
結城市	筑西広域市町村圏事務組合環境センター	筑西市下川島	3R系
北茨城市	北茨城市清掃センター	北茨城市関本町	3R系
笠間市	友部地方広域環境組合環境センター	笠間市仁古田	その他
牛久市	牛久クリーンセンター	牛久市奥原町	3R系
	牛久自然観察の森	牛久市結束町	自然系

神栖市	神栖市第一リサイクルプラザ	神栖市南浜	3R他
	神栖市第二リサイクルプラザ	神栖市波崎	3R系
行方市	行方市環境美化センター リサイクルプラザ	行方市麻生	3R系
	霞ヶ浦ふれあいランド	行方市玉造	自然系
東海村	リサイクルプラザとうかい	東海村村松	3R系
栃木県			
栃木県	栃木県保健環境センター	宇都宮市下岡本町	生活系
	栃木県立日光自然博物館	日光市中宮祠	自然系
宇都宮市	宇都宮市環境学習センター	宇都宮市茂原町	3R系
佐野市	佐野市みかもクリーンセンター・リサイクルプラザ	佐野市町谷町	3R系
真岡市	真岡市鬼怒水辺観察センター	真岡市若旅	自然系
	真岡市自然ふれあい園 大久保	真岡市根本	自然系
河内町	廃食油リサイクルせっけん作業所	-	生活系
西方町	とちぎクリーンプラザ	栃木市梓町	3R系
野木町	野木資源化センター	野木町南赤塚	3R系
群馬県			
群馬県	群馬県環境サポートセンター	前橋市城東町	生活系
	尾瀬山の鼻ビジターセンター	利根郡片品村	自然系
	群馬県憩の森 森林学習センター	北群馬郡伊香保町	自然系
	群馬県緑化センター	邑楽郡邑楽町	自然系
	赤城ふれあいの森 あかぎ木の家	勢多郡富士見村	自然系
高崎市	観音山バードハウス	高崎市乗附町	自然系
桐生市	桐生自然観察の森	桐生市川内町	自然系
	桐生市青少年野外活動センター	桐生市梅田町	自然系
伊勢崎市	伊勢崎市清掃リサイクルセンター21	伊勢崎市柴町	3R系
	伊勢崎まゆドーム	伊勢崎市馬見塚町	自然系
館林市	館林市リサイクル館	館林市苗木町	その他
	足尾鉍毒事件 田中正造記念館	館林市足次町	その他
埼玉県			
埼玉県	埼玉県環境科学国際センター	北埼玉郡騎西町	その他
	埼玉県自然学習センター	北本市荒井	自然系
	埼玉県あらかわビジターセンター	秩父市荒川日野	自然系
	さいたま緑の森博物館	入間市宮寺	自然系
	埼玉県狭山丘陵いきものふれあいの里センター	所沢市荒幡	自然系
さいたま市	大宮南部浄化センター 見沼見聞館	さいたま市見沼区	3R系
川口市	川口市リサイクルプラザ	川口市朝日	3R系
所沢市	リサイクルふれあい館 エコロ	所沢市日比田	生活系
東松山市	ウォーキングセンター	東松山市松本町	その他
入間市	入間市リサイクルプラザ	入間市新久	3R系
朝霞市	リサイクルプラザ エコネットあさか	朝霞市浜崎	生活系
八潮市	リサイクルプラザ	八潮市八條	3R系
坂戸市	坂戸市環境学館 いずみ	坂戸市泉町	生活系
嵐山町	嵐山町オオムラサキの森活動センター	比企郡嵐山町	自然系
杉戸町	杉戸町生涯学習センター	北葛飾郡杉戸町	その他

千葉県			
千葉県	千葉県手賀沼親水広場	我孫子市高野山	自然系
	千葉県環境研究センター	市原市岩崎西	生活系
	千葉県いすみ環境と文化のさとセンター	いすみ市万木	自然系
	行徳野鳥観察舎	市川市福栄	自然系
	千葉県文書館行政資料室環境コーナー	千葉市中央区	その他
千葉市	千葉市少年自然の家	長生郡長柄町	自然系
	新浜リサイクルプラザ	千葉市中央区	3R系
船橋市	船橋市リサイクルセンター	船橋市小野田町	3R系
	船橋市再生センター	船橋市金杉町	生活系
成田市	成田市リサイクルプラザ	成田市小泉	3R系
習志野市	習志野市リサイクルプラザ	習志野市芝園	3R系
柏市	柏市リサイクルプラザ リボン館	柏市十余二	3R系
	かしわ環境ステーション	柏市南増尾	自然系
流山市	流山市クリーンセンター リサイクルプラザ	流山市下花輪	3R系
八千代市	八千代市ほたるの里	八千代市米本	自然系
東京都			
東京都	東京都環境パートナーシップコーナー	新宿区西新宿	その他
中央区	リサイクルハウス かざぐるま明石町	中央区明石町	3R系
	リサイクルハウス かざぐるま箱崎町	中央区箱崎町	3R系
港区	エコプラザ	港区虎ノ門	生活系
新宿区	新宿区立環境学習情報センター	新宿区西新宿	生活系
	新宿リサイクル活動センター	新宿区高田馬場	3R系
墨田区	すみだ環境ふれあい館	墨田区文花	生活系
江東区	えこっくる江東	江東区潮見	生活系、そ
品川区	品川区環境情報活動センター	品川区広町	その他
目黒区	平町エコプラザ	目黒区平町	生活系
	目黒エコプラザ	目黒区目黒	生活系
世田谷区	エコプラザ用賀	世田谷区用賀	生活系
	リサイクル千歳台	世田谷区千歳台	3R系
中野区	環境リサイクルプラザ	中野区中野	3R系
杉並区	すぎなみ環境情報館	杉並区荻窪	生活系
北区	富士見橋エコー広場館	北区田端	3R系
	滝野川西エコー広場館	北区滝野川	生活系
	北ノ台エコー広場館	北区上十条	生活系
	自然ふれあい情報館	北区十条	生活系
板橋区	板橋区立エコポリスセンター	板橋区前野町	自然系
	板橋区立リサイクルプラザ	板橋区舟渡	生活系
	東京都板橋区立熱帯環境植物館	板橋区高島平	3R系
足立区	足立区リサイクルセンター あだち再生館	足立区中央本町	生活系
	足立区荒川ビジターセンター	足立区千住	自然系
	足立区生物園	足立区保木間	自然系
	足立区都市農業公園 自然環境館	足立区鹿浜	自然系
	足立区都市農業公園 緑の相談所	足立区鹿浜	自然系
	足立区桑袋ビオトープ公園 清流館	足立区花畑	自然系

葛飾区	葛飾区水元かわせみの里	葛飾区水元公園	自然系
江戸川区	えどがわエコセンター	江戸川区船堀	その他
八王子市	エコひろば	八王子市北野町	生活系
武蔵野市	むさしの自然観察園	武蔵野市吉祥寺	自然系
三鷹市	三鷹市環境センター	三鷹市新川	3R系
	ふじみ衛生組合 リサイクルセンター	調布市深大寺	3R系
	三鷹市東部下水処理場	三鷹市新川	その他
	三鷹市農業公園	三鷹市新川	自然系
町田市	忠生がにやら自然館	町田市山崎町	自然系
	リサイクル文化センター	町田市下小山田町	生活系
小平市	小平市ふれあい下水道館	小平市上水本町	生活系
福生市	川の志民館	福生市南田園	自然系
	リサイクルセンター・リサイクルプラザ	福生市熊川	3R系
多摩市	多摩市立資源化センター エコプラザ多摩	多摩市諏訪	3R系
稲城市	上谷戸緑地体験学習館	稲城市若葉台	自然系
	稲城ふれあいの森	稲城市坂浜	自然系
神奈川県			
神奈川県	神奈川県環境科学センター	平塚市四之宮	その他
川崎市	川崎市生活環境学習室	川崎市川崎区	3R系
	川崎市橋リサイクルコミュニティセンター	川崎市高津区	3R系
	二ヶ領せせらぎ館	川崎市多摩区	自然系
横須賀市	横須賀市リサイクルプラザ アイクル	横須賀市浦郷町	3R系
平塚市	平塚市リサイクルプラザ くるりん	平塚市四之宮	3R系
相模原市	環境情報センター	相模原市富士見	その他
秦野市	秦野市里山ふれあいセンター	秦野市羽根	自然系
	秦野市くずはの家	秦野市曾屋	自然系
大和市	大和市 泉の森 自然観察センター・しらかしのいえ	大和市上草柳	自然系
	大和市クリーンアップセンター	大和市下草柳	自然系
海老名市	海老名市リサイクルプラザ	海老名市大谷	3R系
綾瀬市	綾瀬市リサイクルプラザ	綾瀬市吉岡	3R系
箱根町	箱根町立森のふれあい館	足柄下郡箱根町	自然系
新潟県			
新潟県	新潟県立浅草山麓エコミュージアム	魚沼市穴沢	自然系
	新潟県立環境と人間のふれあい館 新潟水俣病資料館	新潟市北区	その他
	愛鳥センター紫雲寺さえずりの里	新潟市藤塚浜	その他
新潟市	佐渡水鳥・湿地センター	新潟市赤塚	自然系
	水の駅 ビュー福島潟	新潟市前新田	自然系
	新潟市資源再生センター エコプラザ	新潟市東区	3R系
富山県			
富山県	富山県自然博物館ねいの里	富山市婦中町	自然系
	財団法人とやま環境財団	富山市安住町	その他
	桂湖ビジターセンター	南砺市桂	自然系
	県民公園頼成の森	砺波市頼成	自然系
	立山自然保護センター	中新川郡立山町	自然系
	樺平ビジターセンター	下新川郡宇奈月町	自然系
富山市	富山地区広域圏リサイクルセンター	富山市辰尾	3R系
	富山市エコタウン交流推進センター	富山市岩瀬	生活系

高岡市	高岡市リサイクルプラザ	高岡市長慶寺	3R系
黒部市	黒部市吉田科学館	黒部市吉田	自然系
射水市	ミライクル館	射水市西高木	3R系
石川県			
石川県	石川県立鹿島少年自然の家	鹿島郡中能登町	自然系
金沢市	戸室リサイクルプラザ	金沢市戸室	3R系
	キゴ山自然学習館	金沢市俵町	自然系
輪島市	輪島クリーンセンター宅田分場	輪島市宅田町	3R系
珠洲市、能登町	奥能登クリーンセンター	鳳珠郡能登町	3R系
加賀市	加賀市鴨池観察館	加賀市片野	自然系
白山市	松任石川環境クリーンセンター	白山市上小川町	3R系
津幡町	河北都市リサイクルプラザ	河北郡津幡町	3R系
福井県			
福井県	福井県自然保護センター	大野市南六呂師	自然系
	福井県海浜自然センター	三方上中郡若狭町	自然系
敦賀市	少年自然の家	敦賀市野坂	自然系
	中池見人と自然のふれあいの里	敦賀市檜曲	自然系
大野市	本願清水イトヨの里	大野市糸魚町	自然系
鯖江市	鯖江市環境教育支援センター エコネットさばえ	鯖江市中野町	生活系
越前市	越前市エコビレッジ交流センター	越前市湯谷町	その他
坂井市	坂井市海浜自然公園 みくに自然学習センター	坂井市三国町	自然系
山梨県			
山梨県	山梨県環境科学研究所	富士吉田市上吉田	自然系
甲府市	甲府市リサイクルプラザ	甲府市上町	3R系
富士吉田市	環境美化センター	富士吉田市小明見	3R系
都留市	大月都留広域事務組合 まるたの森クリーンセンター	大月市初狩町	3R系
	宝の山ふれあいの里	都留市大幡	自然系
北杜市	北杜市オオムラサキセンター	北杜市長坂町	その他
長野県			
長野県	長野県環境保全研究所	長野市北郷	その他
	志賀高原自然保護センター	下高井郡山ノ内町	自然系
	霧ヶ峰自然保護センター	諏訪市四賀	自然系
	乗鞍自然保護センター	松本市安曇	自然系
	美ヶ原自然保護センター	松本市入山辺	自然系
	森林学習展示館	塩尻市片丘	自然系
	戸隠森林植物園・森林学習館	長野市戸隠	自然系
	大平峠県民の森	木曽郡南木曽町	自然系
	美ヶ原県民の森	松本市入山辺	自然系
	長野県総合教育センター	塩尻市片丘	その他
	長野県生涯学習推進センター	塩尻市片丘	その他
	長野県松川青年の家	下伊那郡松川町	その他
	長野県須坂青年の家	須坂市仁礼	その他
	望月少年自然の家	佐久市協和	その他
	阿南少年自然の家	下伊那郡阿南町	その他
岡谷市	岡谷市塩嶺野外活動センター	岡谷市	自然系
須坂市	エコサポートすざか	須坂市須坂	生活系
大町市	大町山岳博物館	大町市大町	自然系
千曲市	千曲市役所 杭瀬下分室	千曲市杭瀬下	その他

岐阜県			
岐阜県	エコミュージアム関ヶ原	不破郡関ヶ原町	自然系
	飛騨・北アルプス自然文化センター	高山市奥飛騨温泉郷	自然系
岐阜市	岐阜市自然・環境保全学習センター	岐阜市立洞	自然系
多治見市	多治見市 三の倉センター	多治見市三の倉	3R系
	三の倉市民の里 地球村	多治見市三の倉	自然系
	まなびパークたじみ 多治見市学習館	多治見市豊岡町	自然系
	土岐川観察館	多治見市前畑町	自然系
中津川市	中津川市環境センター	中津川市駒場	3R系
郡上市	郡上クリーンセンター	郡上市八幡町	3R系
静岡県			
静岡県	静岡県環境衛生科学研究所 環境学習室	静岡市葵区	自然系
	森の科学館 ドングリホール	浜松市根堅	自然系
	静岡県立森林公園ビジターセンター バードピア浜北	浜松市尾野	自然系
静岡市	静岡市高山・市民の森	静岡市葵区	自然系
	静岡科学館 る・くる	静岡市駿河区	その他
浜松市	浜松市かわな野外活動センター	浜松市引佐町	自然系
	浜松市水窪カモシカと森の体験館	浜松市水窪町	自然系
	龍山青少年旅行村	浜松市龍山町	その他
沼津市	沼津市市民の森	沼津市西浦	自然系
	沼津市立少年自然の家	沼津市足高	自然系
	沼津市 ゆめとびら舟山	沼津市戸田	自然系
磐田市	磐田市桶ヶ谷沼ビジターセンター	磐田市岩井	自然系
	竜洋昆虫自然観察公園	磐田市大中瀬	自然系
愛知県			
愛知県	弥富野鳥園	弥富市上野町	自然系
	あいち海上の森センター	瀬戸市吉野町	自然系
名古屋市	名古屋市リサイクル推進センター	名古屋市中区	生活系
	名古屋市環境学習センター エコパルなごや	名古屋市中区	その他
岡崎市	岡崎市中央クリーンセンター リサイクルプラザ	岡崎市高隆寺町	3R系
	岡崎市総合検査センター	岡崎市美合町	その他
	おかざき水と緑の森の駅 森の総合駅	岡崎市榎山町	自然系
	おかざき水と緑の森の駅 おかざき自然体験の森	岡崎市八ッ木町	自然系
	おかざき水と緑の森の駅 おおだの森	岡崎市千万町	自然系
	おかざき水と緑の森の駅 くらがり溪谷	岡崎市石原町	自然系
	おかざき水と緑の森の駅 千万町茅葺屋敷	岡崎市夏山町	自然系
春日井市	エコメッセ春日井	春日井市神屋町	3R系
	春日井市少年自然の家	春日井市廻間町	自然系
碧南市	碧南海浜水族館・碧南市青少年海の科学館	碧南市浜町	その他
豊田市	豊田市自然観察の森	豊田市京ヶ峰	自然系
安城市	安城市リサイクルプラザ	安城市赤松町	3R系
西尾市	西尾いきものふれあいの里	西尾市家武町	自然系
犬山市	犬山里山学センター	犬山市塔野地	自然系
新城市	鳳来寺山自然科学博物館	新城市門谷	その他
知多市	知多市リサイクルプラザ	知多市南浜町	3R系
尾張旭市	尾張旭市土曜・日曜リサイクル広場	尾張旭市稲葉町	3R系
岩倉市	岩倉市自然生態園	岩倉市北島町	自然系

東郷町	東郷美化センター エコサイクルプラザ	愛知郡東郷町	3R系
	イーストプラザいこまい館	愛知郡東郷町	自然系
美和町	八穂クリーンセンター リサイクルプラザ	弥富市鍋田町	3R系
	新開センター	津島市新開町	その他
南知多町、美浜町	知多南部クリーンセンター	知多郡南知多町	3R系
三重県			
三重県	三重県環境学習情報センター	四日市市桜町	その他
四日市市	四日市市環境学習センター	四日市市本町	生活系
桑名市	リサイクル推進施設 クルクル工房	桑名市江場	生活系
亀山市	亀山里山公園 みちくさ	亀山市椿世町	自然系
いなべ市	屋根のない学校	いなべ市藤原町	自然系
伊賀市	伊賀市環境センター	伊賀市治田	その他
滋賀県			
滋賀県	滋賀県立琵琶湖博物館	草津市下物町	その他
	滋賀県立 水環境科学館	草津市矢橋町	その他
	滋賀県立朽木いきものふれあいの里	高島市朽木村	自然系
	滋賀県立近江富士花緑公園	野洲市三上	自然系
	びわこ地球市民の森	守山市今浜町	自然系
	滋賀県立びわ湖こどもの国	高島市安曇川町	自然系
	荒神山少年自然の家	彦根市日夏町	自然系
	滋賀県森林センター	野洲市北桜	その他
	滋賀県水産試験場	彦根市八坂町	その他
	滋賀県環境学習支援センター	草津市矢橋町	その他
	滋賀県琵琶湖・環境科学研究センター	大津市柳が崎	その他
	滋賀県地球温暖化防止活動推進センター	大津市松本	その他
大津市	大津市環境学習情報室 こどもエコ・ラボ	大津市浜大津	生活系
栗東市	栗東市環境センター	栗東市六地藏	3R系
高島市	高島市環境センター	高島市今津町	3R系
東近江市	あいとうエコプラザ 菜の花館	東近江市妹町	3R系
	河辺いきものの森・ネイチャーセンター	東近江市建部	自然系
日野町	中部清掃組合日野清掃センター	日野町北脇	3R系
湖北町	湖北広域行政事務センター クリスタルプラザ	長浜市八幡中山町	3R系
京都府			
京都府	京都府立丹後海と星の見える丘公園	宮津市里波見	その他
京都市	京都市環境保全活動センター 京エコロジーセンター	京都市伏見区	自然系
舞鶴市	リサイクルプラザ	舞鶴市森	3R系
亀岡市	地球環境子ども村	亀岡市宮前町	自然系
京田辺市	環境衛生センター 甘南備園	京田辺市田辺	3R系
京丹後市	風のがっこう京都	京丹後市弥栄町	自然系
大阪府			
大阪府	大阪府環境情報センター 環境情報プラザ	大阪市東成区	生活系
	府民の森ほりご園地	泉南市信達	自然系
	ちはや星と自然のミュージアム	南河内郡千早赤阪村	自然系
豊中市	緑と食品のリサイクルプラザ	豊中市原田中	3R系
	豊中市立リサイクル交流センター	豊中市中桜塚	生活系
	花とみどりの相談所	豊中市曽根南町	自然系
	豊中市環境情報サロン	豊中市曽根南町	その他
吹田市	くるくるプラザ 吹田市資源リサイクルセンター	吹田市千里万博公園	3R系

門真市	門真市リサイクルプラザ	門真市深田町	3R系
交野市	交野市いきものふれあいセンター	交野市倉治	自然系
	交野市立いわふね自然の森スポーツ・文化センター	交野市私市	自然系
忠岡町	忠岡町クリーンセンター	泉北郡忠岡町	3R系
兵庫県			
兵庫県	ひょうごエコプラザ	神戸市中央区	生活系
	兵庫県立六甲山自然保護センター	神戸市灘区	自然系
神戸市	こうべ環境未来館	神戸市西区	3R系
	リサイクル工房あづま	神戸市中央区	生活系
	リサイクル工房みなとじま	神戸市中央区	生活系
	リサイクル工房だいこく	神戸市須磨区	生活系
	リサイクル工房ろっこう	神戸市灘区	生活系
姫路市	姫路市伊勢自然の里・環境学習センター	姫路市林田町	自然系
	姫路市環境ふれあいセンター	姫路市飾磨区	生活系
尼崎市	あまがさきルーム・エコクラブ	尼崎市東七松町	生活系
	市民工房	尼崎市東海岸町	3R系
明石市	明石クリーンセンター	明石市大久保町	3R系
	明石市立天文科学館	明石市人丸町	その他
	明石市大久保浄化センター	明石市大久保町	その他
洲本市	洲本市リサイクルセンター みつあい館	洲本市栄町	生活系
	クリーンエネルギー五色風力発電所	洲本市五色町	生活系
加古川市	海洋文化センター	加古川市別府町	その他
赤穂市	市民部美化センター	赤穂市中広	3R系
西脇市	北播磨リサイクルプラザ	西脇市富吉	3R系
宝塚市	宝塚市ごみ減量化・資源化啓発センター	宝塚市小浜	生活系
高砂市	高砂市美化センター	高砂市梅井	3R系
篠山市	篠山市リサイクルプラザ	篠山市大山下	3R系
丹波市	青垣いきものふれあいの里	丹波市青垣町	その他
南あわじ市	ごみ処理施設 やまなみ苑	南あわじ市広田	生活系
播磨町	加古郡リサイクルプラザ はりま里彩来館	加古郡播磨町	3R系
奈良県			
奈良県	矢田山遊びの森 子ども交流館	大和郡山市矢田山町	自然系
大和郡山市	少年自然の家	大和郡山市矢田町	自然系
橿原市	リサイクル館かしはら	橿原市東竹田町	3R系
桜井市	グリーンクラフト館	桜井市浅古	3R系
生駒市	エコパーク21	生駒市北田原町	その他
川上村	森と水の源流館	吉野郡川上村	自然系
和歌山県			
和歌山県	根来山げんきの森	岩出市根来	自然系
和歌山市	和歌山市立こども科学館	和歌山市寄合町	その他
田辺市	ふるさと自然公園センター	田辺市稲成町	自然系
	皆地いきものふれあいの里	田辺市本宮町	自然系
鳥取県			
鳥取県	鳥取県衛生環境研究所	東伯郡湯梨浜町	その他
鳥取市	鳥取市気高リサイクル・ドリームハウス	鳥取市気高町	生活系
境港市	境港市清掃センター	境港市中野町	3R系
	境港市リサイクルセンター	境港市夕日ヶ丘	3R系

島根県			
島根県	島根県立しまね海洋館	浜田市久代町	自然系
	島根県立宍道湖自然館ゴビウス	出雲市園町	自然系
	島根県立三瓶自然館サヒメル	大田市三瓶町	自然系
松江市	西持田リサイクルプラザ	松江市西持田町	3R系
	川向リサイクルプラザ 併設啓発施設りんぴーす	松江市竹矢町	3R系
斐川町	斐川町環境学習センター	斐川町出西	その他
川本町	笹畑クリーンセンター	川本町川下	3R系
海士町	海士町清掃センター	隠岐郡海士町	その他
岡山県			
岡山県	岡山県環境保健センター	岡山市内尾	生活系
	岡山県自然保護センター	和気郡和気町	自然系
倉敷市	倉敷市環境監視センター	倉敷市福田町	その他
	倉敷市少年自然の家	倉敷市児島	自然系
	クルクルセンター	倉敷市児島	生活系
	倉敷科学センター	倉敷市福田町	その他
玉野市	玉野市リサイクルプラザ	玉野市槌ヶ原	3R系
	市立玉野海洋博物館	玉野市渋川	その他
総社市	鬼城山ビジターセンターウォーキングセンター棟	総社市黒尾	自然系
	そうじゃ水辺の楽校	総社市	自然系
	きよね水辺の楽校	総社市清音	自然系
備前市	日生鹿久居島古代体験の郷 まほろば	備前市日生町	その他
真庭市	津黒いきものふれあいの里	真庭市蒜山下和	自然系
	クリーンセンターまにわりサイクルプラザ	真庭市檜西	3R系
浅口市	浅口市リサイクルセンター	浅口市鴨方町	3R系
矢掛町	矢掛町クリーンハウス	矢掛町矢掛	生活系
広島県			
広島県	(財)広島県環境保全公社	広島市中区	その他
	広島県民の森 比婆の森	庄原市西城町	自然系
	もみのき森林公園	廿日市市吉和	自然系
	県民の浜	呉市蒲刈町	自然系
	中央森林公園	三原市本郷町	自然系
広島市	広島市西部リサイクルプラザ	広島市西区	3R系
	広島市中工場	広島市中区	3R系
呉市	農業公園 グリーンヒル郷原	呉市郷原	自然系
	恵みの丘蒲刈 農業公園	呉市蒲刈町	自然系
	野呂山ビジターセンター	呉市川尻町	自然系
福山市	福山市リサイクルプラザ エコローズ	福山市箕沖町	3R系
廿日市市	はつかいちリサイクルプラザ	廿日市市宮内	3R系
	おおの自然観察の森	廿日市市大野	自然系
山口県			
山口県	(財)山口県人づくり財団 環境学習推進センター	山口市秋穂	その他
	山口県立きらら浜自然観察公園	山口市阿知須	自然系
	秋吉台エコ・ミュージアム	美祿郡美東町	自然系
	つのしま自然館	下関市豊北町	自然系
	山口県21世紀の森	山口市宮野	自然系
下関市	下関市リサイクルプラザ しものせき環境みらい館	下関市古屋町	3R系
	豊田ホテルの里ミュージアム	下関市豊田町	自然系

	宇部市リサイクルプラザ	宇部市沖宇部	3R系
光市	山口市リサイクルプラザ	山口市大内	3R系
	防府クリーンセンター	防府市新田	3R系
徳島県	防府浄化センター	防府市新田	生活系
上勝町	岩国市リサイクルプラザ	岩国市平田	3R系
	野外活動センター 周防の森ロッジ	光市立野	その他
香川県			
香川県			
	徳島県立高丸山千年の森 ふれあい館	勝浦郡上勝町	自然系
	山の楽校あさひ	勝浦郡上勝町	自然系
	香川県環境保健研究センター	高松市朝日町	その他
	香川県立五色台少年自然センター自然科学館	坂出市王越町	自然系
	公測森林公園	高松市植田町	自然系
	満濃池森林公園	仲多度郡まんのう町	自然系
高松市	大滝大川県立自然公園センター	高松市塩江町	自然系
善通寺市	ドングリランドビジターセンター	高松市西植田町	自然系
直島町	香川県立五色台少年自然センター	高松市生島町	自然系
多度津町	香川県立屋島少年自然の家	高松市屋島東町	自然系
	高松市環境プラザ	高松市西宝町	生活系
愛媛県	未来クルパーク21	善通寺市原田町	3R系
愛媛県	なおしまスラグ陶芸体験工房	直島町宮ノ浦	生活系
松山市	多度津町リサイクルプラザ	仲多度郡多度津町	3R系
四国中央市	八幡の森ほたるの里	仲多度郡多度津町	自然系
愛南町			
高知県	愛媛県体験型環境学習センター えひめエコ・ハウス	松山市西野町	生活系
安芸市	まつやま Re・再来館	松山市空港通	生活系
福岡県	四国中央市クリーンセンター	四国中央市中ノ庄町	3R系
福岡県	篠山自然学習館	南宇和郡一本松町	自然系
福岡市	安芸市リサイクルプラザ	安芸市伊尾木	3R系
	平尾台自然観察センター	北九州市小倉	自然系
	福岡県保健環境研究所	大宰府市向佐野	その他
大牟田市	まもるーむ福岡	福岡市中央区	生活系
	福岡市臨海リサイクルプラザ エコネットふくおか	福岡市東区	3R系
	福岡市西部リサイクルプラザ	福岡市西区	3R系
直方市	油山自然観察の森	福岡市南区	自然系
飯塚市	大牟田市エコサンクセンター	大牟田市健老町	生活系
	大牟田市東部環境センター	大牟田市大浦町	3R系
	大牟田市リサイクルプラザ	大牟田市健老町	3R系
	遠賀川水辺館	直方市溝堀	自然系
	飯塚市リサイクルプラザ工房棟	飯塚市吉北	3R系
福津市	わかたけ広場 福津市野外活動広場	福津市手光	自然系
	大峰山キャンプ場	福津市渡	自然系
	本木川自然公園 ほたるの里	福津市本木	自然系
	あんずの里運動公園	福津市勝浦	自然系
那珂川町	エコピアなかがわ	筑紫郡那珂川町	3R系

志摩町	糸島クリーンセンター リサイクルプラザ	糸島郡志摩町	3R系
大木町	おおき循環センター くるるん	三潞郡大木町	3R系
	大木町リサイクルセンター	三潞郡大木町	3R系
	石丸山公園 クリーク資料館	三潞郡大木町	自然系
築上町	築上町リサイクルプラザ	築上郡築上町	3R系
佐賀県			
佐賀市	佐賀市エコプラザ	佐賀市高木瀬町	3R系
長崎県			
長崎県	長崎県環境保健研究センター	大村市池田	その他
佐世保市	させぼエコプラザ	佐世保市戸尾町	生活系
壱岐市	壱岐市勝本町クリーン&リサイクルセンター	壱岐市勝本町	3R系
	壱岐市芦辺町クリーンセンター	壱岐市芦辺町	3R系
	壱岐市リサイクルセンター	壱岐市郷ノ浦町	3R系
五島市	ビジターセンター	五島市野々切町	自然系
南島原市	エコ・パーク論所原	南島原市北有馬町	その他
鹿町町	鹿町町 海と島の自然体験館	北松浦郡鹿町町	自然系
熊本県			
熊本県	熊本県環境センター	水俣市明神	その他
熊本市	リサイクル情報プラザ	熊本市戸島町	3R系
	熊本市環境総合センター	熊本市画図町	生活系
	熊本市森林学習館	熊本市貢町	自然系
八代市	八代市清掃センター	八代市中北町	3R系
宇城市	宇城広域清掃施設組合リサイクルプラザ	宇城市松橋町	3R系
阿蘇市	大阿蘇環境センター 未来館	阿蘇市跡ヶ瀬	3R系
長洲町	リサイクルプラザファイブ	玉名郡長洲町	3R系
植木町	山鹿植木広域行政事務組合 リサイクルプラザ	鹿本郡植木町	3R系
嘉島町	リバーパーク 鯨の学校	上益城郡嘉島町	自然系
大分県			
中津市	中津市クリーンプラザ	中津市蛸瀬	3R系
竹田市	竹田市清掃センター	竹田市荻町	3R系
	竹田市衛生センター	竹田市片ヶ瀬	3R系
宮崎県			
宮崎県	宮崎県環境情報センター	宮崎市船塚	その他
宮崎市	大淀川学習館	宮崎市下北方町	自然系
	エコクリーンプラザみやざき	宮崎市大瀬町	3R系
延岡市	リサイクルプラザ ゲン丸館	延岡市長浜町	3R系
	延岡植物園	延岡市天下町	自然系
鹿児島県			
鹿児島県	生命と環境の学習館	鹿児島市山下町	その他
鹿児島市	鹿児島市リサイクルプラザ	鹿児島市犬迫町	3R系
日置市	日置市クリーンリサイクルセンター	鹿児島市入佐町	3R系
沖縄県			
沖縄県	沖縄県地域環境センター	那覇市泉崎	その他
那覇市	那覇市リサイクルプラザ	那覇市南風原町	3R系
	那覇市立森の家みんな	那覇市首里儀保町	自然系
浦添市	浦添市リサイクルプラザ ドリーム21	浦添市勢理客	3R系
豊見城市	漫湖水鳥・湿地センター	豊見城市豊見城	自然系
本部町	本部町・今帰仁村清掃施設組合	国頭郡本部町	3R系

環境教育の現状・環境学習施設についての調査

このアンケートはPART 1とPART 2に分かれています。PART1では、環境教育の現状・環境学習施設の概要について伺います。PART 2は、貴自治体にある環境学習施設のそれぞれについて、その現状についてお尋ねしています。PART 2については、各施設のご担当者にご確認の上ご記入をお願いします。

お問い合わせは、環境学習施設ネットワーク（ELCNet）にご連絡ください（電話 03-3580-8284 担当 碓、佐久間、Eメール research@elcnet.org）。

この調査票のワード版は、次のHPでダウンロードできます <http://www.elcnet.org/research1.html>。

ご回答は、11月22日(水)までに環境学習施設ネットワークまでご返送ください。なお、ワード版の調査票をお使いの場合で、添付していただく資料がない場合には、電子メールでご返送ください。

返送先住所： 〒105-0003 東京都港区西新橋 2-11-5

TKK 西新橋ビル 3階

環境学習施設ネットワーク（ELCNet）事務局（株）ダイナックス都市研究所内

メールアドレス research@elcnet.org

PART 1

貴自治体名	人口	市町村コード*
住所 〒 ー		
貴部署名	ご記入者名	
電話	FAX	
E-mail :		

*「全国地方公共団体コード」をご記入ください。

【環境教育の現状について】

問1 貴市町村では、環境教育・環境学習に関する条例・基本方針・計画等は独自に制定されていますか。

- ① はい
- ② いいえ

問2 一般住民に対しての環境教育を貴市町村独自で行っていますか（出前授業等）。

- ① はい
- ② いいえ

問3 環境学習に関する教育プログラムを貴市町村独自で制作していますか。

- ① はい
- ② いいえ

問4 住民に対して環境教育を行う場合、環境教育プログラムや環境教育教材があれば利用しますか。

- ① はい
- ② いいえ

【環境学習施設の概要について】

※ここでいう環境学習施設は、貴市町村の管理下にある（第三セクター等を含む）以下の諸施設をいいます。

- 1) リサイクルプラザ（ごみ処理工場・再資源化施設と併設された啓発・学習・交流施設）
- 2) リサイクルプラザ以外のリサイクル・環境保全の啓発・学習・交流施設
- 3) 自然公園等のビジターセンター等、自然への理解、環境保全のための啓発・学習・交流施設
- 4) その他、環境に関する啓発・学習・交流のための施設。

社会教育法に基づく公民館、博物館法に基づく博物館は原則として含みませんが、環境学習施設としての実態があり、貴市町村が環境学習施設としての位置づけを与えている場合には、「4)その他」に含めます。

問5-1 貴市町村の環境学習施設についてお尋ねいたします。貴市町村には環境学習施設はありますか。

- ① ある
- ② ない ⇒ 問7をご回答の上、ご返送ください。

問5-2 前問で「①ある」と答えた方にお尋ねいたします。貴市町村にある環境学習施設の名称等を記入してください。（複数箇所ある場合はすべて記入してください。書ききれない場合は別紙に記入してください）。

施設の名称	タイプ❖	所管課	施設の住所、電話・FAX
			住所
			電話/FAX
			住所
			電話/FAX
			住所
			電話/FAX
			住所
			電話/FAX

❖ 環境学習施設のタイプ 1) リサイクルプラザ、2) リサイクルプラザ以外のリサイクル・環境保全の啓発・学習・交流施設、3) 自然への理解、環境保全のための啓発・学習・交流施設、4) その他の施設

問6-1 貸し出し用の良い展示物があれば、活用したいと思いますか？

- ① 質が良ければ多少の負担金を払っても借りたいと思う
- ② 無料なら借りたいと思う
- ③ あまり活用したいと思わない

問6-2 プログラムの共同開発 他の自治体と共同して開発することにより、高い質のプログラムを開発することができるのであれば、展示物の共同開発に参加したいと思いますか？

- ①参加したいと思う
- ②状況によって検討する
- ③わからない
- ④あまり参加したいと思わない

問7 貴市町村では、今後環境学習施設を整備する予定がありますか。

- ① ある ② ない

問7-2 前問で「ある」と回答した場合、現在、以下のどの段階ですか。

- ① 準備段階
② 構想段階
③ 計画段階
④ 設計段階
⑤ 建設段階

(既存の資料があれば添付してください。)

問8 地域住民やNPO等の運営への参加は需要だと思いますか。ひとつ選んでください。

- ① とても重要だと思う
② 重要だと思う
③ あまり重要だと思わない
④ 重要だと思わない

問9 環境学習施設の運営についてご意見がありましたら、ご自由にお書きください。

問 10-12 施設テーマは何ですか？主たるテーマひとつに◎をつけ、従たるテーマがあれば○をつけてください。

- ① リサイクル
- ② 地球環境
- ③ 地域環境
- ④ 日々の生活のありかた
- ⑤ 自然・緑
- ⑥ その他()

2、施設の運営について

問 11 施設の運営はどのようにしていますか。

- ① 直営である
- ② 指定管理者制度で民間に委託している

問 12 施設の運営に住民やNPOはどのように関わっていますか。ひとつ選んでください。

- ① 運営主体として関わっている
- ② 学習会やイベント時に協力してもらっている
- ③ 特に関わってもらっていない
- ④ その他()

問 13 運営の課題は何ですか。該当するのものを3つまで選んでください。

- ① 予算、人員の不足している
- ② 来訪者数の伸び悩んでいる
- ③ 施設の在り方について情報が足りない
- ④ 立地がわるい
- ⑤ 施設が狭い、古い
- ⑥ 展示物がマンネリになっている
- ⑦ 地域住民やNPOの協力がなかなか得られない
- ⑧ 利用者のニーズがわからない
- ⑨ 所管課との連携がうまく行かない
- ⑩ 民間企業等との協力が難しい
- ⑪ 他の環境学習施設との協力が足りない
- ⑫ 住民やNPOのコーディネーターが難しい
- ⑬ その他の課題()
- ⑭ 特になし

3、事業について

問 14 事業内容 主な事業についてお答え下さい。該当するものすべてに○をつけてください。

- ① 手芸（機織など）・
- ② 廃油石鹸、牛乳パックから紙すき、リフォーム等、廃品を使った工作等の教室
- ③ 動植物に関連する講座、自然観察会
- ④ 街歩きやマップづくりを取り入れた地域環境について考える講座
- ⑤ 展示を用いた解説・館内案内
- ⑥ インタープリター養成やリーダー養成のための講座
- ⑦ 講師を招いた聴講形式の講演会
- ⑧ 各種活動・事業の先進事例の見学会
- ⑨ 映画等の上映
- ⑩ 図書館、資料室等の情報提供
- ⑪ 学校等への講師の派遣
- ⑫ 地域の環境関係団体のコーディネート
- ⑬ リサイクル事業、フリーマーケットやリサイクル品の販売
- ⑭ 教室や会議室等、地域住民やNPOへの活動スペースの提供
- ⑮ 環境問題についての相談
- ⑯ 副読本等の教材の作成
- ⑰ その他（具体的に教えてください）
()
()

4、展示について

問 15 主な常設展示関連品について該当するものすべてに○をつけてください。

- ① パソコン
- ② 専用パソコンソフト
- ③ ビデオ
- ④ パネル
- ⑤ 固定の大型展示品（具体的に)
- ⑥ 手にとって見る展示品（具体的に)
- ⑦ その他（具体的に)

*書ききれない場合は、既存資料（チラシ、展示物を紹介したパンフレットなど）を同封してください。

問 16 これまでに外部からの貸し出し展示物等を借り入れたりして使用したことがありますか？

- ① ある
- ② ない

問 17 他の施設に貸し出してもよいと思う展示物がありますか。ある場合には、具体的な内容を記入してください。

- ① ある（具体的に)
- ② ない

ご協力ありがとうございました。

- 産官学市民の知恵と力を合わせて環境学習施設の活性化を目指すネットワーク -

環境学習施設ネットワーク(ELCNet)について

Environmental Learning Centers' Network

1992年に開かれたリオの地球サミットで採択された「アジェンダ21」では、「教育は持続可能な開発を促進し、環境と開発の問題に対処する市民の能力を高めるうえで不可欠である」と謳われています。日本でも環境基本法で環境教育・環境学習の推進を定め、2003年には「環境の保全のための意欲の増進及び環境教育の推進に関する法律」が制定されています。

全国各地の地方自治体や国などによる環境学習の拠点作りも活発に行われ、今では数百を数えるまでになっています。しかし、開設当初こそ多くの来場者で賑わいますが、展示のリニューアルや学習会などのソフトの運営面に制約があることなどから、時が経つにつれて利用者は減少し、苦境に立たされている施設も少なくありません。

そこで、国連の「持続可能な開発のための環境教育の10年」(2005~2014年)のスタートを機に、産官学市民で幅広いネットワークをつくり、その知恵と力を集めて環境学習施設を活性化するための活動を行っていくことになりました。環境学習施設ネットワークでは、施設の運営に携わる関係者を横につないで経験やノウハウを共有するとともに、関係者が抱える課題を解決するため、単なる情報交換に留まらず既存の展示物や学習ツールを交換活用するしくみづくりを始め、アイデアと資金を持ち寄って共同で展示物を開発・巡回展示するプロジェクトなどを支援していきます。

活動の目的

様々な環境学習施設が持つ経験、ノウハウ、情報を共有化する。
環境学習施設関係者だけでなく、様々な分野の専門家やNPO、企業が知恵と力を集めて施設を活性化する。
環境学習施設のコアである展示物や学習ツールを相互に交換活用し、共同で開発・巡回活用するしくみをつくる。

組織

[会長] 会を代表する。
[世話人会] 世話人会を構成し、本会の運営に関する重要事項について意思決定を行う。
[アドバイザー] 専門的な立場から必要に応じ、又は本会の求めに応じて助言等を行う。
[会員] 会の趣旨に賛同して入会する個人、団体、法人
[事務局] 会の事務を処理する。

活動内容

ニュースレター・メールマガジンの発行
ホームページの開設・運用
全国シンポジウムの開催
定期的な研究会の開催
展示物や学習ツールの交換活用と共同開発支援
その他の活動

環境学習施設活性化のために必要な内外調査研究、共同キャンペーン、研修会の開催、人材の派遣などを行う。

会費

会員区分	会費
施設会員*	無料
自治体会員	無料
個人会員	一口3千円/年
企業会員	一口1万円/年(3口以上)
団体会員	一口1万円/年(1口以上)

*環境学習施設管理運営者で非営利組織に限る。

入会費納入先
三井住友銀行 日比谷支店 普通 8266179
イーエルシーネット ジムキョクチョウ サクマ シンイチ
E L C Net 事務局 長 佐久間 信一

活動内容

定例研究会	・2ヶ月に1回程度開催 ＜テーマ(例)＞ 環境学習施設の先進事例(ドイツ、スウェーデン等を含む)、関連他分野(科学、動物等)の先進事例、施設連携、巡回展示の手法開発、環境学習施設のマーケティング、環境学習施設と環境マネジメントシステム、環境学習施設と指定管理者制度、環境学習施設の評価手法 その他
シンポジウム	・ELCNetの活動成果の情報発信、環境学習施設にかかわる産官学市民の提携強化を図る(年1回)
ニュースレター	・ELCNetの活動状況、活動予定等の情報を会員に配布(当面季刊)
開発支援等	・環境学習施設間の相互活用システム等の開発支援(適宜実施)
委託事業	・調査研究等の委託に応じ実施する。
その他	・URLの開設、他団体の環境イベントやシンポへのELCNetとしての参加等 ・ELCNetの目的達成に資する事業

運営体制

会長

小澤紀美子(東京学芸大学教授、日本環境教育学会会長)

アドバイザー(50音順)

大黒栄二((社)日本環境教育フォーラム事務局長)

米村洋一(NPO 法人地域交流センター理事)

世話人(アイウエオ順)

阿蘇 紀夫(京(みやこ)エコロジーセンター事業長) 石原弘明(石原設計所代表) 板橋隆央(エクス
ーズ(株)代表取締役) 久保田学((財)北海道環境財団企画事業課長) 有坂幹朗(すぎなみ環境情報
館館長) 佐久間信一((株)ダイナックス都市環境研究所取締役副所長) 白井信雄(株)プレック研究所 持
続可能環境・社会研究センター長) 杉村悦子(エコライフめぐろ推進協議会事務局、目黒エコプラザ管理
責任者) 藤田成吉(東海大学教養学部人間環境学科教授) 増田達雄(名古屋市環境学習センター主
幹) 山村宣之(キリンビール(株)CSR・コミュニケーション本部社会コミュニケーショングループ社会環境室
長)

監査(アイウエオ順)

斎藤 隆(川に学ぶ体験活動協議会事務局長)

佐藤博之(グリーン購入ネットワーク事務局長)

事務局

環境学習施設ネットワーク事務局 (株)ダイナックス都市環境研究所内)

事務局長 佐久間信一 事務局員 石原弘明、板橋隆央、伊藤博隆、碓康雄

〒105-0003 東京都港区西新橋 2-11-5 TKK 西新橋ビル 3F

Tel: 03-3580-8221 Fax: 03-3580-8265 E-mail: info@elcnet.org URL: <http://www.elcnet.org/>

編集・発行

環境学習施設ネットワーク(ELCNet)

事務局 ダイナックス都市環境研究所内

〒105-0003

東京都港区西新橋2-11-5TKK 西新橋ビル3F

TEL 03 - 3580 - 8221

FAX 03 - 3580 - 8265

E-MAIL info@elcnet.org

URL <http://www.elcnet.org/>

無断転載を禁止します。
